

SilkCentral 管理モジュール 12.0



ヘルプ

Micro Focus
575 Anton Blvd., Suite 510
Costa Mesa, CA 92626

Copyright © 2012 Micro Focus. All rights reserved. SilkCentral Administration Module は Borland Software Corporation に由来する成果物を含んでいます, Copyright © 2012 Borland Software Corporation (a Micro Focus company).

MICRO FOCUS, Micro Focus ロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

2012-03-08

目次

SilkCentral 管理モジュール 12.0	7
入門	8
SilkCentral のアーキテクチャ	8
SilkCentral Test Manager 12.0	10
SilkCentral Issue Manager	10
アクセスとライセンス	10
アプリケーション サーバーを設定する	10
Microsoft IIS とのセキュアな接続を設定する	10
アプリケーション サーバーのロケーション	12
SilkCentral リポジトリ	13
新しいリポジトリを作成する	13
既存のリポジトリにアクセスする	14
リポジトリ ID	15
ALM URI	15
Microsoft SQL Server 2005 用に TCP/IP プロトコルを有効にする	16
SilkCentral リポジトリとの接続を解除する	16
[データベースの設定] ページ	16
システムの設定	19
[概要] ページの使用法	19
[概要] ページ	19
SSL による Web サーバーとのセキュアな接続	19
Microsoft IIS とのセキュアな接続を設定する	19
Tomcat Web サーバーのセキュアな接続を設定する	21
アプリケーション サーバーのロケーション	23
アプリケーション サーバーのロケーションを指定する	23
SilkCentral リポジトリ	24
新しいリポジトリを作成する	24
既存のリポジトリにアクセスする	25
リポジトリ ID	26
ALM URI	26
Microsoft SQL Server 2005 用に TCP/IP プロトコルを有効にする	27
SilkCentral リポジトリとの接続を解除する	27
[データベースの設定] ページ	27
初めてのログイン	29
初めてログインする	29
[ログイン] ページ	30
システム管理者アカウント	30
システム管理者アカウントのパスワードを変更する	30
チャート サーバーのロケーション	31
チャート サーバーを追加する	31
チャート サーバーを編集する	32
チャート サーバーを削除する	32
[チャート サーバー] ページ	32
LDAP 認証	33
SilkCentral LDAP 統合	33
LDAP 認証ロジック	33
LDAP サーバーを追加する	34
LDAP サーバーを編集する	34
LDAP サーバーをテストする	35
LDAP サーバーを削除する	35

[LDAP サーバー] ページ	35
[LDAP サーバーの新規作成] ダイアログ ボックス	36
SilkPerformer 負荷テスト エージェント クラスタ	37
負荷テスト エージェント クラスタ ファイルをアップロードする	37
負荷テスト エージェント クラスタ ファイルを削除する	37
負荷テスト エージェント クラスタ ファイルを編集する	38
[負荷テスト エージェント クラスタ] ページ	38
メール ホストのロケーション	38
メール ホストのロケーションを指定する	38
[通知] ページ	39
システム プロキシ	39
システム プロキシを設定する	39
[システム プロキシ] ページ	40
アプリケーションの設定	41
ユーザー ロールとアクセス許可	41
ユーザー ロール	41
アクセス許可の定義	44
ユーザー アカウントとグループ アカウント	48
ユーザー アカウントをメンテナンスする	48
グループ アカウントをメンテナンスする	51
プロジェクトを管理する	53
プロジェクトを追加する	53
プロジェクトとプロジェクト ベースラインを編集する	54
プロジェクトとプロジェクト ベースラインをアクティブまたは非アクティブにする	54
プロジェクトまたはプロジェクト ベースラインをコピーする	55
プロジェクトとプロジェクト ベースラインを削除する	55
[プロジェクトのコピー] ダイアログ ボックス	56
[プロジェクト設定] ページ	57
プロジェクト ベースライン	58
プロジェクトのベースラインを作成する	59
プロジェクト テンプレート	60
ロケーションを管理する	60
ロケーションを追加する	60
ロケーションを編集する	61
ロケーションを削除する	61
[ロケーションの新規作成] ダイアログ ボックス	62
実行サーバーを設定する	63
キーワードを用いたハードウェア プロビジョニング	63
物理実行サーバーを設定する	64
実行サーバーのキーワードを新規に作成する	64
実行サーバーにキーワードを割り当てる	65
実行サーバーをアクティブまたは非アクティブにする	66
実行サーバーを削除する	66
実行サーバーの標準ではない SSL ポートを設定する	67
[実行サーバーの新規作成/実行サーバーの編集] ダイアログ ボックス	67
VMware Lab Manager を操作する	69
Lab Manager 仮想構成	69
Lab Manager サーバーへのアクセスを設定する	69
Lab Manager で仮想実行サーバーを設定する	70
[VMware Lab Manager サーバー] ページ	70
レポート テンプレートを管理する	71
カスタム レポート テンプレートを BIRT で管理する	72
既存のレポート テンプレートを導入する	74
レポートのアクセス許可を設定および編集する	75

レポートテンプレートをダウンロードする	75
レポートテンプレートをアップロードする	76
レポートソースを更新する	76
レポートテンプレートを削除する	77
[レポートテンプレート] ページ	77
監査ログ	78
監査ログにアクセスして表示する	79
[監査ログ] ページ	79
サーバー ログ ファイル	79
サーバー ログ ファイルをダウンロードする	79
サーバー ログ ファイルを解析する	80
サーバー ログ ファイルを削除する	81
ログ ファイルの管理	81
[フロントエンド サーバー ログ] ページ	82
[アプリケーション サーバー ログ] ページ	83
[実行サーバー ログ] ページ	84
タスク管理ツールを統合する	85
Test Manager に VersionOne を統合する	86
製品とプラットフォームを管理する	86
ビルドを管理する	87
コンポーネントを管理する	88
プラットフォームを管理する	90
製品を管理する	92
バージョンを管理する	95
値リストをメンテナンスする	96
値リストを追加する	96
値リストを編集する	97
個別の値を編集する	97
値リストをアクティブまたは非アクティブにする	97
個別の値をアクティブまたは非アクティブにする	97
値リスト内で値をソートする	98
値リストを削除する	98
個別の値を削除する	98
[値リスト] 設定ページ	98
グローバル スケジュールを設定する	99
グローバル スケジュールを追加する	99
グローバル スケジュールを編集する	100
グローバル スケジュールをアクティブまたは非アクティブにする	100
グローバル スケジュールを削除する	100
スケジュールの除外期間を作成する	101
限定実行のスケジュールを作成する	101
[スケジュール] 設定ページ	101
ファイルプールを管理する	102
ブラウザからファイルをアップロードする	102
[ファイルプール] ページ	103
タイムゾーン	104
高度な設定	105
ログイン オプション	105
ログイン情報を保存するオプションを設定する	105
Cookie の有効期間を調整する	105
SilkCentral Service Manager を使用する	106
SilkCentral サービス	106
SilkCentral 実行サーバー	106
システム起動時にどの SilkCentral サービスを実行するかを管理する	107
全 SilkCentral サービスを起動、停止する	107

個別 SilkCentral サービスを起動、停止する	107
Windows プロセスとして SilkCentral 実行サーバーを起動する	108
SilkCentral Service Manager コンソールからログ ファイルを表示する	109
疑わしい実行時間	109
疑わしい実行時間を設定する	109
外部の問題統計の更新を無効にする	110
日時の書式	110
日時の書式をカスタマイズする	112
HTML 応答の圧縮	112
HTML 応答の圧縮の有効化/無効化を切り替える	112
ホスト名の表示	113
Web ブラウザのタイトルバーでホスト名の表示/非表示を切り替える	113
Ext メソッドを使った (PuTTY による) CVS リポジトリへのアクセス	113
Ext メソッドを使って (PuTTY を使って) CVS リポジトリへアクセスする	114
テストのデータ キャッシング	114
テストのキャッシュを使用するための JMX 測定	115
LQM Reporting Updater についての JMX 測定	116
LQM Reporting Updater を設定する	117
レポート更新間隔を設定する	117
LQM Reporting Updater を監視するための JMX 測定	118
JMX 設定の調整	119
実行サーバー ホスト名の解決	119
ホスト名解決のキャッシュを無効にする	120
Issue Manager 内の Test Manager のロケーションを設定する	120
実行サーバー上の使用されていないポートを無効にする	120
フロントエンド サーバー上の使用されていないポートを無効にする	121
MRU レポートの最大数を設定する	121
SilkCentral サーバーのメモリ設定	121
SilkCentral サーバーの Java ヒープ サイズを大きくする	122

SilkCentral 管理モジュール 12.0

SilkCentral 管理モジュール 12.0 へようこそ。

SilkCentral 製品スイートには、SilkCentral Issue Manager (Issue Manager) および SilkCentral Test Manager (Test Manager) のアプリケーションが含まれます。SilkCentral 製品を個別に、または組み合わせて使用することで、ソフトウェア開発プロセスの継続的かつ効率的な品質保証をサポートします。Web ベースの製品である Issue Manager および Test Manager は連携し、出荷およびライブポストイングへ向けて開発中の製品の準備が整っているかを、確かなデータを基に判断できるよう、ユーザーに必要な情報を提供します。これらの製品は次の項目について情報を提供します。

- 定義されている要件に対するテスト カバレッジおよび結果
- コンポーネントおよびシステムレベルのリスク評価指標
- 欠陥追跡および終了データ

製品またはシステムを本稼働化する担当者または担当グループにとって、この情報は必須です。

- Borland は、本製品のサポート提供についてパートナーである Micro Focus と提携しています。サポートについては、<http://support.microfocus.com/> にアクセスしてください。
- Borland へのお問い合わせは、<http://www.borland.com> を参照してください。

入門

このセクションでは、SilkCentral で作業する方法の概要について説明します。

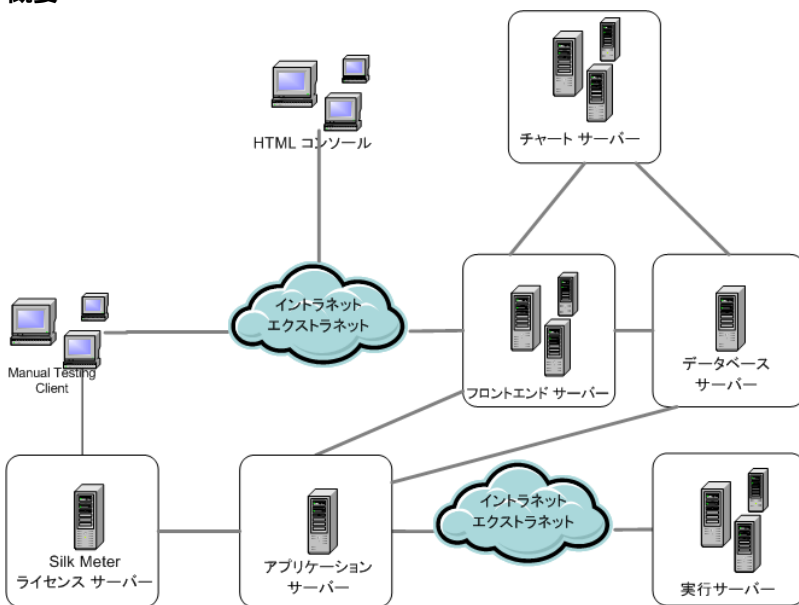
SilkCentral のアーキテクチャ

SilkCentral 製品群は、Web ベース製品の共通管理を可能にする SilkCentral アーキテクチャに基づいて構築されています。

以下の各セクションでは、SilkCentral のコンポーネントについて説明します。

- 概要
- フロントエンド サーバー
- アプリケーション サーバー
- 実行サーバー
- チャート サーバー
- データベース サーバー
- SilkMeter ライセンス サーバー
- Manual Testing Client

概要



フロントエンド サーバー

フロントエンド サーバーは、グラフィカル ユーザー インターフェイスを担当するものです。このサーバーは HTML をベースにしているため、Internet Explorer や Firefox など、任意の Web ブラウザからアクセスすることができます。ユーザーが適切な HTTP 要求をフロントエンド サーバーに送信すると、認証用のログイン ページが表示されます。ログインに成功すると、ユーザーは、それぞれのユーザー権限に応じたアプリケーションを使用できます。フロントエンド サーバーは、スタンドアロンの HTTP サーバーとして動作することも、Web サーバー（たとえば、ISAPI フィルタを介した IIS など）に接続することもできます。フロントエンド サーバーはポート 19120 を使用します。SSL を使用したセキュアな接続では、ポート 443 も使用します。

アプリケーション サーバー

アプリケーション サーバーは、スケジュールの配布、実行サーバーの制御、データベース構成の管理などのタスクを同期させる働きをします。これらのタスクには、アプリケーション動作の一貫性と信頼性を確保するための仲介役が中央に必要です。また、アプリケーション サーバーは、結果を評価して、それをデータベースに保存し、成功条件に基づいて警告を送信することも行います。アプリケーション サーバーは、ポート 19122 を使用します。

実行サーバー

実行サーバーは、権限のあるユーザーによってスケジュールされた自動テストを実行します。ユーザーは、テスト実行に必要な実行サーバーと追加リソースを適切に設定しなければなりません。互いに独立に動作する複数の実行サーバーをインストールし設定することも可能です。実行サーバーはポート 19124 を使用します。SSL を使用したセキュアな接続では、ポート 19125 も使用します。

チャート サーバー

チャート サーバーは、レポートに掲載するグラフの生成に使用されます。チャート サーバーのプールを設定することができます。組み込みの負荷分散メカニズムでは、このプールを使用してグラフ生成処理を分散させます。チャート サーバーはまた、レポートの生成とエンドユーザーへの直接配信にも使用され、エンドユーザーは配信されたレポートをブラウザで閲覧することができます。チャート サーバーは、ポート 19126 を使用します。

データベース サーバー

システムの永続性は、RDBMS (リレーショナルデータベース管理システム) を使って実装されています。データベース サーバーは、ポート 1433 と 1521 を使用します。

SilkMeter ライセンス サーバー

ユーザーがアクセス可能な SilkCentral アプリケーション機能は、Silk 製品に付属するライセンス管理ソフトウェアである SilkMeter により決定されます。ライセンス管理の詳細については、製品のインストールガイドを参照してください。SilkMeter はポート 5461 を使用します。

Manual Testing Client

Manual Testing Client を利用することにより、テスト担当者はインターネット接続しなくても自分のテストを管理し、その結果を追跡することができます。Manual Testing Client は、Test Manager が提供する主な手動テスト実行機能を、Windows ベースのクライアント ツールの形で提供します。

エージェント コンピュータ

SilkPerformer と SilkTest Classic のエージェント コンピュータは、コントローラ コンピュータで使用できるエージェント コンピュータのプールから、特定の SilkPerformer または SilkTest Classic プロジェクトに割り当てられます。Test Manager と組み合わせると、コントローラ コンピュータは実行サーバーの機能を果たします。

SilkPerformer エージェント SilkPerformer エージェント コンピュータは、負荷テスト時に実行される仮想ユーザーのホストになります。必要な数の仮想ユーザーを実行できるように、エージェント コンピュータをいくつでも必要なだけ SilkPerformer プロジェクトに追加できます。エージェントの構成は、SilkPerformer を通じて行います。エージェントの設定の詳細については、SilkPerformer のドキュメントを参照してください。

SilkTest Classic エージェント SilkTest Classic エージェントが SilkTest Classic テストのホストとなる以外は、SilkTest Classic エージェントにも、SilkPerformer エージェントと同じルールが適用されます。

SilkCentral Test Manager 12.0

SilkCentral® Test Manager™ (Test Manager) は、強力な包括的なソフトウェアテスト管理ツールです。Test Manager を使用してユーザーのテストプロセスの品質および生産性を高めることにより、アプリケーション障害のリスクを低減しつつ、良好なソフトウェアプロジェクトをより迅速に提供できます。本製品は、あらゆる重要なソフトウェアテストフェーズを、スケーラブルな Web ベースの単一テストシステム上に統合しています。これにより、ローカルそして各地に分散したソフトウェア開発チームは、経験やリソース、そして重要な情報を共有することができます。

SilkCentral Issue Manager

SilkCentral の問題追跡ツールである SilkCentral Issue Manager (Issue Manager) は、Test Manager と完全に統合されており、問題をシステム要件および実行されたテストと相互に関連付けることができます。

テスト問題は、**テスト > 詳細ビュー > 問題**のメニューで、追加および管理できます。さらなる情報については、『Issue Manager ドキュメント』を参照してください。



注: StarTeam と IBM Rational ClearQuest も Test Manager でサポートされており、特別な設定をせずにそのまま使用できます。カスタムプラグインをインストールすることにより、その他の問題追跡システムを構成することができます。詳細については、『Test Manager API ヘルプ』を参照してください。

アクセスとライセンス

ユーザーがアクセス可能な SilkCentral アプリケーション機能は、Silk 製品に付属するライセンス管理ソフトウェアである SilkMeter により決定されます。ライセンスの詳細については、それぞれの製品のインストール手順を参照してください。

アプリケーションサーバーを設定する

SilkCentral アプリケーションをインストールしたら、このソフトウェアでの作業を始める前に、システム管理者が実行しなければならない初期ステップがいくつかあります。このセクションのトピックでは、必要な各ステップについて説明します。



注: このセクションで説明する操作を実行するには、管理者としてログインする必要があります。


Microsoft IIS とのセキュアな接続を設定する

SSL (Secure Sockets Layer) を通じて SilkCentral を使用するには、先に、認証機関から証明書を入力し、インターネット インフォメーション サービス (IIS) に証明書を適用する必要があります。


SSL を使用するための証明書を申請する

SSL を使用するための証明書を申請するには :

1. **スタート > プログラム > 管理ツール > インターネット サービス マネージャ** (Windows 2003 の場合は **スタート > プログラム > 管理ツール > インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ**) を選択して、**インターネット インフォメーション サービス ダイアログ ボックス**を開きます。


 **ヒント:** 管理ツール メニューが表示されない場合は、**スタート > 設定 > コントロールパネル** を選択し、**管理ツール** アイコンをダブルクリックします。 **インターネット インフォメーション サービス** アイコン (Windows 2003 の場合は **インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ**) をダブルクリックします。 ホスト コンピュータの名前と、展開可能なツリー ビューが表示されます。

2. コンピュータ名の横のプラス (+) 記号をクリックして、ツリー ファイルを展開します。
3. **インターネット インフォメーション サービス** ダイアログ ボックスで、**既定の Web サイト** を右クリックして、**プロパティ** を選択します。

 **ヒント:** Windows XP または Windows 2003 を実行している場合は、**Web サイト** ツリーを展開します。 次に、**既定の Web サイト** を右クリックして、**プロパティ** を選択します。

既定の Web サイトのプロパティ ダイアログ ボックスが表示されます。

4. **ディレクトリ セキュリティ** タブをクリックします。
5. **ディレクトリ セキュリティ** ダイアログ ボックス下部の鍵グラフィックの横にある **サーバー証明書** をクリックします。 **Web サーバー証明書ウィザードの開始** が表示されます。
6. **次へ** をクリックします。
IIS 証明書ウィザード が表示され、Web サイトに証明書を割り当てるためのオプションが示されます。
7. **証明書の新規作成** を選択し、**次へ** をクリックします。

 **注:** 証明書が既にインストールされている場合は、「現在インストールされている証明書をどのように処理しますか?」と尋ねるプロンプトがダイアログ ボックスに表示されます。 このダイアログ ボックスが表示される場合は、このセクションの残りのステップを省略します。

8. 新しい証明書を作成します。
詳細については、「SSL を使用するための新しい証明書を作成する」を参照してください。

SSL を使用するための新しい証明書を作成する

 **注:** 新しい証明書を作成するには、最初に「SSL を使用するための証明書を申請する」で説明されているステップを実行する必要があります。

新しい証明書を作成するには :

1. **IIS 証明書ウィザード/証明書の要求の送信方法** ダイアログ ボックスで **次へ** をクリックするか、または要求をいつ送信するかを選択します。 **IIS 証明書ウィザード/名前とセキュリティの設定** ダイアログ ボックスが表示されます。
2. **名前** テキスト ボックスに、適当な名前を入力します。
通常は、証明書を要求するコンピュータの名前です。
3. **ビット長** テキスト ボックスで値を指定します。
デフォルト長の **512** のままにするか、**1024** をリスト ボックスから選択します。 ビット長を大きくするとセキュリティは向上しますが、パフォーマンスが低下する可能性があります。
4. **次へ** をクリックします。 **IIS 証明書ウィザード/組織に関する情報** ダイアログ ボックスが表示されます。
5. **組織** の名前を入力し、コンピュータが属する **部門** (QA など) を入力します。
6. **次へ** をクリックします。 **IIS 証明書ウィザード/サイトの一般名** ダイアログ ボックスが表示されます。
7. サイトまたはコンピュータの名前を入力し、**次へ** をクリックします。 **IIS 証明書ウィザード/地理情報** ダイアログ ボックスが表示されます。
8. コンピュータまたは組織が存在する場所に関連する地理情報を入力し、**次へ** をクリックします。 **IIS 証明書ウィザード/証明書要求ファイル名** ダイアログ ボックスが表示されます。
9. 証明書を格納するファイルの名前を入力し、**次へ** をクリックします。 **IIS 証明書ウィザード/要求ファイルの概要** ダイアログ ボックスが表示されます。 入力したすべての情報が表示されます。
10. 情報が正しくない場合は、**戻る** をクリックして戻り、情報を変更します。 情報が正しい場合は、**次へ** をクリックして続行します。 **IIS 証明書ウィザードの完了** ダイアログ ボックスが表示され、ウィザード

ドが完了したことが示されます。このダイアログ ボックスでは、証明書を入手するためにファイルに対して行う必要のある処理に関する説明が提供されます。ダイアログ ボックスの指示に従うか、またはシステム管理者に依頼します。

証明書を IIS に適用する

証明書要求に対する応答を受け取っていて、証明書を格納したファイルがあれば、証明書を IIS に適用できます。詳細については、「SSL を使用するための証明書を申請する」を参照してください。

証明書を IIS に適用するには：

1. **スタート > プログラム > 管理ツール > インターネット サービス マネージャ** (Windows 2003 の場合は **スタート > プログラム > 管理ツール > インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ**) に移動します。



ヒント: 管理ツール メニューが表示されない場合は、**スタート > 設定 > コントロール パネル** を選択し、**管理ツール** アイコンをダブルクリックします。 **インターネット インフォメーション サービス** アイコン (Windows 2003 の場合は **インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ**) をダブルクリックします。

2. **既定の Web サイト** が表示されるまで、ツリーを展開します。
3. **既定の Web サイト** を右クリックして、**プロパティ** を選択します。 **既定の Web サイトのプロパティ** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **既定の Web サイトのプロパティ** ダイアログ ボックスの **ディレクトリ セキュリティ** タブをクリックします。
5. ダイアログ ボックス下部の鍵アイコンの横にある **サーバー証明書** オプションをクリックします。 **Web サーバー証明書ウィザードの開始** が表示されます。
6. **次へ** をクリックします。 **IIS 証明書ウィザード** が表示され、保留中の要求を処理するためのオプションが表示されます。
7. **保留中の要求を処理し、証明書をインストールする** を選択します。 **次へ** をクリックします。 **IIS 証明書ウィザード/保留中の要求を処理** ダイアログ ボックスが表示されます。
8. 認証機関の応答 (認証機関から直接送られてきた証明書、またはシステム管理者から受け取った証明書) がある場所を入力します。 **次へ** をクリックします。
IIS 証明書ウィザード/証明書の概要 ダイアログ ボックスが表示され、証明書に関する情報が示されます。
9. **次へ** をクリックして証明書をインストールします。 **IIS 証明書ウィザード/Web サーバー証明書ウィザードの完了** が表示されます。
- 10 **完了** をクリックすると、処理が完了します。
- 11 **OK** をクリックして **認証** を閉じます。 **OK** をクリックして、**既定の Web サイトのプロパティ** ダイアログ ボックスを閉じることもできます。

SSL 用の IIS の設定が完了したので、SSL を通じて SilkCentral にセキュアな接続を確立できます。

アプリケーション サーバーのロケーション


アプリケーション サーバーは、スケジュールの配布、実行サーバーの制御、データベース構成の管理などのタスクを同期させる働きをします。 SilkCentral アプリケーションを使用するには、先に、アプリケーション サーバーのロケーションを指定するか。

アプリケーション サーバーのロケーションを指定する

SilkCentral アプリケーションのインストール時に **標準セットアップ** オプションを使用した場合は、アプリケーション サーバーのロケーションを指定する必要はありません。 **セットアップ** で localhost がアプリケーション サーバーとして自動的に設定されます。 その場合は、この手順を省略できます。 **セットアップ** オプションの詳細については、アプリケーションのインストール手順を参照してください。

アプリケーション サーバーのロケーションを指定するには：

1. SilkCentral ソフトウェアがインストールされたら、Web ブラウザを使用して SilkCentral に接続します。

 **ヒント:** ISAPI Web サーバーをインストールした場合は、URL として `http://<Web-server-name>/login` を使用します。スタンドアロン Web サーバーをインストールした場合は、URL として `http://<Web-server-name>:19120/login` を使用します。スタンドアロン Web サーバーでは、デフォルトでポート 19120 が使用されます。

アプリケーション サーバーの接続がまだ定義されていないことを伝える確認メッセージが表示されます。

2. アプリケーション サーバーの **ホスト** または **IP アドレス** と **ポート** を入力します。
アプリケーション サーバーは、SilkCentral のアプリケーション サーバー コンポーネントをインストールしたコンピュータです。デフォルトのポート番号は 19122 です。
3. **ログイン** をクリックして次に進みます。指定した情報が正しく、それぞれのコンピュータでインストールされているソフトウェアが稼働している場合は、ログイン ページに戻り、「Application server connected successfully」というメッセージが表示されます。

データベース管理 ページが表示されます。

SilkCentral リポジトリ

"データベース" と "リポジトリ" という用語は同じ意味で使われることがありますが、一般にリポジトリは、データの集まりが一元的に保存され管理される場所と定義されています。SilkCentral の概念モデルは、アプリケーション データが格納されるデータ リポジトリの概念モデルです。


SilkCentral 製品群でデータの格納、管理、分析のために使用されるデータベースがリポジトリです。最初に、リポジトリに使用するデータベース システムを選択し、SilkCentral の GUI で、リポジトリにアクセスするために必要な手順を実行する必要があります。SilkCentral 製品群で作業を行うには、リポジトリに接続する必要があります。

複数のリポジトリをセットアップすることもできますが、一度にアクティブにできるリポジトリは 1 つだけです。


新しい SilkCentral データベースに接続するには、まず現在のデータベースから切断しなければなりません。

 **注:** データベースに接続していない状態で SilkCentral を使用しようとする、エラー メッセージが表示されます。

データベースの切断が必要な管理タスクは、ユーザーのいない時間帯に実行することをお勧めします。それができない場合は、システムを停止することとその期間について、ユーザーに必ず通知してください。


 **注:** LDAP 認証を使用しない場合、ユーザー アカウントはリポジトリに保存されます。複数のリポジトリを使用する場合は、リポジトリごとに別々にユーザー アカウントを管理する必要があります。

新しいリポジトリを作成する

 **注:** 現在 SilkCentral リポジトリに接続している場合、新しいリポジトリを作成する前にリポジトリから切断する必要があります。

新しいリポジトリを作成するには :

1. 既に SilkCentral アプリケーション サーバーをセットアップしてある場合、ブラウザ ウィンドウに **データベース管理** ページが表示されます。この場合、この手順のステップ 3 に進みます。

 **ヒント:** または、Web ブラウザで SilkCentral サイトを参照してもかまいません。デフォルトの URL は `http://<computer name>:<port>/login` です。SilkCentral のインストール時に標準

セットアップ オプションを使用した場合は、アプリケーションに接続するとすぐに **データベース管理** ページが表示されます。フロントエンド サーバーがインストールされているコンピュータで、**スタート > プログラム > Silk > SilkCentral > Test Manager 12.0 > Test Manager Home Page** を選択してもかまいません。

2. まだログインしていない場合は、ログインします。

ユーザー名 と **パスワード** のデフォルト値は、どちらも admin です。

3. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。

4. **データベース** タブをクリックします。

5. 新しいデータベースの情報を入力し、**接続** をクリックします。

データベースを作成できる環境は、ローカルにインストールされた Microsoft SQL Server 2008 Express、ローカルにインストールされた Microsoft SQL Server または Oracle、あるいは Microsoft SQL Server または Oracle がインストールされているネットワーク サーバーです。SilkCentral では、次のものがサポートされています。

- Microsoft SQL Server 2005 サービス パック 3
- Microsoft SQL Server 2005 サービス パック 2
- Microsoft SQL Server 2008 R2
- Oracle 10g (バージョン 10.2.0.5)
- Oracle 11g (バージョン 11.2.0.2)



ヒント: 個々の接続設定の詳細については、「[データベースの設定] ページ」を参照してください。

データベースの作成 ダイアログ ボックスが表示されます。

6. 新しいデータベースを作成するには、データベース管理者としてログインします。

評価セットアップ パッケージを使用して SilkCentral をインストールした場合、**ユーザー名** テキスト ボックスに sa と入力し、**パスワード** テキスト ボックスに SilkCentral12!34 と入力して、**OK** をクリックします。



ヒント: ローカルで (またはネットワークで) Microsoft SQL Server データベースまたは Oracle データベースを作成している場合は、データベース管理者から提供されたログイン情報を入力した後、**OK** をクリックします。



注: この処理には最大数分かかることがあります。

7. **ALM リポジトリ ID の作成** ダイアログ ボックスの **ALM リポジトリ ID** テキスト ボックスに一意のリポジトリ ID を入力し、**OK** をクリックします。

8. **メッセージ** ダイアログ ボックスが表示され、ローカル コンピュータで検出されて自動的にシステム構成に追加されたサーバーが通知される場合があります。**OK** をクリックして、このダイアログ ボックスのメッセージを了解します。「localhost を実行サーバーとして定義できませんでした」という警告メッセージが表示される場合は、実行サーバーを手動で構成する必要があります。

9. リポジトリが正常に作成されたことが通知されます。**OK** をクリックして、メッセージを了解します。ログイン ページが表示されます。

- 10 **標準のユーザー名** と **パスワード** を使用してログインします。

デフォルトは admin/admin です。データベース管理者としてログインしないでください。現在接続しているデータベースに関する情報は **管理 > システム設定 > データベース** に表示されますが、利用可能な他のデータベースについては SilkCentral ユーザー インターフェイスのどこにも表示されません。後で必要になったときのために、データベース名をメモしておく必要があります。

これで、システムは使用できる状態になりました。


既存のリポジトリにアクセスする

既存のリポジトリにアクセスするには：

1. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
2. **データベース** タブをクリックします。
3. リポジトリに既に接続している場合は、**切断** をクリックします。現在のリポジトリとの接続を本当に切断するのかどうかを確認するダイアログ ボックスが表示されます。**はい** をクリックして、接続を解除します。
4. データベースの情報を入力または確認した後、**接続** をクリックします。
個々の接続設定の詳細については、「[データベースの設定] ページ」を参照してください。
5. リポジトリに ALM リポジトリ ID がない場合は、**ALM リポジトリ ID の作成** ダイアログ ボックスが表示されます。**ALM リポジトリ ID** テキスト ボックスに一意のリポジトリ ID を入力し、**OK** をクリックします。
6. データベース接続が確立すると、**確認メッセージ**が表示されます。**OK** をクリックして、メッセージを了解します。SilkCentral のログイン ページが表示されます。
7. SilkCentral にログインします。ログインすると、SilkCentral にアクセスできます。
ユーザー名とパスワードのデフォルト値は両方とも admin です。

リポジトリ ID

各 Test Manager リポジトリには、一意のリポジトリ ID が割り当てられている必要があります。この ID は、Test Manager の要件やテスト を複数の Test Manager リポジトリにわたって一意に識別するために、ALM URI で使用されます。リポジトリ ID は、会社の Test Manager インストールの中で一意でなければなりません。与えられたリポジトリ ID は、ALM URI の一部になります。ALM URI の詳細については、「ALM URI」を参照してください。説明的な ID を使用することをお勧めします。たとえば、USCA01 (USA、California、リポジトリ #01)、GEBE02 (Germany、Berlin、リポジトリ #02) などです。ID として使用できる文字は、英文字、数字、ピリオド (.)、マイナス (-) です。ID の文字数は、1 ~ 20 文字でなければなりません。

 **注意:** リポジトリ ID は、一度設定したら変更することはできません。

ALM URI

リポジトリ ID は、ALM URI (Application Lifecycle Management Uniform Resource Identifier) の一部になります。ALM URI は、ALM サーバー プラットフォーム内の要素のアドレスを指定する手段を提供します。これにより、アプリケーション間で要素を識別したり追跡することが可能になります。また、ALM URI は、Test Manager の要件やテスト を複数の Test Manager リポジトリにわたって一意に識別するために使用されます。

ALM 要素の URI の構文は次のとおりです。

```
<ALM URI> = alm://<source project>/<source element path>[?<source version>]  
<source project> = <source type>!<project identity>
```

Test Manager の場合は <source type> = sctm です。Issue Manager の場合は <source type> = scim です。

プロジェクト ID は次のように作成されます。

```
<project identity> = <repository ID>_<project ID>
```

<repository ID> は、Test Manager と Issue Manager の各リポジトリに対して一意の ID です。各リポジトリは、そのリポジトリ内に保存される一意の ID を生成します。ID の一意性は、インストール済みのすべてのリポジトリで保証されます。<project ID> は、Test Manager または Issue Manager プロジェクトの ID です。この ID は、各リポジトリのコンテキスト内で一意です。

ソース要素パスは次のとおりです。

Test Manager と Issue Manager については、成果物の参照に次の構文が使用されます。

Test Manager のネイティブ要件（外部の要件管理システムにリンクされていない要件）では、次の構文が使用されます。

```
<source element path> = /<requirement ID>;ns=requirement
```

Test Manager のテストでは、次の構文が使用されます。

```
<source element path> = /<test ID>;ns=test
```

Test Manager および Issue Manager の問題では、次の構文が使用されます。

```
<source element path> = /<issue ID>;ns=issue
```

ALM URI の例：

```
alm://sctm!USCA01_23/602;ns=test
```

Test Manager リポジトリは USCA01、プロジェクト ID は 23、要素 ID は 602、要素タイプは test です。

Microsoft SQL Server 2005 用に TCP/IP プロトコルを有効にする

Microsoft SQL Server 2005 を使用している場合は、TCP/IP プロトコルを使用するように SQL Server を設定する必要があります。別のデータベースシステムを使用している場合は、この手順を省略します。

TCP/IP プロトコルを有効にする前に、SQL Server をホストするコンピュータで次の設定を確認します。

- **SQL Server Browser** サービスが Windows で実行されている必要があります。このサービスのプロパティを **スタートアップの種類：自動** に変更することをお勧めします。Windows サービスの設定は、**スタート > 設定 > コントロールパネル > 管理ツール > サービス** で行います。
- SQL Server は、TCP/IP プロトコルを使用する必要があります。

Microsoft SQL Server 2005 用に TCP/IP プロトコルを有効にするには：

1. Microsoft SQL Server 2005 に付属の **SQL Server 構成マネージャ** ツールを実行します。
2. 表示されたツリーから **SQL Server 2005 ネットワークの構成 > MSSQLSERVER のプロトコル** を選択します。
3. ツリー ビューの右のパインで、**TCP/IP** を右クリックし、**有効化** を選択します。
4. ツリー ビュー パインに戻り、**SQL Server 2005 のサービス** を選択します。
5. ツリー ビューの右のパインで、**SQL Server (MSSQLSERVER)** を右クリックし、コンテキストメニューから **再起動** を選択します。

SilkCentral リポジトリとの接続を解除する



リポジトリとの接続を解除するには：

1. Web ブラウザで、自分の SilkCentral サイトを参照します。
デフォルトの URL は `http://<computer name>/login` です。
2. ログインします。
ユーザー名 と **パスワード** のデフォルト値は両方とも `admin` です。
3. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
4. **データベース** タブをクリックします。
5. **切断** をクリックし、現在のデータベースから切断します。

[データベースの設定] ページ

管理 > システム設定 > データベース

データベースの設定 ページは、データベースへのアクセスの設定に使用します。このページには、次の項目が表示されます。

項目	説明
DBMS ホスト名/IP アドレス	<p>データベース管理システム (DBMS) をホストしているコンピュータの名前または IP アドレス。<computer name> ¥ <instance name> という形式で指定します。</p> <p>データベース システム ホスト名の説明</p> <p>Microsoft SQL Server 2005 または Microsoft SQL Server 2008 R2 <computer name> ¥ <instance name>、たとえば localhost。</p> <p> 注: インスタンス名は、DBMS がインスタンスを使用してインストールされている場合のみ必要となります。</p> <p>Microsoft SQL Server 2008 Express <computer name> ¥ <instance name>。デフォルトの Microsoft SQL Server Express インスタンスは、localhost ¥ SQLExpress です。</p> <p>Oracle Server <computer name>、たとえば MyDBMSHost。データベースに直接アクセスしてカスタム レポートを作成する場合、ネットワーク上のどこでも使用できる DBMS ホスト名/IP アドレス を定義します。</p>
DBMS タイプ	アクセスする DBMS のタイプ (Microsoft SQL Server または Oracle)。
ポート	DBMS がリスンするポート。Microsoft SQL Server (Express を含む) のデフォルトのポートは、1433 です。Oracle のデフォルトのポートは、1521 です。
データベース/SID	<p>Microsoft SQL Server のデータベース名、または Oracle 管理者から提供された Oracle SID。</p> <p>Oracle データベース管理者への注意事項 : Oracle SID には UTF8 文字セットを使用するように構成します。</p>
ユーザー名	<p>十分な権限のあるデータベースユーザー。デフォルトの Microsoft SQL Server (Microsoft SQL Express を含む) ユーザーは、データベース管理者が変更していない場合、sa です。Oracle Server の場合、Oracle 管理者から提供されたデータベースユーザーを入力します。</p> <p> 重要: Oracle Server の場合、データベースユーザー名にピリオド (.) を含めることはできません。</p>
パスワード	指定した ユーザー名 の有効なパスワード。

項目	説明
	<p>データベース システム パスワード</p> <p>Microsoft SQL Server (Express を含む) これらのデータベースでは、パスワードの使用が強制されます。パスワードがわからない場合は、データベース管理者に正しいログイン認証情報を問い合わせてください。</p> <p>Oracle Server データベース ユーザーのパスワード。パスワードがわからない場合は、Oracle 管理者に正しいログイン認証情報を問い合わせてください。</p>
読み取り専用ユーザー名 (省略可能)	指定されたデータベース内のすべてのテーブルとビューに対して、読み取り専用アクセスのみ可能な任意指定のデータベース ユーザー。読み取り専用ユーザーを定義すると、データベースのセキュリティが高まります。DBMS が Microsoft SQL Server の場合、名前とパスワードを指定すると、このユーザーが SilkCentral で自動的に作成されます。DBMS が Oracle の場合、データベース管理者は Oracle にユーザーを作成する必要があり、SilkCentral 管理者はそのユーザーを SilkCentral に追加する必要があります。
読み取り専用パスワード (省略可能)	指定した 読み取り専用ユーザー名 (省略可能) の有効なパスワード。
ステータス	DBMS への SilkCentral の接続のステータスを表示します。
DBMS バージョン情報	DBMS およびオペレーティング システムのバージョン情報を表示します。
ALM リポジトリ ID	リポジトリの ALM URI を表示します。
接続/切断	このボタン (現在の接続ステータスにより変わる) を使用して DBMS に接続、または DBMS から切断します。



注: データベースに接続するときに、実行サーバーのバージョンが不適切な古いバージョンであっても、それがバージョン SilkCentral Test Manager 2009 SP1 以降である場合、その実行サーバーは最新の Test Manager のバージョンに自動的にアップグレードされます。実行サーバーのリストの **情報** 列に、更新に関するメッセージが Test Manager によって表示されます。アップグレード手順が完了しない限り、アップグレード中の実行サーバーは使用されません。

システムの設定

このセクションでは、SilkCentral で作業するために必要な初期設定を行う方法について説明します。これらの設定は、管理者が担当する必要があります。

[概要] ページの使用法

概要 ページでは、重要な設定項目が 1 か所に表示されます。このページに表示された項目は、タスクにバンドルされます。このページを使用すると、特定のタスクに必要なすべての項目を簡単に設定できます。

[概要] ページ

管理 > 概要

概要 ページでは、重要な設定項目に簡単にアクセスできます。このページには、次のセクションがありません。

セクション	説明
システム	基本的なシステム設定。
プロジェクト管理	プロジェクト ページに簡単にアクセスできます。
クロスプロジェクト資産	現在のプロジェクトから独立した設定にアクセスできます。
ユーザー管理	管理 > ユーザー管理 にアクセスできます。
自動テスト設定	自動テストのセットアップで一般に使用される設定。
ログ	管理 > ログ ファイル のログ ページにアクセスできます。
ヘルプ	製品ドキュメント、ダウンロード可能なクライアントツール、およびバージョン情報ページにアクセスできます。

SSL による Web サーバーとのセキュアな接続

セキュアな接続を使用するつもりで、ISAPI Web サーバーのインストールを選択した場合は、Secure Sockets Layer (SSL) を使用するように Microsoft インターネット インフォメーション サービス (IIS) を構成する必要があります。Secure Sockets Layer にアクセスするには、まず認証機関から証明書を入手する必要があります。

SilkCentral のデフォルトのスタンドアロン Web サーバー (Tomcat) も SSL (Secure Sockets Layer) を使用するように構成できます。


Microsoft IIS とのセキュアな接続を設定する

SSL (Secure Sockets Layer) を通じて SilkCentral を使用するには、先に、認証機関から証明書を入手し、インターネット インフォメーション サービス (IIS) に証明書を適用する必要があります。


SSL を使用するための証明書を申請する

SSL を使用するための証明書を申請するには：

1. **スタート > プログラム > 管理ツール > インターネット サービス マネージャ** (Windows 2003 の場合は **スタート > プログラム > 管理ツール > インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ**) を選択して、**インターネット インフォメーション サービス** ダイアログ ボックスを開きます。

 **ヒント:** 管理ツール メニューが表示されない場合は、**スタート > 設定 > コントロール パネル** を選択し、**管理ツール** アイコンをダブルクリックします。 **インターネット インフォメーション サービス** アイコン (Windows 2003 の場合は **インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ**) をダブルクリックします。 ホスト コンピュータの名前と、展開可能なツリー ビューが表示されます。

2. コンピュータ名の横のプラス (+) 記号をクリックして、ツリー ファイルを展開します。
3. **インターネット インフォメーション サービス** ダイアログ ボックスで、**既定の Web サイト** を右クリックして、**プロパティ** を選択します。


 **ヒント:** Windows XP または Windows 2003 を実行している場合は、**Web サイト** ツリーを展開します。 次に、**既定の Web サイト** を右クリックして、**プロパティ** を選択します。

既定の Web サイトのプロパティ ダイアログ ボックスが表示されます。

4. **ディレクトリ セキュリティ** タブをクリックします。
5. **ディレクトリ セキュリティ** ダイアログ ボックス下部の鍵グラフィックの横にある **サーバー証明書** をクリックします。 **Web サーバー証明書ウィザードの開始** が表示されます。
6. **次へ** をクリックします。

IIS 証明書ウィザード が表示され、Web サイトに証明書を割り当てるためのオプションが示されます。

7. **証明書の新規作成** を選択し、**次へ** をクリックします。

 **注:** 証明書が既にインストールされている場合は、「現在インストールされている証明書をどのように処理しますか?」と尋ねるプロンプトがダイアログ ボックスに表示されます。 このダイアログ ボックスが表示される場合は、このセクションの残りのステップを省略します。

8. 新しい証明書を作成します。

詳細については、「SSL を使用するための新しい証明書を作成する」を参照してください。

SSL を使用するための新しい証明書を作成する

 **注:** 新しい証明書を作成するには、最初に「SSL を使用するための証明書を申請する」で説明されているステップを実行する必要があります。

新しい証明書を作成するには：


1. **IIS 証明書ウィザード/証明書の要求の送信方法** ダイアログ ボックスで **次へ** をクリックするか、または要求をいつ送信するかを選択します。 **IIS 証明書ウィザード/名前とセキュリティの設定** ダイアログ ボックスが表示されます。
2. **名前** テキスト ボックスに、適当な名前を入力します。
通常は、証明書を要求するコンピュータの名前です。
3. **ビット長** テキスト ボックスで値を指定します。
デフォルト長の **512** のままにするか、**1024** をリスト ボックスから選択します。 ビット長を大きくするとセキュリティは向上しますが、パフォーマンスが低下する可能性があります。
4. **次へ** をクリックします。 **IIS 証明書ウィザード/組織に関する情報** ダイアログ ボックスが表示されます。
5. **組織** の名前を入力し、コンピュータが属する **部門** (QA など) を入力します。
6. **次へ** をクリックします。 **IIS 証明書ウィザード/サイトの一般名** ダイアログ ボックスが表示されます。

7. サイトまたはコンピュータの名前を入力し、**次へ** をクリックします。 **IIS 証明書ウィザード/地理情報** ダイアログ ボックスが表示されます。
8. コンピュータまたは組織が存在する場所に関連する地理情報を入力し、**次へ** をクリックします。 **IIS 証明書ウィザード/証明書要求ファイル名** ダイアログ ボックスが表示されます。
9. 証明書を格納するファイルの名前を入力し、**次へ** をクリックします。 **IIS 証明書ウィザード/要求ファイルの概要** ダイアログ ボックスが表示されます。 入力したすべての情報が表示されます。
10. 情報が正しくない場合は、**戻る** をクリックして戻り、情報を変更します。 情報が正しい場合は、**次へ** をクリックして続行します。 **IIS 証明書ウィザードの完了** ダイアログ ボックスが表示され、ウィザードが完了したことが示されます。 このダイアログ ボックスでは、証明書を入手するためにファイルに対して行う必要のある処理に関する説明が提供されます。 ダイアログ ボックスの指示に従うか、またはシステム管理者に依頼します。

証明書を IIS に適用する

証明書要求に対する応答を受け取っていて、証明書を格納したファイルがあれば、証明書を IIS に適用できます。 詳細については、「SSL を使用するための証明書を申請する」を参照してください。

証明書を IIS に適用するには：

1. **スタート > プログラム > 管理ツール > インターネット サービス マネージャ** (Windows 2003 の場合は **スタート > プログラム > 管理ツール > インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ**) に移動します。
 **ヒント:** 管理ツール メニューが表示されない場合は、**スタート > 設定 > コントロール パネル** を選択し、**管理ツール** アイコンをダブルクリックします。 **インターネット インフォメーション サービス** アイコン (Windows 2003 の場合は **インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ**) をダブルクリックします。
2. **既定の Web サイト** が表示されるまで、ツリーを展開します。
3. **既定の Web サイト** を右クリックして、**プロパティ** を選択します。 **既定の Web サイトのプロパティ** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **既定の Web サイトのプロパティ** ダイアログ ボックスの **ディレクトリ セキュリティ** タブをクリックします。
5. ダイアログ ボックス下部の鍵アイコンの横にある **サーバー証明書** オプションをクリックします。 **Web サーバー証明書ウィザードの開始** が表示されます。
6. **次へ** をクリックします。 **IIS 証明書ウィザード** が表示され、保留中の要求を処理するためのオプションが表示されます。
7. **保留中の要求を処理し、証明書をインストールする** を選択します。 **次へ** をクリックします。 **IIS 証明書ウィザード/保留中の要求を処理** ダイアログ ボックスが表示されます。
8. 認証機関の応答 (認証機関から直接送られてきた証明書、またはシステム管理者から受け取った証明書) がある場所を入力します。 **次へ** をクリックします。
IIS 証明書ウィザード/証明書の概要 ダイアログ ボックスが表示され、証明書に関する情報が示されます。
9. **次へ** をクリックして証明書をインストールします。 **IIS 証明書ウィザード/Web サーバー証明書ウィザードの完了** が表示されます。
10. **完了** をクリックすると、処理が完了します。
11. **OK** をクリックして **認証** を閉じます。 **OK** をクリックして、**既定の Web サイトのプロパティ** ダイアログ ボックスを閉じることもできます。

SSL 用の IIS の設定が完了したので、SSL を通じて SilkCentral にセキュアな接続を確立できます。

Tomcat Web サーバーのセキュアな接続を設定する

このタスクを実行するには、Tomcat と SSL 設定に精通している必要があります。

SSL (Secure Sockets Layer) を使用するように SilkCentral のデフォルト スタンドアロン Web サーバー (Tomcat) を設定します。

SilkCentral とのセキュアな接続を有効にするには：

1. SilkCentral サーバーに Administrator としてログオンします。
2. すべての SilkCentral サービス (アプリケーション、チャート、実行およびフロントエンドの各サーバー) を停止します。
3. Tomcat Web サーバー用に固有の証明書を生成するには、SilkCentral Java ディレクトリで C: ¥ Program Files ¥ Silk ¥ SC Test Manager 12.0 ¥ lib ¥ jre ¥ bin ¥ keytool -genkey -alias tomcat -keyalg RSA コマンドを実行します。
4. キーストアパスワード値 changeit を指定します。
固有のパスワードを使用する場合は、ここで指定します。
5. 一連の keytool コマンド プロンプトは以下のようになります。それぞれ応答を入力します。

```
What is your first and last name?  
[Unknown]: hostname.domain.com  
What is the name of your organizational unit?  
[Unknown]: IT Department (if that is the group creating the certificate)  
What is the name of your organization?  
[Unknown]: Company Name  
What is the name of your City or Locality?  
[Unknown]: City  
What is the name of your State or Province?  
[Unknown]: State  
What is the two-letter country code for this unit?  
[Unknown]: US  
Is CN=xxxx, OU=xxxxxxx, O=xxxxxxx, L=xxxxxxxxx, ST=xxxxx, C=xx correct?  
[no]: Yes (These values will reflect what you entered previously)  
Enter key password for <tomcat> same as keystore password  
(RETURN if same as keystore password):
```

たとえば C: ¥ Users ¥ Administrator を使用してログインしたユーザーのプロファイル フォルダに .keystore という名前のファイルが生成されます。



注: デフォルトでは、Tomcat はデフォルトパスワード changeit を使用して、ファイル名 .keystore をホーム ディレクトリ内で検索します。ホーム ディレクトリは一般に Unix や Linux システムでは /home/user_name/, Microsoft Windows システムでは C: ¥ Documents and Settings ¥ user_name ¥ または C: ¥ Users ¥ user_name ¥ です。

6. .keystore ファイルを任意の安全な場所に移動します。




注: 一部のオペレーティング システムでは、空白文字を含む場所を使用すると Tomcat に問題が発生する場合があります。

7. 次のとおり Tomcat 設定ファイルを編集します。

server.xml ファイルを conf ¥ frontendserver ¥ conf ディレクトリ (SilkCentral がイントールされたディレクトリのサブディレクトリ) から見つけます。

8. テキスト エディタ (メモ帳など) でこのファイルを開きます。現在の Connector エントリをコメントアウトし、次のテキストを追加します。

```
<!-- Define a SSL Coyote HTTP/1.1 Connector on port 8443 -->  
<Connector port="8443" minSpareThreads="25" URIEncoding="UTF-8" compression="on"  
compressableMimeType="text/html,text/xml,text/plain,text/css,text/javascript,application/  
xml"  
debug="0" scheme="https" secure="true" SSLEnabled="true" clientAuth="false"  
sslProtocol="TLS" keystorePass="changeit" keystoreFile="C: ¥ <file location> ¥ .keystore"/>
```

 **注:** keystoreFile パラメータで指定したパスが、.keystore ファイルをコピーした場所と一致するようにしてください。changeit を別のパスワードに変更した場合、keystorePass パラメータを server.xml ファイルのエントリに追加する必要があります。

```
<Connector port="8443" minSpareThreads="25" URIEncoding="UTF-8"
compression="on"
compressableMimeType="text/html,text/xml,text/plain,text/css,text/
javascript,application/xml"
debug="0" scheme="https" secure="true" SSLEnabled="true" clientAuth="false"
sslProtocol="TLS" keystorePass="changeit" keystoreFile="C: ¥ <file location>
¥.keystore"
keystorePass="newpassword"/>
```

詳細については、[Apache Tomcat 7 のドキュメント](#)を参照してください。

9. 省略可能: <Connector> タグのフロント エンド サーバーの **ポート** を、19120 から必要なポートに変更します。

10 SSL 環境で BIRT レポートを有効にするには、HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ Apache Software Foundation ¥ Procrun 2.0 ¥ SCCChartServer ¥ Parameters ¥ Java ¥ Options でチャートサーバーのレジストリ キーを編集します。次のテキストをキーに追加します。

```
-Djavax.net.ssl.trustStore=C: ¥ <file location> ¥.keystore
-Djavax.net.ssl.trustStorePassword=<Password>
```

<Password> は、定義済みの keystorePass です。

11 ファイルを保存し、エディタを終了します。

12 この手順の初めに停止したすべてのサービスを再起動します。

13 HTTPS: https://hostname:8443/login を使用して SilkCentral サーバーにログオンします。

アプリケーションサーバーのロケーション

アプリケーションサーバーは、スケジュールの配布、実行サーバーの制御、データベース構成の管理などのタスクを同期させる働きをします。SilkCentral アプリケーションを使用するには、先に、アプリケーションサーバーのロケーションを指定するか。

アプリケーションサーバーのロケーションを指定する

SilkCentral アプリケーションのインストール時に 標準セットアップ オプションを使用した場合は、アプリケーションサーバーのロケーションを指定する必要はありません。セットアップで localhost がアプリケーションサーバーとして自動的に設定されます。その場合は、この手順を省略できます。セットアップ オプションの詳細については、アプリケーションのインストール手順を参照してください。

アプリケーションサーバーのロケーションを指定するには :

1. SilkCentral ソフトウェアがインストールされたら、Web ブラウザを使用して SilkCentral に接続します。



ヒント: ISAPI Web サーバーをインストールした場合は、URL として http://<Web-server-name>/login を使用します。スタンドアロン Web サーバーをインストールした場合は、URL として http://<Web-server-name>:19120/login を使用します。スタンドアロン Web サーバーでは、デフォルトでポート 19120 が使用されます。

アプリケーションサーバーの接続がまだ定義されていないことを伝える確認メッセージが表示されます。

2. アプリケーションサーバーの **ホスト** または **IP アドレス** と **ポート** を入力します。

アプリケーションサーバーは、SilkCentral のアプリケーションサーバー コンポーネントをインストールしたコンピュータです。デフォルトのポート番号は 19122 です。

3. **ログイン** をクリックして次に進みます。指定した情報が正しく、それぞれのコンピュータでインストールされているソフトウェアが稼働している場合は、ログイン ページに戻り、「Application server connected successfully」というメッセージが表示されます。

データベース管理 ページが表示されます。

SilkCentral リポジトリ

"データベース" と "リポジトリ" という用語は同じ意味で使われることがありますが、一般にリポジトリは、データの集まりが一元的に保存され管理される場所と定義されています。SilkCentral の概念モデルは、アプリケーション データが格納されるデータ リポジトリの概念モデルです。


SilkCentral 製品群でデータの格納、管理、分析のために使用されるデータベースがリポジトリです。最初に、リポジトリに使用するデータベース システムを選択し、SilkCentral の GUI で、リポジトリにアクセスするために必要な手順を実行する必要があります。SilkCentral 製品群で作業を行うには、リポジトリに接続する必要があります。

複数のリポジトリをセットアップすることもできますが、一度にアクティブにできるリポジトリは 1 つだけです。


新しい SilkCentral データベースに接続するには、まず現在のデータベースから切断しなければなりません。

 **注:** データベースに接続していない状態で SilkCentral を使用しようとすると、エラー メッセージが表示されます。

データベースの切断が必要な管理タスクは、ユーザーのいない時間帯に実行することをお勧めします。それができない場合は、システムを停止することとその期間について、ユーザーに必ず通知してください。

 **注:** LDAP 認証を使用しない場合、ユーザー アカウントはリポジトリに保存されます。複数のリポジトリを使用する場合は、リポジトリごとに別々にユーザー アカウントを管理する必要があります。

新しいリポジトリを作成する

 **注:** 現在 SilkCentral リポジトリに接続している場合、新しいリポジトリを作成する前にリポジトリから切断する必要があります。

新しいリポジトリを作成するには :


1. 既に SilkCentral アプリケーション サーバーをセットアップしてある場合、ブラウザ ウィンドウに **データベース管理** ページが表示されます。この場合、この手順のステップ 3 に進みます。

 **ヒント:** または、Web ブラウザで SilkCentral サイトを参照してもかまいません。デフォルトの URL は `http://<computer name>:<port>/login` です。SilkCentral のインストール時に標準セットアップ オプションを使用した場合は、アプリケーションに接続するとすぐに **データベース管理** ページが表示されます。フロントエンド サーバーがインストールされているコンピュータで、**スタート > プログラム > Silk > SilkCentral > Test Manager 12.0 > Test Manager Home Page** を選択してもかまいません。

2. まだログインしていない場合は、ログインします。
ユーザー名 と **パスワード** のデフォルト値は、どちらも admin です。
3. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
4. **データベース** タブをクリックします。
5. 新しいデータベースの情報を入力し、**接続** をクリックします。

データベースを作成できる環境は、ローカルにインストールされた Microsoft SQL Server 2008 Express、ローカルにインストールされた Microsoft SQL Server または Oracle、あるいは Microsoft SQL Server または Oracle がインストールされているネットワーク サーバーです。SilkCentral では、次のものがサポートされています。


- Microsoft SQL Server 2005 サービス パック 3
- Microsoft SQL Server 2005 サービス パック 2
- Microsoft SQL Server 2008 R2
- Oracle 10g (バージョン 10.2.0.5)
- Oracle 11g (バージョン 11.2.0.2)


 **ヒント:** 個々の接続設定の詳細については、「[データベースの設定] ページ」を参照してください。

データベースの作成 ダイアログ ボックスが表示されます。

6. 新しいデータベースを作成するには、データベース管理者としてログインします。

評価セットアップ パッケージを使用して SilkCentral をインストールした場合、**ユーザー名** テキスト ボックスに sa と入力し、**パスワード** テキスト ボックスに SilkCentral12!34 と入力して、**OK** をクリックします。

 **ヒント:** ローカルで (またはネットワークで) Microsoft SQL Server データベースまたは Oracle データベースを作成している場合は、データベース管理者から提供されたログイン情報を入力した後、**OK** をクリックします。

 **注:** この処理には最大数分かかることがあります。

7. **ALM リポジトリ ID の作成** ダイアログ ボックスの **ALM リポジトリ ID** テキスト ボックスに一意のリポジトリ ID を入力し、**OK** をクリックします。
8. **メッセージ** ダイアログ ボックスが表示され、ローカル コンピュータで検出されて自動的にシステム構成に追加されたサーバーが通知される場合があります。**OK** をクリックして、このダイアログ ボックスのメッセージを理解します。「localhost を実行サーバーとして定義できませんでした」という警告メッセージが表示される場合は、実行サーバーを手動で構成する必要があります。
9. リポジトリが正常に作成されたことが通知されます。**OK** をクリックして、メッセージを理解します。ログイン ページが表示されます。
10. 標準の **ユーザー名** と **パスワード** を使用してログインします。
デフォルトは admin/admin です。データベース管理者としてログインしないでください。現在接続しているデータベースに関する情報は **管理 > システム設定 > データベース** に表示されますが、利用可能な他のデータベースについては SilkCentral ユーザー インターフェイスのどこにも表示されません。後で必要になったときのために、データベース名をメモしておく必要があります。

これで、システムは使用できる状態になりました。

既存のリポジトリにアクセスする

既存のリポジトリにアクセスするには：

1. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
2. **データベース** タブをクリックします。
3. リポジトリに既に接続している場合は、**切断** をクリックします。現在のリポジトリとの接続を本当に切断するかどうかを確認するダイアログ ボックスが表示されます。**はい** をクリックして、接続を解除します。
4. データベースの情報を入力または確認した後、**接続** をクリックします。
個々の接続設定の詳細については、「[データベースの設定] ページ」を参照してください。
5. リポジトリに ALM リポジトリ ID がない場合は、**ALM リポジトリ ID の作成** ダイアログ ボックスが表示されます。**ALM リポジトリ ID** テキスト ボックスに一意のリポジトリ ID を入力し、**OK** をクリックします。
6. データベース接続が確立すると、確認メッセージが表示されます。**OK** をクリックして、メッセージを理解します。SilkCentral のログイン ページが表示されます。
7. SilkCentral にログインします。ログインすると、SilkCentral にアクセスできます。
ユーザー名と**パスワード**のデフォルト値は両方とも admin です。

リポジトリ ID

各 Test Manager リポジトリには、一意のリポジトリ ID が割り当てられている必要があります。この ID は、Test Manager の要件やテスト を複数の Test Manager リポジトリにわたって一意に識別するために、ALM URI で使用されます。リポジトリ ID は、会社の Test Manager インストールの中で一意でなければなりません。与えられたリポジトリ ID は、ALM URI の一部になります。ALM URI の詳細については、「ALM URI」を参照してください。説明的な ID を使用することをお勧めします。たとえば、USCA01 (USA、California、リポジトリ #01)、GEBE02 (Germany、Berlin、リポジトリ #02) などです。ID として使用できる文字は、英文字、数字、ピリオド (.)、マイナス (-) です。ID の文字数は、1 ~ 20 文字でなければなりません。



注意: リポジトリ ID は、一度設定したら変更することはできません。

ALM URI

リポジトリ ID は、ALM URI (Application Lifecycle Management Uniform Resource Identifier) の一部になります。ALM URI は、ALM サーバー プラットフォーム内の要素のアドレスを指定する手段を提供します。これにより、アプリケーション間で要素を識別したり追跡することが可能になります。また、ALM URI は、Test Manager の要件やテスト を複数の Test Manager リポジトリにわたって一意に識別するために使用されます。

ALM 要素の URI の構文は次のとおりです。

```
<ALM URI> = alm://<source project>/<source element path>[?<source version>]
<source project> = <source type>!<project identity>
```

Test Manager の場合は <source type> = sctm です。Issue Manager の場合は <source type> = scim です。

プロジェクト ID は次のように作成されます。

```
<project identity> = <repository ID>_<project ID>
```

<repository ID> は、Test Manager と Issue Manager の各リポジトリに対して一意の ID です。各リポジトリは、そのリポジトリ内に保存される一意の ID を生成します。ID の一意性は、インストール済みのすべてのリポジトリで保証されます。<project ID> は、Test Manager または Issue Manager プロジェクトの ID です。この ID は、各リポジトリのコンテキスト内で一意です。

ソース要素パスは次のとおりです。

Test Manager と Issue Manager については、成果物の参照に次の構文が使用されます。

Test Manager のネイティブ要件 (外部の要件管理システムにリンクされていない要件) では、次の構文が使用されます。

```
<source element path> = /<requirement ID>;ns=requirement
```

Test Manager のテストでは、次の構文が使用されます。

```
<source element path> = /<test ID>;ns=test
```

Test Manager および Issue Manager の問題では、次の構文が使用されます。

```
<source element path> = /<issue ID>;ns=issue
```

ALM URI の例 :

```
alm://sctm!USCA01_23/602;ns=test
```

Test Manager リポジトリは USCA01、プロジェクト ID は 23、要素 ID は 602、要素タイプは test です。

Microsoft SQL Server 2005 用に TCP/IP プロトコルを有効にする

Microsoft SQL Server 2005 を使用している場合は、TCP/IP プロトコルを使用するように SQL Server を設定する必要があります。別のデータベース システムを使用している場合は、この手順を省略します。

TCP/IP プロトコルを有効にする前に、SQL Server をホストするコンピュータで次の設定を確認します。

- **SQL Server Browser** サービスが Windows で実行されている必要があります。このサービスのプロパティを **スタートアップの種類：自動** に変更することをお勧めします。Windows サービスの設定は、**スタート > 設定 > コントロール パネル > 管理ツール > サービス** で行います。
- SQL Server は、TCP/IP プロトコルを使用する必要があります。

Microsoft SQL Server 2005 用に TCP/IP プロトコルを有効にするには：

1. Microsoft SQL Server 2005 に付属の **SQL Server 構成マネージャ** ツールを実行します。
2. 表示されたツリーから **SQL Server 2005 ネットワークの構成 > MSSQLSERVER のプロトコル** を選択します。
3. ツリー ビューの右のパインで、**TCP/IP** を右クリックし、**有効化** を選択します。
4. ツリー ビュー パインに戻り、**SQL Server 2005 のサービス** を選択します。
5. ツリー ビューの右のパインで、**SQL Server (MSSQLSERVER)** を右クリックし、コンテキスト メニューから **再起動** を選択します。

SilkCentral リポジトリとの接続を解除する

リポジトリとの接続を解除するには：



1. Web ブラウザで、自分の SilkCentral サイトを参照します。
デフォルトの URL は `http://<computer name>/login` です。
2. ログインします。
ユーザー名 と **パスワード** のデフォルト値は両方とも `admin` です。
3. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
4. **データベース** タブをクリックします。
5. **切断** をクリックし、現在のデータベースから切断します。

[データベースの設定] ページ

管理 > システム設定 > データベース

データベースの設定 ページは、データベースへのアクセスの設定に使用します。このページには、次の項目が表示されます。

項目	説明
DBMS ホスト名/IP アドレス	データベース管理システム (DBMS) をホストしているコンピュータの名前または IP アドレス。<computer name> ¥ <instance name> という形式で指定します。

項目	説明
	<p>データベース システム ホスト名の説明</p> <p>Microsoft SQL Server 2005 または Microsoft SQL Server 2008 R2 <computer name> ¥ <instance name>、たとえば localhost。</p> <p> 注: インスタンス名は、DBMS がインスタンスを使用してインストールされている場合のみ必要となります。</p> <p>Microsoft SQL Server 2008 Express <computer name> ¥ <instance name>。デフォルトの Microsoft SQL Server Express インスタンスは、localhost ¥ SQLExpress です。</p> <p>Oracle Server <computer name>、たとえば MyDBMSHost。データベースに直接アクセスしてカスタム レポートを作成する場合、ネットワーク上のどこでも使用できる DBMS ホスト名/IP アドレス を定義します。</p>
DBMS タイプ	アクセスする DBMS のタイプ (Microsoft SQL Server または Oracle)。
ポート	DBMS がリスンするポート。Microsoft SQL Server (Express を含む) のデフォルトのポートは、1433 です。Oracle のデフォルトのポートは、1521 です。
データベース/SID	Microsoft SQL Server のデータベース名、または Oracle 管理者から提供された Oracle SID。 Oracle データベース管理者への注意事項: Oracle SID には UTF8 文字セットを使用するように構成します。
ユーザー名	十分な権限のあるデータベース ユーザー。デフォルトの Microsoft SQL Server (Microsoft SQL Express を含む) ユーザーは、データベース管理者が変更していない場合、sa です。Oracle Server の場合、Oracle 管理者から提供されたデータベース ユーザーを入力します。  重要: Oracle Server の場合、データベース ユーザー名にピリオド (.) を含めることはできません。
パスワード	指定した ユーザー名 の有効なパスワード。 データベース システム パスワード Microsoft SQL Server これらのデータベースでは、パスワードの使用が強制されます。パスワードがわからない場合は、データベース

項目	説明
	<p>データベース システム パスワード</p> <p>(Express を含む) 管理者に正しいログイン認証情報を問い合わせてください。</p> <p>Oracle Server データベース ユーザーのパスワード。パスワードがわからない場合は、Oracle 管理者に正しいログイン認証情報を問い合わせてください。</p>
読み取り専用ユーザー名 (省略可能)	指定されたデータベース内のすべてのテーブルとビューに対して、読み取り専用アクセスのみ可能な任意指定のデータベース ユーザー。読み取り専用ユーザーを定義すると、データベースのセキュリティが高まります。DBMS が Microsoft SQL Server の場合、名前とパスワードを指定すると、このユーザーが SilkCentral で自動的に作成されます。DBMS が Oracle の場合、データベース管理者は Oracle にユーザーを作成する必要があるため、SilkCentral 管理者はそのユーザーを SilkCentral に追加する必要があります。
読み取り専用パスワード (省略可能)	指定した 読み取り専用ユーザー名 (省略可能) の有効なパスワード。
ステータス	DBMS への SilkCentral の接続のステータスを表示します。
DBMS バージョン情報	DBMS およびオペレーティング システムのバージョン情報を表示します。
ALM リポジトリ ID	リポジトリの ALM URI を表示します。
接続/切断	このボタン (現在の接続ステータスにより変わる) を使用して DBMS に接続、または DBMS から切断します。



注: データベースに接続するときに、実行サーバーのバージョンが不適切な古いバージョンであっても、それがバージョン SilkCentral Test Manager 2009 SP1 以降である場合、その実行サーバーは最新の Test Manager のバージョンに自動的にアップグレードされます。実行サーバーのリストの **情報** 列に、更新に関するメッセージが Test Manager によって表示されます。アップグレード手順が完了しない限り、アップグレード中の実行サーバーは使用されません。

初めてのログイン

リポジトリに接続すると、デフォルトのシステム管理者アカウントでログインできる状態になります。




注意: スーパーユーザー アカウントの admin にはすべての管理権限があるため、このユーザーに新しいパスワードを直ちに指定して、それらの権限が無制限に行使されないようにする必要があります。パスワードを変更する方法の詳細については、「**システム管理者アカウントのパスワードを変更する**」を参照してください。

初めてログインする

リポジトリに接続すると、デフォルトのシステム管理者アカウントでログインできる状態になります。

SilkCentral に初めてログインするには：

1. **ユーザー名** テキスト ボックスに admin、**パスワード** テキスト ボックスに admin と入力します。
2. **ログイン** をクリックします。

 **注意:** スーパーユーザー アカウントの admin にはすべての管理権限があるため、このユーザーに新しいパスワードを直ちに指定して、それらの権限が無制限に行使されないようにする必要があります。パスワードを変更する方法の詳細については、「[システム管理者アカウントのパスワードを変更する](#)」を参照してください。

[ログイン] ページ


このページは、SilkCentral への接続に使用します。このページには、次の項目があります。

項目	説明
ユーザー名	LDAP または SilkCentral ユーザー名を入力します。スーパーユーザーのデフォルト ユーザー名は admin です。
パスワード	ユーザー名 に入力したユーザーの有効なパスワードを入力します。
ログイン情報を保存する	ログイン情報を保存する チェック ボックスをオンにすると、アプリケーション側で自動的にログアウトされても再度ログインする必要はありません。30 分以上何もしないと、自動的にログアウトされます。
標準	SilkCentral への非セキュアなログインを有効にします。
セキュア	SilkCentral へのセキュアな (SSL) ログインを有効にします。このオプションは、SilkCentral がセキュアな接続用に構成されている場合にのみ指定できます。詳細については、「 Microsoft IIS とのセキュアな接続を設定する 」を参照してください。
ログイン	入力した認証情報が有効な場合は、SilkCentral にログインします。

システム管理者アカウント

ユーザー アカウントを追加すると、他のユーザーが、プロジェクトを作成し、そのプロジェクトの作業に必要なアクセス権を持つことができるようになります。

デフォルトでは、スーパーユーザー アカウントの admin は、セットアップのインストールでパスワード admin と共に使用できます。他のユーザー タイプとそれらの能力については、「[ユーザー ロールとアクセス許可](#)」を参照してください。

 **注意:** スーパーユーザー アカウントの admin にはすべての管理権限があるため、このユーザーに新しいパスワードを直ちに指定して、それらの権限が無制限に行使されないようにする必要があります。パスワードを変更する方法の詳細については、「[システム管理者アカウントのパスワードを変更する](#)」を参照してください。

システム管理者アカウントのパスワードを変更する

デフォルトのスーパーユーザー アカウントのパスワードを変更する方法について説明します。

デフォルトのスーパーユーザーの新しいパスワードを指定するには：

1. メニューで **管理 > ユーザー管理** をクリックします。
2. **アカウント** タブをクリックします。

このページには、利用可能なすべてのユーザー アカウントが表示されます。このページに初めてアクセスしたときには、スーパーユーザー アカウントの admin ユーザーのみが表示されます。

3. admin ユーザーの名前をクリックします。
既存ユーザー アカウントの設定 ページが表示されます。
4. 適当なパスワードを入力します。
OK をクリックします。
5. もう一度パスワードを入力して確認します。
6. **OK** をクリックします。

ユーザー アカウント ページに戻り、更新が成功したことが通知されます。

チャート サーバーのロケーション

チャート サーバーは、データを計算してグラフを作成するサービスです。作成されたグラフは、SilkCentral アプリケーションで表示できます。このサービスは、SilkCentral のセットアップで任意のコンピュータにインストールできます。グラフを表示するには、チャート サーバーのロケーションを指定する必要があります。



 **注:** 必要なだけいくつでもチャート サーバーを定義できます。SilkCentral は、グラフ生成用に負荷分散メカニズムを自動的に実装します。

チャート サーバーを追加する

チャート サーバーを追加する方法を説明します。

 **注:** チャート サーバーを追加できるのは、使用可能なチャート サーバーのリストに追加するコンピュータに、チャート サーバー サービスがインストールされている場合のみです。詳細については、SilkCentral アプリケーションのインストール手順を参照してください。

新しいチャート サーバーを追加するには：

1. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
2. **チャート サーバー** タブをクリックします。
3. チャート サーバーがアプリケーション サーバーと同じコンピュータにインストールされている場合、セットアップではチャート サーバーとして localhost が既に定義されています。
4. **チャート サーバーの新規作成** をクリックします。 **チャート サーバーの設定** ページが表示されます。
5. このページでは、ホスト名または IP アドレス、ポート、およびチャート サービスがインストールされている URL の指定を求められます。デフォルトの設定を変更する必要があるのは、サーバーが存在するコンピュータの名前だけです。デフォルトのポートは 19126、デフォルトの URL は ChartServer です。
6. 適切な情報を入力した後、**検査** をクリックして、チャート サーバーへのテスト接続を確立します。テストが成功すると、テスト画像が表示されます。テストが失敗すると、チャートは表示されず、エラーメッセージが表示されます。その場合は、チャート サーバーのホスト名または IP アドレスを検査し、指定したコンピュータにチャート サーバーが実際にインストールされていることを確認する必要があります。その後、前記のステップを繰り返してください。
7. チャート サーバーの構成に戻るには、**戻る** をクリックします。テスト接続が成功した場合は、[ステータス] チェックボックスをオンにして、**保存** をクリックします。
8. チャート サーバーのリストに戻ります。追加したチャート サーバーが表示されます。

チャート サーバーの新規作成 をクリックして、さらにチャート サーバーを追加できます。

チャート サーバーを編集する

チャート サーバーを編集する方法を説明します。

チャート サーバーの設定を変更するには：

1. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
2. **チャート サーバー** タブをクリックします。
3. 変更するチャート サーバーをクリックします。 **チャート サーバーの設定** ページが表示されます。
4. このページでは、ホスト名または IP アドレス、ポート、およびチャート サービスがインストールされている URL を変更できます。また、**アクティブ** チェック ボックスをオンまたはオフにすることで、チャート サーバーをアクティブまたは非アクティブにすることもできます。チャート サーバーをアクティブまたは非アクティブにするだけの場合は、ステップ 5 に進んでください。
5. 適切な情報を入力した後、**検査** をクリックして、チャート サーバーへのテスト接続を確立します。テストが成功すると、テスト画像が表示されます。テストが失敗すると、チャートは表示されず、エラー メッセージが表示されます。その場合は、チャート サーバーのホスト名または IP アドレスを検査し、指定したコンピュータにチャート サーバーが実際にインストールされていることを確認する必要があります。その後、前記のステップを繰り返してください。
6. チャート サーバーの構成に戻るには、**戻る** をクリックします。テスト接続が成功したので [ステータス] チェック ボックスをオンにします。
7. **保存** をクリックします。チャート サーバーの一覧に戻ります。

チャート サーバーを削除する

チャート サーバーを削除する方法を説明します。


 **注:** チャート サーバーを削除しても、サービスのインストールは削除されません。アプリケーションでサービスを利用できなくなるだけです。後でサービスに再接続する方法については、「チャート サーバーを追加する」を参照してください。

チャート サーバーを削除するには：

1. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
2. **チャート サーバー** タブをクリックします。
3. 削除するチャート サーバーの **チャート サーバーの URL** をクリックします。
4. **アクティブ** チェック ボックスをオフにして、[保存] をクリックします。 **チャート サーバー** ページに戻ります。
5. 削除するチャート サーバーの **アクション** 列で、**×** をクリックします。
6. 確認ダイアログ ボックスが表示されるので、**はい** をクリックして削除を確定します。

[チャート サーバー] ページ

管理 > システム設定 > チャート サーバー

このページは、チャート サーバーの管理に使用します。リスト内のチャート サーバーごとに、次の列がページに表示されます。

列	説明
アクション	サンプル チャートを受信してチャート サーバーへのテスト接続を行うか、チャート サーバー接続を削除します。

列	説明
チャート サーバーの URL	チャートサーバーに接続するための URL。構文 : http://<コンピュータ名または IP アドレス>:<ポート>/ChartServer。デフォルトのポートは 19126 です。
ステータス	チャートサーバーへの接続がアクティブか非アクティブかを表示します。
作成日時	チャートサーバー接続が作成された日時。
作成者	このチャートサーバー接続を作成したユーザー。
変更日時	チャートサーバー接続が変更された日時。
変更者	このチャートサーバー接続を変更したユーザー。

LDAP 認証

LDAP サーバーを使用して SilkCentral にログインできるようにするには、LDAP 認証を構成します。

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) は、ディレクトリ サービスへのアクセスを提供することを目的として設計されているオープン ネットワーク プロトコル標準です。LDAP は、ディレクトリ情報ツリー (DIT) に存在する情報を照会したり変更したりするためのメカニズムを提供します。ディレクトリ情報ツリーは、通常、ユーザー、プリンタ、アプリケーション、その他のネットワークリソースなど、さまざまな種類のネットワークオブジェクトに関する広範囲の情報を格納しています。

SilkCentral LDAP 統合

SilkCentral における LDAP 統合の最も重要な側面は、ユーザー認証です。ほとんどのディレクトリではユーザーのパスワードを取得できないので、ユーザーが認証を受ける必要があるたびに、LDAP にアクセスする必要があります。

SilkCentral LDAP 統合は、プレーンテキストと SSL の両方の認証をサポートします。ディレクトリ サービスが匿名のクエリを許可するか、またはディレクトリに対する読み取り権限を持つユーザーが提供される必要があります。

次のプロパティを LDAP サーバーに提供する必要があります。

- LDAP サーバーの URL
- LDAP ポート
- ベース DN (ルートノード、ベース識別名)
- 省略可能 : ユーザー名とパスワード
- フィルタ (ユーザーを照会する場合、オブジェクト)

LDAP 認証ロジック

標準モード認証とは、1 つの LDAP サーバーが定義されアクティブである場合に、ユーザーが LDAP に対してのみ認証できることを意味します。混合モード認証とは、ユーザーは LDAP またはローカル認証情報のどちらかでログインできることを意味します。

 **注:** どちらの認証モードの場合も、ユーザーは SilkCentral データベースにユーザー名が存在する場合にのみログインできます。

標準モード認証

標準モード認証は、少なくとも 1 つの LDAP サーバーがアクティブのときに有効になります。LDAP サーバーが定義されていない場合は、ユーザーはローカル認証情報でのみログインできます。定義されている各 LDAP サーバーが検査されて、ユーザーを (特定のユーザー名とパスワードで) 認証できるかどうか判定されます。いずれか 1 つのサーバーで認証が成功すると、アクセスが許可されます。

混合モード認証

LDAP サーバーが定義されていない場合は、ユーザーはローカル認証情報でのみログインできます。少なくとも 1 つの LDAP サーバーがアクティブであり、ユーザー アカウントが混合モード認証を使用するように設定されている場合は、定義されている各 LDAP サーバーが検査されて、ユーザーを（特定のユーザー名とパスワードで）認証できるかどうか判定されます。定義されているすべての LDAP サーバーでユーザーが不明の場合は、ローカル データベース認証が試みられます。ローカル認証情報でもユーザーが不明の場合は、アクセスは拒否されます。ユーザーが LDAP サーバーでは既知であっても、認証情報が正しくない場合は、アクセスは拒否されます。

LDAP サーバーを追加する

SilkCentral で使用するために LDAP サーバーを設定する方法を説明します。

新しい LDAP サーバーを追加するには：

1. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
2. **LDAP サーバー** タブをクリックします。
3. **LDAP サーバーの新規作成** をクリックします。 **LDAP サーバーの新規作成** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. サーバーの **名前** と任意で **説明** を入力します。
5. **アクティブ** チェック ボックスをオンにして、SilkCentral でのサーバーの使用を有効にします。
6. LDAP サーバーの **ホスト名** または IP アドレスを入力し、LDAP サービスに使用する **ポート** を入力します。
7. SSL を通じてサーバーに接続するには、**SSL を使用する** チェック ボックスをオンにします。
8. 省略可能： **バインド DN** テキスト ボックスに、LDAP サービスへのバインドに使用するユーザーのドメイン名を入力します。 **バインド DN** で指定したユーザーの **パスワード** を入力します。
9. LDAP クエリの **ベース DN** ルートを入力し、LDAP のクエリに使用する **フィルタ** を入力します。
- 10 **テスト** をクリックして、LDAP サーバーへの接続テストを実行します。
詳細については、「LDAP サーバーをテストする」を参照してください。
- 11 設定を保存するには、**OK** をクリックします。

LDAP サーバーを編集する

LDAP サーバー プロファイルを編集する方法を説明します。

LDAP サーバー プロファイルを編集するには：

1. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
2. **LDAP サーバー** タブをクリックします。
3. 編集する LDAP サーバー プロファイルの名前をクリックします。 **LDAP サーバーの編集** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 必要に応じて、サーバーの **名前** と **説明** を編集します。
5. **アクティブ** チェック ボックスをオンにして、SilkCentral でのサーバーの使用を有効にします。
6. LDAP サーバーの **ホスト名** または IP アドレス、および LDAP サービスに使用する **ポート** を必要に応じて編集します。
7. SSL を通じてサーバーに接続するには、**SSL を使用する** チェック ボックスをオンにします。
8. 省略可能： **バインド DN** フィールドで、LDAP サービスへのバインドに使用するユーザーのドメイン名を必要に応じて変更します。 **バインド DN** で指定したユーザーの **パスワード** を入力します。
9. LDAP クエリの **ベース DN** ルート、および LDAP のクエリに使用する **フィルタ** を必要に応じて編集します。
- 10 **テスト** をクリックして、LDAP サーバーへの接続テストを実行します。

詳細については、「LDAP サーバーをテストする」を参照してください。

11 設定を保存するには、**OK** をクリックします。

LDAP サーバーをテストする

LDAP サーバーへの接続をテストする方法を説明します。

LDAP サーバーへの接続をテストするには：

1. SilkCentral で LDAP サーバー プロファイルを追加または編集する場合、**LDAP サーバーの新規作成** ダイアログ ボックスまたは **LDAP サーバーの編集** ダイアログ ボックスに、**テスト** ボタンが表示されます。
2. **テスト** をクリックすると、**LDAP 設定のテスト** ダイアログ ボックスが表示されます。
3. **テストユーザー名** テキストボックスに、LDAP 認証のテストに使用するユーザー名を入力します。
4. また、**テストパスワード** に、LDAP 認証のテストに使用するユーザーのパスワードを入力します。
5. **テスト** をクリックして認証のテストを実行します。

 **注:** テストが失敗した場合は、LDAP のエラー コードも表示されます。LDAP エラー コードおよびその意味は、<http://ldapwiki.willeke.com/wiki/LDAPResultCodes> で確認できます。

テストが成功したかどうかを示すダイアログ ボックスが表示されます。

6. **閉じる** をクリックすると、**LDAP サーバーの新規作成** ダイアログ ボックスまたは **LDAP サーバーの編集** ダイアログ ボックスに戻ります。テスト接続が失敗した場合は、設定を変更した後、またはシステム管理者に支援を依頼した後、ステップ 2 から再び開始します。

LDAP サーバーを削除する

LDAP サーバー プロファイルを削除する方法を説明します。

LDAP サーバーを削除するには：

1. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
2. **LDAP サーバー** タブをクリックします。
3. LDAP サーバーがアクティブである場合は、削除する前に非アクティブにする必要があります。削除する LDAP サーバー プロファイルの名前をクリックします。**LDAP サーバーの編集** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **アクティブ** チェックボックスをオフにしてサーバーを非アクティブにし、**OK** をクリックします。
5. 削除する LDAP サーバーの **アクション** 列で、**×** をクリックします。
6. 続いて表示されるダイアログ ボックスで **はい** をクリックして、削除を確定します。

[LDAP サーバー] ページ


管理 > システム > LDAP サーバー

LDAP サーバー ページには、それまでに構成されているすべての LDAP サーバーのリストが表示されます。このページは、LDAP サーバーの管理に使用します。

このページでは、次のアクションを実行できます。

- **LDAP サーバーの新規作成** をクリックして、新しい LDAP サーバーを構成します。
- リストから既存の LDAP サーバーを選択し、設定を編集します。
- **アクション** 列の **×** をクリックして、非アクティブになっている LDAP サーバーを削除します。

[LDAP サーバーの新規作成] ダイアログ ボックス

 **ヒント: LDAP サーバーの編集** ダイアログ ボックスには、**LDAP サーバーの新規作成** ダイアログ ボックスと同じ項目が含まれています。

このダイアログ ボックスには、次の項目が含まれます。

項目	説明
名前	SilkCentral GUI に表示される LDAP サーバーの名前を指定します。LDAP サーバーの任意の名前を定義できます。このフィールドは、LDAP の実際の設定には影響を与えません。
説明	LDAP サーバーの説明です。LDAP サーバーの任意の説明文を入力できます。このフィールドは、LDAP の実際の設定には影響を与えません。
アクティブ	オンにすると、LDAP サーバーがアクティブになります。オフにすると、SilkCentral は LDAP サーバーのサービスを利用できなくなります。
ホスト名	LDAP の URL です。
ポート	LDAP のポートです。デフォルトのポートは 389 です。SSL を使用する場合のデフォルトの LDAP ポートは 636 です。
SSL を使用する	SilkCentral が LDAP サーバーへの接続に SSL を使用するか (オンにした場合)、使用しないか (オフにした場合) を定義します。このチェック ボックスは、 ポート テキスト ボックスで定義した設定と密接に関係します。
バインド DN (省略可能)	LDAP サービスへのバインドに使用するユーザーの識別名です。このユーザーには、 ベース DN で指定するルートからのディレクトリに対する読み取り権限が必要です。このテキスト ボックスを空白にすると、匿名アクセスをサポートしていない LDAP サーバーを除き、匿名アクセスが使用されます。
パスワード (省略可能)	ベース DN テキスト ボックスで定義されているユーザーのパスワードです。匿名アクセスを許可する場合は不要です。
ベース DN	LDAP クエリに対するベース識別名 (DN) ルート ノードです。たとえば、DC=comp,DC=net のようになります。
フィルタ	LDAP のクエリに使用するフィルタです。フィルタは、中かっこで囲まれたプレースホルダを含む必要があります。デフォルトのプレースホルダ <code>{%username}</code> に加え、SilkCentral では次のような複雑な表現もサポートしています。 例 1 : (sAMAccountName={%username}) 例 2 : (sAMAccountName = {user.firstName.substring(0, 1).toLowerCase()} {user.lastName.toLowerCase()})

項目	説明
	2つ目の例では、ユーザーの姓（小文字）を、ユーザーの名の最初の文字（小文字）に追加して、sAMAccountName が構築されます。

SilkPerformer 負荷テスト エージェント クラスタ

作業負荷を個々のエージェントへ割り当てる以外に、ユーザーには、能力が定義されているエージェントのクラスタへ、SilkPerformer 作業負荷を割り当てる、という選択肢があります。SilkPerformer の動的作業負荷割り当て機能は、指定した負荷テスト要件と実行時に利用可能なエージェント コンピュータの再生機能を一致させます。SilkPerformer においてエージェントに対して定義されている能力は、エージェントに対する作業負荷の割り当ての最適化に使用されます。たとえば、あるテストが、SAPGUI クライアントが入っているエージェント コンピュータのみが提供できる作業負荷を必要としている場合、動的作業負荷割り当て機能は、テストの作業負荷が、SAPGUI クライアントが入っている利用可能なエージェントに対してのみ割り当てられるようにできます。さらに、各エージェントに確保できる必須作業負荷もしくは仮想ユーザーのパーセンテージも設定できるので、エージェントが自分の能力を超えて稼働させられる、ということもないようにできます。

SilkPerformer テストの実行の際、SilkCentral 負荷テスト エージェント クラスタ XML ファイルは、適切な実行サーバーからチェックアウトされ、実行中に動的作業負荷割り当てに使用されます。ユーザーは、プロジェクトの負荷テスト エージェント クラスタ XML ファイルの場所を、**管理 > システム** 設定で指定する必要があります。

負荷テスト エージェント クラスタに対する作業負荷の動的な割り当ての利点は、テスト実行の成功は、静的なテスト実行環境の維持に左右されない、という点です。SilkPerformer は、利用できないエージェントの作業負荷を、同じ能力を持つ同じクラスタ内に存在する利用可能なエージェントに動的に割り当てることができます。この機能は、SilkPerformer 負荷テストが、SilkCentral において事前定義されたスケジュールを元に管理および実行されている際には、特に有益です。作業負荷をエージェント間でどのようにバランスを取るか、および、個々のエージェントの健全性については、SilkCentral の観点から検討しなければならぬ問題ではありません。

動的な作業負荷割り当ての詳細については、*SilkPerformer* のヘルプを参照してください。

負荷テスト エージェント クラスタ ファイルをアップロードする

SilkPerformer の動的作業負荷割り当てをサポートするプロジェクトの負荷テスト エージェント クラスタ ファイルを、追加または変更する方法について説明します。

プロジェクトのエージェント クラスタ ファイルの定義を変更するには：

1. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
2. **負荷テスト エージェント クラスタ** タブをクリックします。
3. **アップロード** をクリックします。
4. **エージェント クラスタ ファイルのアップロード** ダイアログ ボックスで、ローカル ディスク上のエージェント クラスタ ファイルのロケーションを参照します。
ファイルをアップロードすると、それが **負荷テスト エージェント クラスタ** ページに表示されます。
5. **OK** をクリックし、選択内容を確定します。

負荷テスト エージェント クラスタ ファイルを削除する

負荷テスト エージェント クラスタ ファイルを削除して、アプリケーション サーバーから取り除きます。

負荷テスト エージェント クラスタ ファイルを削除するには：

1. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
2. **負荷テスト エージェント クラスタ** タブをクリックします。
3. **削除** を選択します。
4. **はい** をクリックして、設定の削除を確定します。

負荷テスト エージェント クラスタ ファイルを編集する

プロジェクトのエージェント クラスタ ファイルの定義を編集するには：

1. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
2. **負荷テスト エージェント クラスタ** タブをクリックします。
3. 変更する負荷テスト エージェント クラスタ ファイルの名前をクリックします。
4. ファイルをダウンロードします。
5. エディタでファイルを編集します。
6. ファイルをアップロードします。

詳細については、「負荷テスト エージェント クラスタ ファイルをアップロードする」を参照してください。

[負荷テスト エージェント クラスタ] ページ

管理 > システム設定 > 負荷テスト エージェント クラスタ

負荷テスト エージェント クラスタ ページには、現在構成されている負荷テスト エージェント クラスタの XML ファイルが表示されます。このページを使用して、動的作業負荷割り当てをサポートする SilkPerformer 負荷テスト エージェント クラスタ ファイルを管理します。

このページでは、次のアクションを実行できます。

- **アップロード** をクリックすると、負荷テスト エージェント クラスタの XML ファイルをアップロードできます。
- **削除** をクリックすると、既存の負荷テスト エージェント クラスタの XML ファイルを削除できます。
- 負荷テスト エージェント クラスタ ファイルの名前をクリックし、そのファイルをダウンロードします。

メール ホストのロケーション

アプリケーションから結果に関する最新のレポートを電子メールで受け取るには、自分のメール サーバーのロケーションを指定する必要があります。電子メールを設定できるのは、システム管理者権限がある場合だけです。

 **注:** SilkCentral は、基本 SMTP 認証 (*LOGIN PLAIN*) をサポートします。

メール ホストのロケーションを指定する

最大で 3 つのメール サーバーのロケーションを指定する方法を説明します。

最大で 3 つのメール サーバーのロケーションを指定するには：

1. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
2. **通知** タブをクリックします。
3. **サーバー 1**、**サーバー 2**、**サーバー 3** の各テキスト ボックスに、電子メール サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。
4. **システム管理者の電子メール アドレス** および **電子メールに使用する差出人アドレス** を入力します。

5. 設定が機能することを確認するには、**検査** をクリックします。その後、システム管理者がアプリケーションからテスト用の電子メール通知を受信することを確認します。

エラーメッセージが表示される場合、または電子メールを受信しない場合は、メールの設定を確認します。電子メール サーバーのホスト名が正しいこと、およびそのコンピュータで SMTP プロトコルが実行されていることを確認します。

6. テスト メールが送信されたことを示す通知を受信したら、**保存** をクリックします。

これで、電子メール通知は使用できる状態になりました。

[通知] ページ

管理 > システム設定 > 通知

このページは、SilkCentral アプリケーションのメール サーバーの構成に使用します。このページには、次の項目があります。

項目	説明
システム管理者の電子メール アドレス	SilkCentral システム管理者のメール アドレスを指定します。構成を完了するには、ここにアドレスを入力する必要があります。任意の有効な電子メール アドレスを追加できます。
電子メールに使用する差出人アドレス	システムから送信される電子メールの 差出人 フィールドに表示される名前を指定します。任意の電子メール アドレスを使用できます (たとえば、System_message@mycompany.com)。
サーバー 1	メールを送信するサーバーの名前または IP アドレスです。多くの企業では、このサーバーは単にメールと呼ばれます。メール サーバーが SMTP 認証 (LOGIN PLAIN) を使用する場合は、メール サーバーの有効なユーザーとパスワードを入力する必要があります。ログイン認証情報がわからない場合は、メール サーバーの管理者に問い合わせてください。
サーバー 2	
サーバー 3	
検査	システム管理者の電子メール アドレス テキストボックスで定義した受信者にテスト用の電子メールを送信します。
リセット	このページのすべての項目をクリアします。
保存	設定を保存します。

システム プロキシ

特定のロケーションの実行サーバーがプロキシを通してアプリケーション サーバーと通信できるように、システム プロキシを設定します。プロキシ サーバーのロケーションを指定したなら、ロケーションの設定で定義済みのプロキシ サーバーを選択できます。この設定を有効にすると、そのロケーションのすべての実行サーバーが、強制的に定義済みのシステム プロキシを通してアプリケーション サーバーと通信するようになります。

システム プロキシを設定する

この手順では、システム プロキシを設定する方法を説明します。ロケーションでプロキシを使用するには、システム プロキシを設定する必要があります。

システム プロキシを設定するには：

1. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
2. **システムプロキシ** タブをクリックします。
3. 使用するプロキシの **ホスト** と **ポート** を指定します。
4. プロキシが必要な場合は、**ユーザー名** と **パスワード** を指定します。
5. 設定が正しいことを確認するには、**検査** をクリックします。プロキシ サーバーへの接続が成功したかどうかを示すメッセージが表示されます。
6. エラー メッセージが表示される場合は、システム プロキシの設定を確認します。また、指定したホストにシステム プロキシがインストールされていて稼働していることを確認します。
7. **保存** をクリックします。

これで、システム プロキシは使用できる状態になりました。

[システムプロキシ] ページ

管理 > システム設定 > システムプロキシ

このページは、システム プロキシの設定に使用します。このページには、次の項目があります。

項目	説明
ホスト	システム プロキシとして使用するコンピュータのホスト名または IP アドレスです。
ポート	システム プロキシがリスンするポート番号です。デフォルトのポートは 8080 です。
ユーザー名 (必要な場合)	プロキシ サーバーでログイン認証情報が必要な場合は、有効なユーザー名を入力します。
パスワード (必要な場合)	指定した ユーザー名 の有効なパスワードです。
リセット	このページのすべての項目をクリアします。
検査	指定した認証情報でプロキシへの接続をテストします。
保存	設定を保存します。

アプリケーションの設定

このセクションでは、ユーザー アカウント、プロジェクト、ロケーション、および実行サーバーの概念に関する情報を示します。カスタム レポートの管理とアップロード ファイルの管理、その他の共通エンティティの設定も説明します。

SilkCentral の初期設定（システム構成）が完了したら、次のセクションに従って、ユーザー アカウント、プロジェクト、ロケーション、実行サーバーなどのセットアップに必要なステップを実行できます。この作業は、管理者が実行する必要があります。

ユーザー ロールとアクセス許可

SilkCentral で作業する場合は、割り当てられたプロジェクトへのアクセス権を持つユーザーのグループに、タスクが割り当てられます。グループ内では、ユーザーは、それらのプロジェクト内の特定のロールを許可されます。ユーザーのアクセス許可は、ユーザー ロールのタイプと、所属するグループに基づいて設定されます。ここでは、アクセス許可のタイプを定義し、ユーザー ロールに関連付けられた特定のアクセス許可の詳細について説明します。

各ユーザー アカウントは、1 つ以上のグループに所属できます。1 つのグループでは、そのグループ内のユーザーが持つロールが定義されています。グループはプロジェクトに割り当てられます。したがって、個々のユーザーが持つアクセス許可は、プロジェクトに対して定義されているグループ/ロール割り当てから継承されます。定義済みのアクセス許可は、各ユーザーのグループ/ロール割り当てを含むグループに割り当てられたプロジェクトにのみ適用されます。

ユーザー ロール

次の 7 つのユーザー ロールがあらかじめ定義されています。

- スーパーユーザー
- システム管理者
- プロジェクト管理者
- テスト管理者
- テスト担当者
- アナリスト
- 報告者

これらのロールを変更したり削除することはできません。ただし、これらのロールをコピーして、ロールをカスタマイズする際のベースとして使用することはできます。

スーパーユーザー

スーパーユーザー ロールは、SilkCentral の全アプリケーションにて、すべての権限が許可される特殊なロールです。

システム管理者

システム管理者のタスクには、アプリケーション サーバー、Web サーバー、チャート サーバーのロケーションの構成、リポジトリと通知設定のセットアップと管理、アカウントの作成、ロケーションと実行サーバーの構成などが含まれます。

システム管理者には、SilkCentral および Issue Manager のすべての権限が許可されています。

プロジェクト管理者

プロジェクト マネージャは、担当するプロジェクトを管理します。プロジェクト管理者には、SilkCentral 管理モジュールへの書き込みアクセス権限はありません。プロジェクト管理者は、プロジェクト管理者として自分に割り当てられたプロジェクトにのみアクセスでき、担当するプロジェクトについては、プロジェクトに関連するすべての機能への完全な書き込みアクセス権限を持ちます。また、プロジェクト マネージャは、自分に割り当てられたプロジェクトについては、Issue Manager のすべてのアクセス許可を持ちます。

テスト管理者

テスト管理者の責務には、テスト の計画と実行が含まれます。これには、テスト の削除も含まれます。また、テスト管理者は、Test Manager の 共有ステップ ライブラリ への完全なアクセス権限と、要件 領域への完全な読み取りアクセス権限も持ちます。

テスト担当者

テスト担当者ロールは、Test Manager の権限に関係します。テスト担当者のタスクにはテスト の計画と実行が含まれますが、テスト担当者はテスト を削除することはできません。また、テスト担当者は、要件 領域への完全な読み取りアクセス権限を持ち、共有ステップ ライブラリのすべてのオブジェクトを表示、作成、および編集することもできます。

アナリスト

アナリストは、自分に割り当てられたプロジェクトの結果を分析します。プロジェクト設定やスケジュールを変更することはできず、読み取り専用の権限を持ちます。

報告者

報告者には、アナリスト のすべての権限に加えて、詳細クエリ モードでレポートを編集および削除する権限があります。詳細モードでは、報告者は、詳細レポート用の SQL 文の入力、変更、および削除ができます。詳細レポートの詳細については、SilkCentral アプリケーション ヘルプを参照してください。

ユーザー ロールを追加する

ユーザー ロールを追加するには：

1. メニューで **管理 > ユーザー管理** をクリックします。
2. **ロール** タブをクリックします。
3. **ロールの新規作成** をクリックします。

新しいロールの追加 ページが表示されます。

4. **名前** に新しいロール名を入力します。
5. 省略可能：**説明** にロールの説明を入力します。
6. **アクセス許可の設定** リストで、このロールに付与するすべてのアクセス許可の **許可** チェック ボックスをオンにします。



注： 最上位レベルの親タスクを選択すると、自動的にその親タスクのすべての子タスクが選択されます。親タスクの (すべてではなく) 一部の子タスクを選択した場合、親タスクには薄いグレーのチェック マークが付けられます。これは、その部分に関しては限定的なアクセス許可であることを示します。

7. **保存** をクリックして、このロールのアクセス許可設定を保存します。


ユーザー ロールを編集する



注： あらかじめ定義されているユーザー ロールは編集できません。カスタム ユーザー ロールは編集できます。


ユーザー ロールを編集するには：

1. メニューで **管理 > ユーザー管理** をクリックします。
2. **ロール** タブをクリックします。
3. **ロール** リストで、編集するロールの名前をクリックします。
ロールの編集 ページが表示されます。
4. ロールの **名前** を必要に応じて編集します。
5. ロールの **説明** を必要に応じて編集します。
6. **アクセス許可の設定** リストで、このロールに付与するすべてのアクセス許可の **許可** チェックボックスをオンにします。このロールに付与しないアクセス許可のチェックボックスをオフにします。

 **注:** 最上位レベルの親タスクを選択すると、自動的にその親タスクのすべての子タスクが選択されます。親タスクの(すべてではなく)一部の子タスクを選択した場合、親タスクには薄いグレーのチェックマークが付けられます。これは、その部分に関しては限定的なアクセス許可であることを示します。

7. **保存** をクリックして、このロールのアクセス許可設定を保存します。


ユーザー ロールをコピーする

 **ヒント:** 既存のユーザー ロールをコピーすることは、カスタム ユーザー ロールを作成するための最初の手順です。既存のロールをコピーしたら、名前を変更し、必要に応じてアクセス許可を編集します。

ユーザー ロールをコピーするには：

1. メニューで **管理 > ユーザー管理** をクリックします。
2. **ロール** タブをクリックします。
3. コピーするユーザー ロールの **アクション** 列で、**ロールの複製** をクリックします。
そのロールのコピーが、ユーザー ロールのリストに表示されます。コピーされたロールの名前を変更して、必要に応じてカスタマイズすることができます。

ユーザー ロールを削除する

 **注:** あらかじめ定義されているユーザー ロールは削除できません。カスタム ユーザー ロールは削除できます。

ユーザー ロールを削除するには：

1. メニューで **管理 > ユーザー管理** をクリックします。
2. **ロール** タブをクリックします。
3. 削除するユーザー ロールの **アクション** 列で、**削除** をクリックします。確認ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **はい** をクリックすると操作が実行され、**いいえ** をクリックすると中止されます。**はい** を選択した場合は、ユーザー ロールのリストに戻ります。削除したロールは表示されません。

[ロールの設定] ページ

管理 > ユーザー管理 > ロール

ロールの設定 ページは、ユーザー ロールの設定に使用します。このページには、次の項目があります。


項目	説明
アクション	 をクリックして、ロールを複製します。複製したロールを基礎として新しいカスタム ロールを作成できます。

項目	説明
名前	GUI に表示されるユーザー ロール名。
新しい割り当てを許可	既存のユーザー ロールへの新しいユーザーの割り当てを許可または禁止する場合にクリックします。ユーザー ロールの使用を中止したときに、一部のユーザー アカウントがまだそのロールを保持している場合に役に立ちます。
説明	ユーザー ロールの説明。
作成日時	ロールが作成された日時。
作成者	ロールを作成したユーザー。

アクセス許可の定義

Test Manager でアクセス許可を表示するには：メニューで、**管理 > ユーザーの管理** をクリックします。**ロール** タブをクリックします。グリッド内のロールをクリックします。そのロールのアクセス許可が表示されます。

ここでは、ユーザーがタスクを実行したり、SilkCentral 内のセキュアな領域にアクセスできるかどうかを決定するアクセス許可について説明します。アクセス許可カテゴリごとにリストが分かれています。

 **注：** 定義済みロールのアクセス許可を編集することはできません。

要件のアクセス許可

要件に利用可能なアクセス許可は以下のとおりです。

	システム管理者	プロジェクト管理者	アナリスト	テスト担当者	テスト管理者	報告者
要件の表示		X	X	X	X	X
要件の管理		X				
要件の削除		X				
要件管理インテグレーションの管理		X			X	
要件管理インテグレーションの削除		X				

ライブラリのアクセス許可

ライブラリに利用可能なアクセス許可は以下のとおりです。

	システム管理者	プロジェクト管理者	アナリスト	テスト担当者	テスト管理者	報告者
ライブラリの表示		X	X	X	X	X
ライブラリの管理				X	X	
ライブラリの削除					X	

テストと実行のアクセス許可

テストと実行に利用可能なアクセス許可は以下のとおりです。

	システム管理者	プロジェクト管理者	アナリスト	テスト担当者	テスト管理者	報告者
テストと実行の表示		X	X	X	X	X
テストと実行の管理				X	X	
テストと実行の削除					X	
ソース管理インテグレーションの管理		X			X	
ソース管理インテグレーションの削除		X			X	

手動実行計画のアクセス許可

手動実行計画で利用可能なアクセス許可は以下のとおりです。

	システム管理者	プロジェクト管理者	アナリスト	テスト担当者	テスト管理者	報告者
テストサイクルと構成を表示する		X	X	X	X	X
テストサイクルと構成を管理する					X	
テストサイクルと構成を削除する					X	

問題のアクセス許可

問題に利用可能なアクセス許可は以下のとおりです。

	システム管理者	プロジェクト管理者	アナリスト	テスト担当者	テスト管理者	報告者
問題追跡インテグレーションの管理		X			X	
問題追跡インテグレーションの削除		X			X	

品質目標のアクセス許可

品質目標に利用可能なアクセス許可は、以下のとおりです。

	システム管理者	プロジェクト管理者	アナリスト	テスト担当者	テスト管理者	報告者
品質目標の表示		X	X	X	X	X
品質目標の管理		X			X	
品質目標の削除		X			X	

レポートのアクセス許可

レポートに利用可能なアクセス許可は以下のとおりです。

	システム管理者	プロジェクト管理者	アナリスト	テスト担当者	テスト管理者	報告者
レポートの表示		X	X	X	X	X
レポートの管理		X		X	X	X
詳細レポートの管理						X
レポートの削除		X		X	X	X

プロジェクトのアクセス許可

プロジェクトに利用可能なアクセス許可は以下のとおりです。

	システム管理者	プロジェクト管理者	アナリスト	テスト担当者	テスト管理者	報告者
プロジェクトの管理		X			X	
プロジェクトの削除		X			X	

プロジェクト設定のアクセス許可

プロジェクト設定に利用可能なアクセス許可は以下のとおりです。

	システム管理者	プロジェクト管理者	アナリスト	テスト担当者	テスト管理者	報告者
プロジェクト設定の表示		X	X	X	X	X
プロジェクト設定の管理		X		X	X	

	システム管理者	プロジェクト管理者	アナリスト	テスト担当者	テスト管理者	報告者
プロジェクト設定の削除		X			X	
フィルタの管理		X		X	X	
フィルタの削除		X		X	X	
他のユーザーの非公開フィルタの変更		X			X	
他のユーザーの非公開フィルタの削除		X			X	

管理用のアクセス許可

管理に利用できるアクセス許可は次のとおりです。

	システム管理者	プロジェクト管理者	アナリスト	テスト担当者	テスト管理者	報告者
システム設定の表示	X	X			X	X
システム設定の管理	X					
管理設定の表示	X	X			X	X
管理設定の管理	X					
管理設定の削除	X					
ログ ファイルの表示と削除	X	X			X	X
実行サーバーの管理	X					
実行サーバーの削除	X					

ダッシュボード パネルのアクセス許可

特定のダッシュボード パネルの内容を表示、編集するには、次のアクセス許可が必要です。

パネル	アクセス許可
カスタム情報	編集には プロジェクトの管理 が必要です。 表示にはアクセス許可は不要です。
はじめに	アクセス許可は不要です。
問題のライフ サイクル	プロジェクト設定の表示 。
テスト担当者ごとの作成済み問題数	テストと実行の表示 。
ユーザーに割り当てられた手動テスト	テストと実行の管理 。
品質目標の進捗状況	品質目標の表示 。
要件カバレッジ ステータス	要件の表示 。
テスト サイクルの進捗状況	テスト サイクルと構成の表示 。


パネル	アクセス許可
テスト サイクル結果の概要	テスト サイクルと構成の表示。
全テスト サイクルにわたるテストの進捗状況	テスト サイクルと構成の表示。
不安定なテスト	テストと実行の表示。

ユーザー アカウントとグループ アカウント

ユーザー アカウントは、SilkCentral で作業するユーザーごとに作成する必要があります。1 つ以上のユーザー グループが特定のプロジェクトに割り当てられます。ユーザー アカウント、ユーザー ロール、およびグループ割り当てさえあれば、ユーザーは SilkCentral プロジェクトで作業できます。

ユーザー アカウントをメンテナンスする

ユーザー アカウントは、個々のユーザーのログイン データと設定を追跡します。また、ユーザー アカウントによってユーザー ログインが可能になります。通常、ユーザー アカウントは、特定のプロジェクト用の特定のユーザー ロールを持つグループ アカウントに割り当てられます。アプリケーション サーバー、Web サーバー、およびチャート サーバーのロケーションを設定したり、リポジトリと通知設定のセットアップと管理ができるユーザー ロールは、スーパーユーザーだけです。

 **注意:** スーパーユーザー アカウントの admin にはすべての管理権限があるため、このユーザーに新しいパスワードを直ちに指定して、それらの権限が無制限に行使されないようにする必要があります。パスワードを変更する方法の詳細については、「[システム管理者アカウントのパスワードを変更する](#)」を参照してください。


ユーザー アカウントを追加する

ユーザー アカウントを追加するには：

1. メニューで **管理 > ユーザー管理** をクリックします。
2. **アカウント** タブをクリックします。
このページには、利用可能なすべてのユーザー アカウントが表示されます。このページに初めてアクセスしたときには、スーパーユーザー アカウントの admin ユーザーのみが表示されます。
3. **ユーザーの新規作成** をクリックします。 **新しいユーザー アカウントの追加** ページが表示されます。
4. ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。パスワードを再度入力して確認します。
5. LDAP とローカル認証情報ベースの認証を両方有効にするには、**混合モード認証 (LDAP)** チェックボックスをオンにします。
6. ユーザーのログインを許可しない場合は、**ロック** チェックボックスをオンにします。
7. ユーザーの姓、名、および電子メール アドレスを入力します。
8. ユーザーのローカル タイム ゾーンを入力し、日付形式、短い日付形式、および週の最初の曜日を選択します。
9. **ページ更新時間** (秒単位)、**CSV 区切り文字列**、および **デフォルト実行サーバー** を入力します。
10. グループおよびロール定義をそれぞれのリスト ボックスから選択します。
11. **割り当ての追加** をクリックして、ユーザー アカウントにグループとロールの組み合わせを追加します。
12. 前の 2 つのステップを繰り返して、必要なすべてのグループとロールの組み合わせをユーザー アカウントに割り当てます。
13. 現在のユーザー アカウントからグループとロールの組み合わせを削除するには、**アクション** 列の **削除** アイコンをクリックします。
14. **保存** をクリックして設定を保存します。

ユーザー アカウントを編集する


ユーザー アカウントを設定すると、**ログイン** 名を除き、すべてのパラメータを編集できます。

 **注:** ユーザー アカウントを変更すると、変更されたユーザー アカウントの次のログイン時にアクティブになります。対象ユーザーに、ログアウトして再びログインするように通知します。

ユーザー アカウントを編集するには：

1. メニューで **管理 > ユーザー管理** をクリックします。
2. **アカウント** タブをクリックします。
このページには、利用可能なすべてのユーザー アカウントが表示されます。このページに初めてアクセスしたときには、スーパーユーザー アカウントの admin ユーザーのみが表示されます。
3. 編集するユーザー アカウントの **ログイン** 名をクリックします。 **既存のユーザーの設定** ページが表示されます。
4. 必要に応じて、[パスワード] でユーザーのパスワードを編集します。パスワードを再度入力して確認します。
5. LDAP とローカル認証情報ベースの認証を両方有効にするには、**混合モード認証 (LDAP)** チェックボックスをオンにします。
6. 必要に応じてその他のユーザー設定を編集します。
7. グループおよびロール定義をそれぞれのリストボックスから選択します。
8. **割り当ての追加** をクリックして、ユーザー アカウントにグループとロールの組み合わせを追加します。
9. 前の 2 つのステップを繰り返して、必要なすべてのグループとロールの組み合わせをユーザー アカウントに割り当てます。
- 10 現在のユーザー アカウントからグループとロールの組み合わせを削除するには、**アクション** 列の **削除** をクリックします。
- 11 **保存** をクリックして設定を保存します。

ユーザー アカウントを削除する

 **注意:** ユーザー アカウントを削除すると、回復できません。一時的にアカウントを利用できないようにする場合は、削除ではなく、ユーザー アカウントをロックできます。ユーザー アカウントをロックする方法の詳細については、「ユーザー アカウントを編集する」を参照してください。

ユーザー アカウントを削除するには：


1. メニューで **管理 > ユーザー管理** をクリックします。
2. **アカウント** タブをクリックします。
このページには、利用可能なすべてのユーザー アカウントが表示されます。このページに初めてアクセスしたときには、スーパーユーザー アカウントの admin ユーザーのみが表示されます。
3. 削除するユーザー アカウントの **アクション** 列で、**削除** をクリックします。確認ダイアログボックスが表示されます。
4. **はい** をクリックすると操作が続行され、**いいえ** をクリックすると中止されます。**はい** を選択した場合は、ユーザー アカウントのリストに戻ります。削除したアカウントは表示されません。

[ユーザーの設定] ページ

管理 > ユーザー管理 > アカウント > ユーザーの新規作成/ユーザー アカウントの編集

ユーザーの設定 ページは、ユーザー アカウントの設定に使用します。ユーザー アカウントの設定は、グループ アカウントの設定と密接に関連しています。

メニューでユーザー名をクリックすると、ログインしたユーザーの **ユーザーの設定** ページにアクセスできます。

 **注:** ユーザー アカウントを保存するには、少なくとも 1 つのグループとロールの割り当てを定義する必要があります。

[ログインデータ] 項目	説明
ログイン	SilkCentral リポジトリに保存されるユーザー名です。後で説明する 混合モード認証 (LDAP) をオンにする場合は、定義されている LDAP ユーザー名と一致するユーザー名を入力する必要があります。
パスワード	ログイン に入力したユーザーの有効なパスワードを入力します。このパスワードは、LDAP のパスワードとは関係ありません。
パスワードの確認	もう一度パスワードを入力して確認します。
混合モード認証 (LDAP)	LDAP とローカル認証情報ベースの認証を両方とも有効にするには、このチェック ボックスをオンにします。LDAP サーバーが存在する場合、このチェック ボックスをオフにすると、LDAP のみの認証になります。
ロック	指定した認証情報によるユーザーのログインを許可しない場合は、このチェック ボックスをオンにします。ユーザー アカウントは非アクティブになります。


[一般データ] 項目	説明
名	ユーザーの名を入力します。この情報は、SilkCentral の動作には影響を与えません。ユーザーの連絡先情報を追跡するためにのみ使用されます。
姓	ユーザーの姓を入力します。この情報は、SilkCentral の動作には影響を与えません。ユーザーの連絡先情報を追跡するためにのみ使用されます。
電子メール	ユーザーの電子メール アドレスを入力します。この情報は通知の目的で使用されます。
タイムゾーン	ユーザーのローカル タイムゾーンです。タイムゾーン情報は、日付をユーザーのローカル タイムゾーンで表示するために使用されます。
日付形式	選択した日付形式は、SilkCentral の長い日付形式を表示するリスト、レポート、およびカレンダーで、ユーザーに対して使用されます。
短い日付形式	選択した日付形式は、SilkCentral の短い日付形式を表示するリスト、レポート、およびカレンダーで、ユーザーに対して使用されます。
週の最初の曜日	週の最初の曜日により、レポートの週単位の表示が決まります。
ページ更新時間	ページ更新時間を秒単位で指定します。選択されているカレンダー範囲が過去 24 時間に設定されている場合、この設定により、レポート ページが自動的に更新される間隔が決まります。レポートを自動的に更新しない場合は、0 (デフォルト値) を入力します。ページ更新時間は、ページの自動更新をサポートするページにのみ適用されます。

[一般データ] 項目	説明
CSV 区切り文字列	この文字列は、ユーザーがダウンロードする CSV ファイルの行区切り文字として使用されます。レポートは CSV ファイルとしてダウンロードできます。
デフォルト実行サーバー	デフォルト実行サーバーは、実行計画に使用可能な実行サーバーが設定されていない場合の、自動テストの試験実行に使用されます。

[グループとロールの割り当て] 項目	説明
[グループとロールの割り当て] の表	ユーザーの既存のユーザー グループ/ユーザー ロールの全割り当てのリストが表示されます。グループとロールの割り当てを削除することもできます。そのためには、削除する割り当ての隣にある × をクリックします。
グループ	ユーザーを割り当てるグループを選択します。このリストボックスには、SilkCentral 管理者が定義したユーザー グループのリストが表示されます。
ユーザー ロール	選択したグループに割り当てるユーザーのユーザー ロールを選択します。 このリストは、あらかじめ定義されたシステム ロールとカスタムのユーザー ロールで構成されます。
割り当ての追加	このボタンをクリックすると、選択したグループとユーザー ロールで、新しいユーザー グループ/ユーザー ロールの割り当てが作成されます。

グループ アカウントをメンテナンスする


グループ アカウントは、特定のプロジェクトへのアクセス権を定義します。各ユーザーは、1 つ以上のグループ アカウントと関連付けることができ、そのグループ アカウントに定義されているプロジェクトへのアクセス権を継承します。

 **注:** ユーザーを、複数のロールを持つグループ アカウントに追加することもできます。これによって、ユーザーのアクセス許可を詳細に設定できます。

グループ アカウントを追加する

グループ アカウントを追加するには：

1. メニューで **管理 > ユーザー管理** をクリックします。
2. **グループ** タブをクリックします。
3. **グループの新規作成** をクリックします。 **新しいグループ アカウントの追加** ページが表示されます。
4. **グループ名** テキスト ボックスに、新しいグループの名前を入力します。
5. **説明** テキスト ボックスに、新しいグループの説明を入力します。
6. ユーザーおよびロールの割り当てをそれぞれのリスト ボックスから選択し、 **選択項目の追加** をクリックして、新しいグループ アカウントにユーザーとロールの組み合わせを追加します。

 **注:** 新しいユーザーの割り当てを受け付けられないように定義されているユーザー ロールは、このリストに表示されません。これらの設定は、 **管理 > ユーザー管理 > ロール** の **新しい割り当てを許可** ボタンで制御できます。


7. 前のステップを繰り返して、必要なすべてのユーザーとロールの組み合わせをグループ アカウントに割り当てます。

- 現在のグループ アカウントからユーザーとロールの組み合わせを削除するには、**アクション** 列の **×** をクリックします。
- プロジェクトの割り当て** セクションでは、任意の既存プロジェクトをこのグループに割り当てることができます。
- 保存** をクリックします。 **ユーザー グループ** ページに戻ります。新しいグループが一覧に表示されます。

グループ アカウントを編集する

グループ アカウントを編集するには：


- メニューで **管理 > ユーザー管理** をクリックします。
- グループ** タブをクリックします。
- 編集するグループ アカウントの名前を [グループ名] でクリックします。 **既存ユーザー グループの設定** ページが表示されます。
- グループ名** テキスト ボックスで、必要に応じて名前を編集します。
- 説明** テキスト ボックスで、必要に応じてグループの説明を編集します。
- ユーザーおよびロールの割り当てをそれぞれのリスト ボックスから選択し、**選択項目の追加** をクリックして、新しいグループ アカウントにユーザーとロールの組み合わせを追加します。

 **注:** 新しいユーザーの割り当てを受け付けないように定義されているユーザー ロールは、このリストに表示されません。これらの設定は、**管理 > ユーザー管理 > ロール** の **新しい割り当てを許可** ボタンで制御できます。

- 前のステップを繰り返して、必要なすべてのユーザーとロールの組み合わせをグループ アカウントに割り当てます。
- 現在のグループ アカウントからユーザーとロールの組み合わせを削除するには、**アクション** 列の **×** をクリックします。
- プロジェクトの割り当て** セクションでは、任意の既存プロジェクトをこのグループに割り当てることができます。
- 保存** をクリックして **グループ** ページに戻ります。

グループ アカウントを削除する

グループ アカウントを削除する方法について説明します。

 **注:** グループ アカウントを削除する前に、対象グループからすべてのユーザーとロールの割り当てを削除する必要があります。グループ アカウントを変更する方法の詳細については、「グループ アカウントを編集する」を参照してください。

グループ アカウントを削除するには：

- メニューで **管理 > ユーザー管理** をクリックします。
- グループ** タブをクリックします。
- 削除するグループ アカウントの **アクション** 列で、**×** をクリックします。確認ダイアログ ボックスが表示されます。
- はい** をクリックすると操作が続行され、**いいえ** をクリックすると中止されます。**はい** を選択した場合は、ユーザー アカウントのリストに戻ります。削除したアカウントは表示されません。

[グループ] 設定ページ

管理 > ユーザー管理 > グループ > グループの新規作成/編集


グループの設定 ページは、グループ アカウントの設定に使用します。グループ アカウントの設定は、ユーザー アカウントの設定と密接に関連しています。このページには、次の項目があります。

項目	説明
グループ名	GUI に表示されるグループの名前を指定します。 任意のグループ名を定義できます。
説明	グループ アカウントの説明です。 任意の説明文を入力できます。
アカウントおよびロールの割り当て	グループの既存のユーザー/ロールの全割り当てのリストが表示されます。 ユーザーとロールの割り当てを削除することもできます。 そのためには、削除する割り当ての隣にある X をクリックします。
ユーザー	このリスト ボックスには、管理者が定義したユーザー アカウントのリストが表示されます。 グループに割り当てるユーザーを選択します。
ユーザー ロール	このリストは、あらかじめ定義されたシステム ロールとカスタムのユーザー ロールで構成されます。 選択したグループに割り当てるユーザーのユーザー ロールを選択します。
選択項目の追加	選択したユーザーとユーザー ロールを使用して、新しいユーザー アカウントとユーザー ロールの割り当てを作成する場合にクリックします。
プロジェクトの割り当て	既存の全プロジェクトのリストが表示され、それぞれがグループ アカウントに割り当てられているかどうかを示されます。 プロジェクトの隣のチェック ボックスをオンにすると、プロジェクトがグループ アカウントに割り当てられます。 プロジェクトが存在しない場合は、後でプロジェクトを作成してから割り当てることができます。
すべて選択	リストに表示されているすべてのプロジェクトのチェック ボックスをオンにします。
すべて選択解除	リストに表示されているすべてのプロジェクトのチェック ボックスをオフにします。

プロジェクトを管理する

このトピックでは、SilkCentral でのプロジェクトの概念的な背景について説明します。

プロジェクトは、SilkCentral アプリケーションでの作業を始めるための前提条件です。 プロジェクトは、関連のあるタスクと結果のセットに対するコンテナとして機能します。 プロジェクト マネージャやアナリストなどのリソースは、ユーザー グループに割り当てられることで、プロジェクトに割り当てられます。 ユーザー グループには、特定のプロジェクトに対するアクセス権が与えられています。

 **注:** プロジェクトは、管理者、プロジェクト マネージャ、および「スーパーユーザー」のロールを作成して管理できます。

プロジェクトを追加する



プロジェクトを作成するには：

1. メニューで **プロジェクト > プロジェクト リスト** をクリックします。 **プロジェクト** ページに、既存のすべてのプロジェクトとプロジェクト ベースラインが一覧表示されます。
2. **プロジェクトの新規作成** をクリックします。 **プロジェクト設定** ページが表示されます。


3. **プロジェクト名** と **説明** に入力します。
4. **プロジェクトの所有者** を選択します。
5. 省略可能：アジャイル プロジェクト テンプレートに基づいてプロジェクトを作成するには、アジャイル プロジェクト テンプレートを **プロジェクト テンプレート** リスト ボックスから選択します。
6. **グループ** セクションには、登録ユーザー グループのリストが含まれます。このプロジェクトで作業するユーザー グループの **割り当て済み** チェック ボックスをオンにします。
7. ページの一番下にロケーションのリストがあります。このプロジェクトのタスクを実行するロケーションのチェック ボックスをオンにします。 **すべて選択** をクリックすると、すべてのロケーションがプロジェクトに割り当てられます。 **すべて選択解除** をクリックすると、ロケーションは選択されません。
8. **保存** をクリックして設定を保存します。 **プロジェクト リスト** ページに戻ります。新しいプロジェクトが一覧表示されます。

プロジェクトとプロジェクト ベースラインを編集する

既存のプロジェクトまたはプロジェクト ベースラインを編集するには：

1. メニューで **プロジェクト > プロジェクト リスト** をクリックします。 **プロジェクト** ページに、既存のすべてのプロジェクトとプロジェクト ベースラインが一覧表示されます。
2. 編集するプロジェクトまたはプロジェクト ベースラインの [アクション列] で、 をクリックします。
 **注:** プロジェクトまたはプロジェクト ベースラインは、非アクティブである必要があります。
3. 必要に応じて、**プロジェクト名** と **説明** を編集します。
4. **プロジェクトの所有者** を必要に応じて変更します。
5. **アクティブ** チェック ボックスをオンにして、プロジェクトまたはプロジェクト ベースラインをアクティブにします。
6. **グループ** セクションには、登録ユーザー グループのリストが含まれます。このプロジェクトで作業するユーザー グループの **割り当て済み** チェック ボックスをオンにします。
7. ページの一番下にロケーションのリストがあります。このプロジェクトのタスクを実行するロケーションのチェック ボックスをオンにします。 **すべて選択** をクリックすると、すべてのロケーションがプロジェクトに割り当てられます。 **すべて選択解除** をクリックすると、ロケーションは選択されません。
8. **保存** をクリックして設定を保存します。 **プロジェクト リスト** ページに戻ります。

プロジェクトとプロジェクト ベースラインをアクティブまたは非アクティブにする

 **注:** **プロジェクト リスト** ページから既存のプロジェクトまたはプロジェクト ベースラインをアクティブまたは非アクティブにすることもできます。詳細については、「プロジェクトを編集する」を参照してください。

既存のプロジェクトまたはプロジェクト ベースラインをアクティブまたは非アクティブにするには：

1. メニューで **プロジェクト > プロジェクト リスト** をクリックします。 **プロジェクト** ページに、既存のすべてのプロジェクトとプロジェクト ベースラインが一覧表示されます。
2. アクティブまたは非アクティブにするプロジェクトまたはプロジェクト ベースラインの **ステータス** 列で、**アクティブ/非アクティブ** をクリックします。確認ダイアログ ボックスに、アクティブ化/非アクティブ化を確認するメッセージが表示されます。
3. メッセージを確認して、プロジェクトのステータスを [アクティブ] と [非アクティブ] で切り替えます。

プロジェクトまたはプロジェクトベースラインをコピーする

既存のプロジェクトまたはプロジェクトベースラインを新しいプロジェクトにコピーする方法について説明します。




注意: プロジェクトまたはプロジェクトベースラインをコピーすると、コピーするプロジェクトまたはプロジェクトベースラインのサイズによりませんが、数分間データベースがロックされます。プロジェクトまたはプロジェクトベースラインのコピーは、サービス停止時間中、SilkCentralでユーザーの作業が最小限のときに実行することをお勧めします。



注: 元のプロジェクトまたはプロジェクトベースラインが含まれている場合、コピー中はスケジューリングオプションが「なし」に設定されます。

プロジェクトまたはプロジェクトベースラインをコピーするには：

1. メニューで **プロジェクト > プロジェクトリスト** をクリックします。プロジェクト ページに、既存のすべてのプロジェクトとプロジェクトベースラインが一覧表示されます。
2. コピーするプロジェクトまたはプロジェクトベースラインの **アクション** 列で、 をクリックします。プロジェクトのコピー ダイアログ ボックスが表示されます。
3. **新しいプロジェクト名** テキストボックスに、新しいプロジェクトの名前を入力します。
4. [コピーする追加情報] の各チェックボックス (新しいプロジェクトと共にコピーする情報に対応) をオンにします。 **テスト履歴** チェックボックスをオンにすると、バージョンもコピーされます。チェックボックスの詳細については、「[プロジェクトのコピー] ダイアログ ボックス」を参照してください。
5. **OK** をクリックします。

プロジェクトまたはプロジェクトベースラインが Issue Manager で初期化された場合は、**プロジェクトのコピー - Issue Manager** ダイアログ ボックスが表示されます。

ユーザーのプロジェクトまたはプロジェクトベースラインが Issue Manager で初期化されていない場合、または Issue Manager がインストールされていない場合は、Issue Manager に依存したデータはコピーされないというメッセージが表示されます。

Issue Manager に対してプロジェクトを初期化する方法の詳細については、Issue Manager のドキュメントを参照してください。

6. **問題のコピー** チェックボックスをオンにして、ソースプロジェクトの既存の問題すべてを新しいプロジェクトにコピーします。
7. **アーカイブされた問題のコピー** チェックボックスをオンにして、ソースプロジェクトのアーカイブ済みの問題すべてを新しいプロジェクトにコピーします。
8. **OK** をクリックします。
9. **プロジェクトのコピー** ダイアログ ボックスで **はい** をクリックして、コピー プロセスを開始することを確認します。このとき、処理に数分かかることが示されます。コピー プロセスが完了したら、コピーされた内容がダイアログ ボックスに表示され、プロジェクトをアクティブにするか確認メッセージが表示されます。これにより Test Manager の [プロジェクト] ビューでプロジェクトを利用できます。


プロジェクトとプロジェクトベースラインを削除する



注意: プロジェクトまたはプロジェクトベースラインを削除すると、リポジトリからすべての関連する結果が恒久的に削除されます。プロジェクトまたはプロジェクトベースラインに関連付けられたすべてのコンテンツも破棄されます。結果を保持する場合は、プロジェクトまたはプロジェクトベースラインを削除するのではなく、非アクティブに設定することをお勧めします。プロジェクトとプロジェクトベースラインを非アクティブにする方法については、「プロジェクトまたはプロジェクトベースラインをアクティブまたは非アクティブにする」を参照してください。

プロジェクトまたはプロジェクトベースラインを削除するには：

1. メニューで **プロジェクト > プロジェクト リスト** をクリックします。 **プロジェクト** ページに、既存のすべてのプロジェクトとプロジェクトベースラインが一覧表示されます。
2. 削除するプロジェクトまたはプロジェクトベースラインの **アクション** 列で、**X** をクリックします。

 **注:** プロジェクトまたはプロジェクトベースラインは、非アクティブである必要があります。


削除の確認を求めるメッセージが確認ダイアログボックスに表示されます。

3. **はい** をクリックするとプロジェクトまたはプロジェクトベースラインが削除され、**いいえ** をクリックすると削除が中止されます。**はい** を選択した場合は、プロジェクトのリストに戻ります。削除したプロジェクトまたはプロジェクトベースラインは表示されません。

[プロジェクトのコピー] ダイアログボックス

プロジェクト > プロジェクト リスト > プロジェクトのコピー

このダイアログボックスは、既存のプロジェクトを新しいプロジェクトにコピーするために使用します。

 **注:** [コピーする追加情報] の各チェックボックス（新しいプロジェクトと共にコピーする情報に対応）をオンにします。追加情報の種類を選択しないと、グループ割り当て、ロケーション割り当て、プロジェクト設定だけが行われている空のプロジェクトがコピーされます。

項目	説明
新しいプロジェクト名	既存のプロジェクトをコピーする新しいプロジェクトの名前を指定します。
新しいプロジェクトの説明	既存のプロジェクトをコピーする新しいプロジェクトの説明を指定します。
設定	プロジェクトの設定、フィルタ、属性、カスタム要件プロパティ、変更通知、および統合構成情報を新しいプロジェクトにコピーするには、このチェックボックスをオンにします。サードパーティ インテグレーションの構成設定情報はコピーされません。
要件ツリー (要件設定を含む)	要件ごとのすべての情報（プロパティ、添付ファイルなど）と共に、要件ツリーをコピーするには、このチェックボックスをオンにします。サードパーティ要件情報はコピーされません。プロジェクトを外部の要件管理システム用に設定してある場合は、RMS の設定をプロジェクトのコピーに転送するかどうかの指定を求められます。
要件履歴	要件ごとの履歴情報をコピーするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、 要件ツリー (要件設定を含む) をオンにした場合にのみ指定できません。
テスト ツリー (テスト設定を含む)	テストごとのすべての情報と共に、テスト ツリーをコピーするには、このチェックボックスをオンにします。 要件ツリー (要件設定を含む) および テスト ツリー (テスト設定を含む) の両方をオンにすると、前記の情報に加えて、要件テスト の間の関係に関連する情報（割り当て済み要件と割り当て済みテスト）もコピーされます。
テスト履歴	テストごとの履歴情報をコピーするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、 テストツ

項目	説明
実行計画ツリー (テスト ツリーを含む)	リー (テスト設定を含む) をオンにした場合にのみ指定できます。
テストの最近の実行	実行計画ごとのすべての情報と共に、実行ツリーをコピーするには、このチェック ボックスをオンにします。
レポート	テストごとの前回の実行をコピーするには、このチェック ボックスをオンにします。このオプションは、 実行計画ツリー (テスト ツリーを含む) をオンにした場合にのみ指定できます。 要件ツリー (要件設定を含む) 、 実行計画ツリー (テスト ツリーを含む) 、および テスト定義の最近の実行 をオンにすると、すべてのツリーがそっくりコピーされます。ツリー間の関係も確立されます。
レポート	プロジェクト関連のすべてのレポートを新しいプロジェクトにコピーするには、このチェック ボックスをオンにします。

Issue Manager の場合、ダイアログ ボックスには次のチェック ボックスも別途表示されます。

[プロジェクトのコピー — Issue Manager] ダイアログ項目	説明
問題のコピー	このチェック ボックスをオンにすると、ソースプロジェクトの既存の問題がすべて、新しいプロジェクトにコピーされます。
アーカイブされた問題のコピー	このチェック ボックスをオンにすると、ソースプロジェクトのアーカイブされた問題がすべて、新しいプロジェクトにコピーされます。

どちらのチェック ボックスもオンにしないと、問題データは新しいプロジェクトにコピーされません。

ソースプロジェクトの設定は、新しいプロジェクトに自動的にコピーされます。次の設定が含まれます。

- 製品
- GUI 設定
- 通知ルールとシステム全体のトリガ
- ルーティングルール
- ワークフロー
- 受信箱のユーザー ビュー
- ワークグループ
- 受信箱
- ユーザー アカウントの設定

[プロジェクト設定] ページ

プロジェクト > 新しいプロジェクト

プロジェクト設定 ページは、プロジェクトの設定に使用します。このページには、次の項目があります。

項目	説明
プロジェクト名	GUI とレポートに表示されるプロジェクトの名前を指定します。

項目	説明
説明	プロジェクトの説明です。任意の説明文を入力できます。
プロジェクトの所有者	プロジェクトの所有者を指定します。選択したユーザーアカウントに特別な権限が与えられることはありません。この設定は単に情報を提供するものです。
アクティブ	プロジェクトを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。非アクティブのプロジェクトは、アプリケーションに表示されません。
プロジェクト テンプレート	このリスト ボックスでは、プロジェクトがアジャイル テンプレートに基づいているかどうかを定義します。 アジャイルプロジェクト テンプレート を選択して、アジャイルプロジェクト管理ツールのためのテンプレートに基づいたプロジェクトを作成するか、 <なし> を選択して、シンプルなプロジェクトを作成します。
グループ	既存の全ユーザー グループのリストが表示され、それぞれがプロジェクトに割り当てられているかどうかを示されます。ユーザー グループの隣のチェックボックスをオンにすると、グループがプロジェクトに割り当てられます。ユーザー グループが存在しない場合は、後でユーザー グループを作成してから割り当てることができます。また、グループ/プロジェクトの割り当ては、 グループの設定 ページで設定することもできます。権限は、ユーザー ロールによって異なります。ユーザー権限については、「ユーザー ロールとアクセス許可」を参照してください。
すべて選択	リストに表示されているすべてのグループのチェックボックスをオンにします。
すべて選択解除	リストに表示されているすべてのグループのチェックボックスをオフにします。
ロケーション	既存の全ロケーションのリストが表示され、それぞれがプロジェクトで使用できるかどうかを示されます。ロケーションの隣のチェックボックスをオンにすると、ロケーションがプロジェクトに割り当てられます。ロケーションが存在しない場合は、後でロケーションを作成してから割り当てることができます。また、ロケーション/プロジェクトの割り当ては、 ロケーション設定 ページで設定することもできます。
すべて選択	リストに表示されているすべてのロケーションのチェックボックスをオンにします。
すべて選択解除	リストに表示されているすべてのロケーションのチェックボックスをオフにします。

プロジェクト ベースライン

このトピックでは、SilkCentral でのプロジェクト ベースラインの概念的な背景について説明します。

プロジェクト ベースラインはある時間におけるプロジェクトのスナップショットで、任意のプロジェクトまたは別のプロジェクト ベースラインに対して作成できます。プロジェクト ベースラインには、プロジェ


クトの各実行計画の前の実行も含まれます。プロジェクトベースラインに含まれているスケジュールオプションは、前回の実行の実行ステータスが失われることを回避するために、最初は「なし」に設定されます。プロジェクトベースラインは、たとえば、リリース直後のプロジェクトのスナップショットを保存するために使用します。Test Manager のベースラインの比較レポートには、プロジェクト内で、プロジェクトベースラインと比較して現在異なっているテストの量が示されます。レポートの詳細については、Test Manager のヘルプを参照してください。


テスト 領域の要素を含む新しいプロジェクトベースラインのそれぞれについて、その要素の履歴 ページに、プロジェクトベースラインへのリンクおよびプロジェクトベースライン内の対応する要素を含むエントリが示されます。要素をプロジェクトベースラインの一部として作成した場合には、履歴 ページの最初のエントリに、元のプロジェクトへのリンクおよび元のプロジェクト内の対応する要素が含まれます。

元のプロジェクトのテストにライブラリからの共有ステップ オブジェクトの呼び出しが含まれている場合、プロジェクトベースラインの作成時に、すべての呼び出しを解決または保持するかを定義できます。プロジェクトベースラインのライブラリ上の表示設定は、元のプロジェクトと同じになります。共有ステップ オブジェクトの詳細については、Test Manager のヘルプを参照してください。


 **注:** プロジェクトベースラインは、管理者、プロジェクト マネージャ、およびスーパーユーザーの各ロールで作成できます。

プロジェクトのベースラインを作成する

 **注意:** プロジェクトのベースラインを作成すると、ベースラインを作成するプロジェクトのサイズにより、数分間データベースがロックされます。プロジェクトのベースラインの作成は、サービス停止時間中、SilkCentral でユーザーの作業が最小限のときに実行することをお勧めします。

 **注:** 元のプロジェクトにスケジュールが含まれている場合、前回の実行ステータスが失われるのを防ぐため、新しいベースラインのスケジュールリング オプションが「なし」に設定されます。元のプロジェクトのテストに共有ステップ オブジェクトへの呼び出しが含まれている場合、ベースライン化されたテストでも同じ共有ステップ オブジェクトを呼び出します。ベースラインを作成すると、ベースラインに含まれる各テストの履歴 ページが、ベースラインのエントリで更新されます。

プロジェクトのベースラインを作成するには：

1. メニューで **プロジェクト > プロジェクト リスト** をクリックします。プロジェクト ページに、既存のすべてのプロジェクトとプロジェクトベースラインが一覧表示されます。
2. ベースラインを作成するプロジェクトの **アクション** 列で、 をクリックします。プロジェクトのベースライン化 - Test Manager ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 新しいベースラインの名前と説明を入力します。
4. 省略可能：プロジェクトにライブラリからの共有ステップを使用するテストが含まれている場合は、**ライブラリ資産の処理方法** セクションで共有ステップの処理方法を定義します。
 - **ライブラリ資産をデタッチする** をクリックして、すべての手動テスト ステップを、それが含まれている共有ステップ オブジェクトからデタッチし、ベースラインのテストに含めます。このオプションを選択して、履歴または監査を目的とするプロジェクトベースラインを作成します。
 - **ライブラリ資産への参照を保持する** をクリックして、ベースラインのテストに含まれている、手動テスト ステップから共有ステップ オブジェクトへのすべての参照を保持します。このオプションを選択して、たとえばプロジェクトの新バージョンのような、実行中のテストを目的とする作業コピーを作成します。
5. 省略可能：プロジェクトに手動テストが含まれている場合は、**テスト資産のバージョン化** セクションで、元のプロジェクトおよびベースラインのテストに対して新しいバージョンを作成するかどうかを定義します。
 - **元のプロジェクトのすべての資産に新しいバージョンを作成する** チェック ボックスをオンにすると、元のプロジェクト内の共有ステップを持つすべての手動テストに対して新しいバージョンが作成されます。

- **新しいベースラインのすべての資産に新しいバージョンを作成する** チェック ボックスをオンにすると、ベースライン内の共有ステップを持つすべての手動テストに対して新しいバージョンが作成されます。



注: データ駆動型インスタンスに対してはバージョンは作成されません。

6. **OK** をクリックします。 **プロジェクトのベースライン化** ダイアログ ボックスが表示され、操作の完了に数分かかることが示されます。
7. **はい** をクリックして続行します。 **プロジェクトのベースライン化 - プロジェクト設定の適用** ダイアログ ボックスが表示されます。 このダイアログ ボックスには、元のプロジェクトに対して構成されたすべてのソース管理プロファイルと共に、要件インテグレーション設定が表示されます。
8. 対応する **編集** ボタンをクリックして、ソース管理プロファイル内の適切なベースライン、ブランチ、ラベル、または他の参照箇所にプロジェクトベースラインをリンクするか、要件インテグレーション設定を変更します。



注: ソース管理プロファイルの編集の詳細については、*Test Manager* のヘルプを参照してください。

9. **完了** をクリックして、ベースラインの作成を完了します。
- 10 **プロジェクトのベースライン化** ダイアログ ボックスで **はい** をクリックして、新しいベースラインをアクティブにします。

プロジェクト テンプレート

このトピックでは、SilkCentral でのプロジェクト テンプレートの概念的な背景について説明します。

アジャイル プロジェクト テンプレートは、SilkCentral と VersionOne または他のアジャイル プロジェクト管理ツールとのやり取りをサポートするために使用されます。 テンプレートは、特定の属性スプリント やリリースを持ったプロジェクトです。 このテンプレートに基づいて新しいプロジェクトを作成すると、デフォルト テスト コンテナおよびデフォルト フォルダも作成されます。 プロジェクト管理ツールがテストを作成すると、そのテストがこのデフォルト フォルダに追加されていきます。 このテスト コンテナやフォルダに対してソース管理プロファイルや製品は指定されていないため、これらは不完全としてマーク付けされます。

ロケーションを管理する

このトピックでは、SilkCentral でのロケーションの概念的な背景について説明します。

ロケーションとは、実行サーバーの論理的なコンテナです。 実行サーバーを設定する方法については、「実行サーバーを設定する」を参照してください。 SilkCentral では PoP (Points of Presence) の世界的な分散 (実行サーバーの分散) がサポートされているため、実行サーバーをグループ化して複数のロケーションに配置することが理想的です。



注: SilkCentral は、ローカル と呼ばれるデフォルトのロケーションを自動的に作成します。

ロケーションを追加する

新しいロケーションを追加するには :


1. メニューで **管理 > 実行サーバー** をクリックします。
2. **ロケーションの新規作成** をクリックします。
ロケーションの新規作成 ダイアログ ボックスが表示されます。
3. **名前** にロケーション名を入力します。

4. プロキシ サーバーのロケーションを指定した場合は、**システムプロキシを使用** チェック ボックスをオンにします。
詳細については、「システムプロキシを設定する」を参照してください。
5. **ロケーションプロキシ** セクションで、このロケーションの実行サーバーがアプリケーション サーバーと通信する場合に経由するプロキシ サーバーを定義できます。
6. **ホスト** テキスト ボックスに、プロキシ サービスのホストとなるコンピュータ名を入力します。
7. **ポート** テキスト ボックスに、プロキシ ホストのポート番号を入力します。
8. プロキシ サーバーでユーザー名/パスワード認証が必要な場合は、**ユーザー** テキスト ボックスおよび**パスワード** テキスト ボックスに有効な認証情報を入力します。
9. **プロジェクト** セクションには、既存プロジェクトのリストが含まれます。このロケーションに割り当てられるプロジェクトの**割り当て済み** チェック ボックスをオンにします。
- 10 **保存** をクリックして新しいロケーションを追加します。 **ロケーション** ページに戻ります。新しいロケーションが一覧に表示されます。

ロケーションを編集する

ロケーションを編集する方法を説明します。

ロケーションを編集するには：


1. メニューで **管理 > 実行サーバー** をクリックします。
2. 変更するロケーションの **アクション** 列で、 をクリックします。
ロケーションの編集 ダイアログ ボックスが表示されます。
3. **名前** を必要に応じて変更します。
4. プロキシ サーバーのロケーションを指定した場合は、**システムプロキシを使用** チェック ボックスをオンにします。
詳細については、「システムプロキシを設定する」を参照してください。
5. **ロケーションプロキシ** セクションで、このロケーションの実行サーバーがアプリケーション サーバーと通信する場合に経由するプロキシ サーバーを定義できます。
6. **ホスト** テキスト ボックスに、プロキシ サービスのホストとなるコンピュータ名を入力します。
7. **ポート** テキスト ボックスに、プロキシ ホストのポート番号を入力します。
8. プロキシ サーバーでユーザー名/パスワード認証が必要な場合は、**ユーザー** テキスト ボックスおよび**パスワード** テキスト ボックスに有効な認証情報を入力します。
9. **プロジェクト** セクションには、既存プロジェクトのリストが含まれます。このロケーションに割り当てられるプロジェクトの**割り当て済み** チェック ボックスをオンにします。
- 10 **保存** をクリックします。 **ロケーション** ページに戻ります。

ロケーションを削除する



ヒント: ロケーションを削除する前に、割り当てられているすべての実行サーバーをそのロケーションから削除する必要があります。詳細については、「実行サーバーを削除する」を参照してください。

ロケーションを削除するには：

1. メニューで **管理 > 実行サーバー** をクリックします。
2. 削除するロケーションの **アクション** 列で、 をクリックします。削除の確認を求めるメッセージが確認ダイアログ ボックスに表示されます。
3. **はい** をクリックするとロケーションが削除され、**いいえ** をクリックすると削除が中止されます。**はい** を選択した場合は、ロケーションのリストに戻ります。削除したロケーションは表示されません。

[ロケーションの新規作成] ダイアログ ボックス

管理 > 実行サーバー > ロケーション > ロケーションの新規作成/編集

ロケーションの新規作成 ダイアログ ボックスは、ロケーションの設定に使用します。

項目	説明
名前	GUI とレポートに表示されるロケーションの名前を指定します。
システム プロキシを使用	この設定を有効にすると、そのロケーションのすべての実行サーバーが、強制的に定義済みのシステム プロキシを通してアプリケーション サーバーと通信するようになります。この設定が有効でない場合、ロケーション プロキシを定義しない限り、アプリケーション サーバーは実行サーバーと直接通信します。システム プロキシが定義されていない場合、このチェック ボックスは無効になります。
ロケーション プロキシ	<p>この領域では、このロケーションの実行サーバーがアプリケーション サーバーと通信するときに経由するプロキシサーバーを定義します。このロケーションの実行サーバーをアプリケーション サーバーと直接通信させる場合、または システム プロキシを使用 オプションをオンにした場合は、このフィールドを空欄のままにします。また、システム プロキシとロケーション プロキシを両方とも定義することもできます。その場合は、通信は両方のプロキシを通してトンネルされます。</p> <p>SSL (Secure Sockets Layer) がサポートされるロケーション プロキシのみを定義できます。すべての実行サーバーは、プロキシの SSL ポートを使用する必要があります。実行サーバーの設定の詳細については、「実行サーバーを設定する」を参照してください。</p>
ホスト名	プロキシ サービスをホストするコンピュータの名前。
ポート	プロキシ ホストのポート番号。デフォルトのポートは 443 です。
ユーザー名	プロキシ サーバーでユーザー名/パスワード認証が必要な場合は、有効なユーザー名を入力します。
パスワード	プロキシ サーバーでユーザー名/パスワード認証が必要な場合は、 ユーザー名 テキスト ボックスで指定したユーザー名の有効なパスワードを入力します。
割り当て先プロジェクト	既存の全プロジェクトのリストが表示されます。プロジェクトの隣のチェック ボックスをオンにすると、プロジェクトがロケーションに割り当てられます。プロジェクトが存在しない場合は、後でプロジェクトを作成してから割り当てることができます。詳細については、「プロジェクトを追加する」を参照してください。選択したプロジェクトは、そのロケーションの実行サーバーにアクセスできるようになります。
すべて選択	リストに表示されているすべてのプロジェクトのチェック ボックスをオンにします。

項目	説明
すべて選択解除	リストに表示されているすべてのプロジェクトのチェックボックスをオフにします。

実行サーバーを設定する

SilkCentral の実行サーバーは、スケジュール設定されたテスト（たとえば、SilkTest Classic スクリプトや SilkPerformer スクリプトなど）の実行を担当します。SilkTest Classic テストや SilkPerformer テストを実行するには、SilkTest Classic の実行サーバーがインストールされているのと同じコンピュータに SilkPerformer または SilkCentral のソフトウェアがインストールされている必要があります。

マルチバイト アプリケーションや Web ページに対して SilkPerformer スクリプトを実行する際は、*SilkPerformer* のヘルプのマルチバイト サポート セクションに目を通してください。

実行サーバーのインストールに関する詳細については、それぞれの SilkCentral 製品のヘルプを参照してください。また、SilkTest Classic と SilkPerformer については、それぞれの製品のドキュメントを参照してください。

キーワードを用いたハードウェアプロビジョニング

Test Manager のハードウェアプロビジョニング技術は、多数の実行サーバーが含まれているテスト環境の管理に役立ちます。各実行サーバーと実行計画の間に 1 対 1 の直接的関係を構成しなくても、キーワードによって Test Manager は各実行計画に最適な実行サーバーを選択することができます。これは、実行計画のキーワードリストとすべてのアクティブ実行サーバーのキーワードリストを動的に比較することで実現されます。

キーワードには通常、実行サーバーの環境（たとえば、プラットフォーム、オペレーティングシステム、インストール済みのアプリケーションなど）を記述します。Test Manager は実行計画の実行時に、その実行計画のキーワードと使用可能なすべての実行サーバーのキーワードを比較します。次に、実行計画のキーワードリストに一致する実行サーバーで実行が行われます。一致する実行サーバーがなければ、実行は行われません。キーワードリストの一致する実行サーバーが複数ある場合は、最初に見つかった実行サーバーで実行が行われます。

予約済みのデフォルト キーワード

ハードウェアプロビジョニングが必要でない場合は、実行サーバーごとに自動的に生成される予約済みキーワードを利用することができます。そのような場合は、実行サーバーにキーワードを手動で割り当てる必要はありません。その代わりに、各実行計画に実行サーバーを 1 対 1 で静的に割り当てることができます。

新規作成された各実行サーバーには予約済みキーワードが自動的に割り当てられます。予約済みキーワードは、次の形式で構成されます。

```
#<execution name>@<location name>
```

予約済みキーワードは、実行計画にキーワードを割り当てる際に利用できます。実行サーバーにキーワードを割り当てる際には利用も適用もできません。

定義済みの実行サーバーごとに自動的にセットアップされる予約済みキーワードの他に、実行サーバーの種類ごとに以下の予約済みキーワードもセットアップされます。

#PHYSICAL 実行サーバー プロビジョニングを物理実行サーバーに限定します。

#VIRTUAL 実行サーバー プロビジョニングを仮想実行サーバーに限定します。

キーワードと仮想実行サーバー


仮想実行サーバーへのキーワードの割り当ては、物理実行サーバーへの割り当てと同様です。仮想実行サーバーを少なくとも 1 つ構成すると、#VIRTUAL キーワードが動的に生成され、どの実行計画にも割り当


てられるようになります。実行が仮想マシンで実行されるようにする場合、その実行計画には #VIRTUAL キーワードを選択します。実行計画に #VIRTUAL キーワードと #PHYSICAL キーワードが両方とも割り当てられていない(あるいは、割り当てられている)場合、実行環境の設定が同じと仮定すると、その実行は仮想実行サーバーか物理実行サーバーのどちらかで行われる可能性があります。実行計画のキーワードが複数の仮想実行サーバーに一致する場合は、一致する仮想実行サーバーの中で最初に見つかったものが選択されます。


物理実行サーバーを設定する

物理実行サーバーを設定するには：


1. メニューで **管理 > 実行サーバー** をクリックします。
2. 物理実行サーバーを設定するロケーションの名前をクリックします。
 - 新しい実行サーバーを作成するには、**実行サーバーの新規作成** をクリックします。
 - 既存の実行サーバーを編集するには、**アクション** 列でそれぞれ対応する **編集** ボタンをクリックします。


 **注:** これらのプロパティを編集する前に、実行サーバーを非アクティブにしておく必要があります。ただし、アクティブになっている実行サーバーのキーワード リストを実際には編集できます。
3. **名前** と **説明** に、実行サーバーの名前と説明をそれぞれ入力します。
4. **物理実行サーバー** オプション ボタンをクリックします。
5. **ホスト名または IP アドレス** テキスト ボックスに有効なホスト名または IP アドレスを入力します。
6. **ポート** テキスト ボックスに実行サーバーがリスンするポートを指定します。

 **注:** SSL を使用して実行サーバーに接続する場合は、**SSL を使用する** チェック ボックスをオンにします。

 **ヒント:** 標準でない SSL ポートから実行サーバーに接続する場合は、「実行サーバーの標準ではない SSL ポートを設定する」を参照してください。
7. **応答タイムアウト [秒]** テキスト ボックスに、応答タイムアウト (秒単位) を入力します。
8. **キーワード** をクリックしてリストからキーワードを選択するか、実行サーバーを説明する新しいキーワードを入力します。

これらのキーワードは、各実行に適切なサーバーを動的に選択するために、実行時に分析されます。詳細については、「実行サーバーのキーワードを新規に作成する」および「実行サーバーにキーワードを割り当てる」を参照してください。
9. 実行サーバーをアクティブにするには、**アクティブ** チェック ボックスをオンにします。


 **注:** 実行サーバーのバージョンが不適切な古いバージョンであっても、それが SilkCentral Test Manager 2009 SP1 以降である場合、その実行サーバーは最新の Test Manager バージョンに自動的にアップグレードされます。実行サーバーのリストの **情報** 列に、更新に関するメッセージが Test Manager によって表示されます。アップグレード手順が完了しない限り、そのアップグレード中の実行サーバーは使用されません。

 **注:** 実行サーバーに対してテスト接続を確立するには、**接続のテスト** をクリックします。実行サーバーに正常に接続したことを示すメッセージが表示されます。エラー メッセージが表示される場合は、設定が正しいこと、ネットワークが適切に構成されていること、および設定している実行サーバーに必要なソフトウェアがインストールされていることを確認してください。
- 10 設定を保存するには、**OK** をクリックします。これで、サーバーが **ロケーション** タブの利用可能な実行サーバーのリストに表示されます。これで、この実行サーバーでテストを実行できるようになりました。

実行サーバーのキーワードを新規に作成する

実行サーバーのキーワードを新規作成するには：

1. メニューで **管理 > 実行サーバー** をクリックします。

2. 定義済みロケーションの名前をクリックして、そのロケーションに定義されている実行サーバーのリストを表示します。
3. 定義済み実行サーバーの **アクション** 列で、 をクリックするか、または **実行サーバーの新規作成** をクリックして新しい実行サーバーのキーワードを作成します。
その結果表示されるダイアログ ボックスの **キーワード** セクションに、現在割り当てられているキーワードがすべて一覧表示されます。物理実行サーバーの設定の詳細については、「物理実行サーバーを設定する」を参照してください。仮想実行サーバーの設定の詳細については、「VMware Lab Manager で仮想実行サーバーを設定する」を参照してください。
4. **キーワード** をクリックします。 **キーワードの割り当て** ダイアログ ボックスが表示されます。
5. 実行サーバー上の環境（プラットフォーム、オペレーティング システム、あらかじめインストールされているアプリケーションなど）を記述する英数字キーワードを **キーワード** テキスト ボックスに入力します。

次の文字は、キーワードに使用できません。

- #
- \$
- ?
- *
- ¥
- /
- ;
- |
- "




注: キーワードでは、大文字/小文字は区別されません。たとえば、「Vista」および「vista」は同じキーワードとして扱われます。

6. **Enter** を押します。これで新しいキーワードが、割り当てに利用できるようになりました。

実行サーバーにキーワードを割り当てる

実行サーバーにキーワードを割り当てるには：

1. メニューで **管理 > 実行サーバー** をクリックします。
2. 定義済みロケーションの名前をクリックして、そのロケーションに定義されている実行サーバーのリストを表示します。
3. 定義済み実行サーバーの **アクション** 列で、 をクリックするか、または **実行サーバーの新規作成** をクリックして新しい実行サーバーにキーワードを割り当てます。
その結果表示されるダイアログ ボックスの **キーワード** セクションに、現在割り当てられているキーワードがすべて一覧表示されます。物理実行サーバーの設定の詳細については、「物理実行サーバーを設定する」を参照してください。仮想実行サーバーの設定の詳細については、「VMware Lab Manager で仮想実行サーバーを設定する」を参照してください。
4. **キーワード** をクリックします。
5. **キーワードの割り当て** ダイアログ ボックスで、**キーワードの選択または入力** リストにあるキーワードを選択します。


キーワードの選択または入力 リストには、まだ割り当てられていない選択可能なキーワードがすべて一覧表示されています。ただし、新しくインストールした Test Manager で作業している場合は、選択可能なキーワードが表示されないことがあります。




注: **キーワードの割り当て** ダイアログ ボックスには表示されませんが、システムに構成されている実行サーバーごとに予約済みキーワードが作成されます。これらの予約済みキーワードは、実行計画にキーワードを割り当てる際にのみ利用できます。

6. **キーワードの選択または入力** リストから、実行サーバー上の環境（プラットフォーム、オペレーティングシステム、あらかじめインストールされているアプリケーションなど）を記述するキーワードを選択します。

Windows の標準的な複数選択機能である **Ctrl + クリック** または **Shift + クリック** を使用して、複数のキーワードを選択できます。

 **ヒント: キーワードの選択または入力** ボックスでは、オートコンプリート機能が有効になっています。このボックスに英文字を入力すると、入力文字に一致する既存のキーワードでボックスが動的に更新されます。このボックスのオートコンプリート機能は、**キーワードの選択または入力** または **割り当て済みキーワード** リスト ボックスで複数のキーワードが選択されている場合には、無効になっている点に注意してください。


 **注:** ハードウェアプロビジョニングが必要でない場合は、実行サーバーごとに生成される予約済みのデフォルト キーワードを使用することができます。そのような場合は、実行サーバーにそれ以上キーワードを割り当てる必要はありません。

7. **追加 (>)** をクリックして、キーワードを **割り当て済みキーワード** 一覧に移動します。
8. **OK** をクリックしてキーワードを保存し、**キーワードの割り当て** ダイアログ ボックスを閉じます。


実行サーバーをアクティブまたは非アクティブにする


既存の実行サーバーをアクティブまたは非アクティブにするには：

1. メニューで **管理 > 実行サーバー** をクリックします。
2. 実行サーバーが割り当てられているロケーション名をクリックします。
3. アクティブまたは非アクティブにする実行サーバーの **ステータス** 列で、**アクティブ/非アクティブ** をクリックします。確認ダイアログ ボックスに、アクティブ化/非アクティブ化を確認するメッセージが表示されます。
4. 実行サーバーをアクティブまたは非アクティブにするには **はい** をクリックし、現在のステータスを変えない場合は **いいえ** をクリックします。実行サーバーのリストに戻ります。[ステータス] は [アクティブ] と [非アクティブ] で切り替わります。

 **注:** 実行サーバーのバージョンが不適切な古いバージョンであっても、それが SilkCentral Test Manager 2009 SP1 以降である場合、その実行サーバーは最新の Test Manager バージョンに自動的にアップグレードされます。実行サーバーのリストの **情報** 列に、更新に関するメッセージが Test Manager によって表示されます。アップグレード手順が完了しない限り、そのアップグレード中の実行サーバーは使用されません。

実行サーバーを削除する

 **ヒント:** データの整合性を維持するには、実行サーバーを削除する前に非アクティブにする必要があります。詳細については、「実行サーバーをアクティブおよび非アクティブにする」を参照してください。

 **注:** 実行サーバーを削除した場合でも、実際にインストールされたソフトウェアが削除されるわけではありません。削除により単に実行サーバーと接続が切断されます。前に削除した実行サーバーを再び追加できます。

実行サーバーを削除するには：

1. メニューで **管理 > 実行サーバー** をクリックします。
2. 実行サーバーが割り当てられているロケーション名をクリックします。選択したロケーションに割り当てられた実行サーバーのリストが表示されます。
3. 削除する実行サーバーの **アクション** 列で、**X** をクリックします。削除の確認を求めるメッセージが確認ダイアログ ボックスに表示されます。
4. **はい** をクリックすると実行サーバーが削除され、**いいえ** をクリックすると削除が中止されます。**はい** を選択した場合は、実行サーバーのリストに戻ります。削除した実行サーバーは表示されません。

実行サーバーの標準ではない SSL ポートを設定する

アプリケーション サーバーが実行サーバーと通信するためのデフォルト SSL ポートは、19125 です。



注: この手順は、標準ではない SSL ポートから接続する実行サーバーごとに行う必要があります。

実行サーバーの標準ではない SSL ポートを設定するには：

1. 標準ではない SSL ポートを設定する実行サーバーを非アクティブにします。
2. 実行サーバーを停止します。
3. SccExecServerBootConf.xml ファイルをテキスト エディタで開きます。
このファイルは、実行サーバー上の SilkCentral ディレクトリの /conf/execserver フォルダにあります。
4. <SSLPort> という XML タグを探します。このタグは、デフォルトで <19125> に設定されています。
この値を SSL 通信で使用するポート番号に変更します。
5. XML ファイルを保存して閉じます。
6. SilkCentral で、XML ファイルに指定した値を実行サーバーの SSL ポートに設定します。
7. 実行サーバーを再起動します。
8. 実行サーバーを再びアクティブにします。

[実行サーバーの新規作成/実行サーバーの編集] ダイアログ ボックス

管理 > 実行サーバー > ロケーション > 実行サーバーの新規作成/実行サーバーの編集


ロケーション内で実行サーバーを構成するには、**実行サーバーの新規作成/実行サーバーの編集** ダイアログ ボックスを使用します。

項目	説明
名前	実行サーバーの名前を定義します。この名前は、この特定のコンピュータからの実行に対するすべてのテーブルと結果レポートに表示されます。入力できるのは 100 文字までです。
説明	実行サーバーの説明です。任意の説明文を入力できます。
物理実行サーバー	このオプションを選択して物理マシンを実行サーバーとして指定します。
ホストまたは IP アドレス	実行サーバーをインストールするコンピュータのホスト名または IP アドレスを指定します。 ネットワークによっては、ドメイン名を含むホストの完全な名前（例：MyHost.MyDomain）を指定しないと、実行サーバーが検出されない場合があります。
仮想マシン	このオプションを選択して VMware Lab Manager 構成の仮想イメージ上で実行する実行サーバーを指定します。

項目	説明
	<p>VMware Lab Manager サーバー 仮想マシンをホストする、インストールされている VMware Lab Manager を選択します。リスト ボックスには、インストールされ、管理 > システム設定 > VMware Lab Manager サーバーで構成されているすべての VMware Lab Manager サーバーが示されます。</p> <p>設定 選択された VMware Lab Manager サーバー について利用可能なすべての構成が示されます。</p> <p>マシン 選択された 構成 について利用可能なすべての仮想イメージが示されます。</p>
ポート	<p>ホストまたは IP アドレス テキスト ボックスで定義したコンピュータで、実行サーバーがリスンするポートを指定します。デフォルトのポートは 19124 です。</p>
SSL を使用する	<p>アプリケーション サーバーを実行サーバーに接続するときに SSL (Secure Sockets Layer) を使用する場合は、このチェック ボックスをオンにします。デフォルトの SSL ポートは 19125 です。</p> <p>実行サーバーが割り当てられているロケーションに対してプロキシ サーバーを使用するように選択した場合は、SSL を使用する チェック ボックスをオンにして、ポートに 443 を指定する必要があります。</p>
応答タイムアウト [秒]	<p>応答タイムアウトの秒数を入力するか、デフォルト値の 120 秒 (物理実行サーバーの場合) または 300 秒 (仮想実行サーバーの場合) をそのまま使用します。応答タイムアウトは、実行サーバーが応答しない場合に、アプリケーション サーバーがタイムアウトするまでの時間です。ここで定義されている時間の 2/3 が経過すると、実行サーバーが利用できなくなっていることが、電子メールで管理者に警告されます。</p>
キーワード	<p>この実行サーバーに定義されているキーワードの一覧。キーワードにより、各テスト実行に対して最も適切な実行サーバーを動的に判断する、Test Manager のハードウェアプロビジョニング技術が利用できます。この実行サーバーに対するキーワード一覧を編集するには、キーワード をクリックしてください。</p>
ステータス	<p>実行サーバーをアクティブにするには、このチェック ボックスをオンにします。実行サーバーをアクティブにしないと、モニタの実行に使用できません。</p>
接続のテスト	<p>このボタンをクリックすると、実行サーバーに対するテスト接続が確立されます。実行サーバーに正常に接続したことを示すメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示される場合は、設定が正しいこと、ネットワークが適切に構成されていること、および設定している実行サーバーに必要なソフトウェアがインストールされていることを確認してください。</p>


VMware Lab Manager を操作する


VMware Lab Manager (Lab Manager) を Test Manager と統合すると、Test Manager の UI から直接 Lab Manager を管理できるようになります。統合された機能には、構成のデプロイ、テスト実行、結果収集、構成の自動アンデプロイなどがあります。Test Manager では、Lab Manager の複数のインストール済みインスタンスと構成をサポートできます。LiveLink テクノロジーを通じてキャプチャされた構成は、Lab Manager を使用して閲覧されます。

 **注:** LiveLink による構成キャプチャなどの Lab Manager 機能の詳細については、Lab Manager のドキュメントを参照してください。

Lab Manager 仮想構成

VMware イメージは仮想コンピュータ システムです。Lab Manager は複数の VMware イメージ、または「構成」の管理に使用されます。構成とは、イメージ（たとえば、データベース サーバー、アプリケーション サーバー、実行サーバーなど）を組み合わせたものです。VMware 構成は、複雑なソフトウェア テスト ラボ環境を仮想化する効果的な手段となります。構成は、通常 Lab Manager ライブラリから配置されます。構成は個々の VMware イメージとまったく同様にオン/オフされます。同じ構成の複数のインスタンスを同時に配置し、インスタンスごとに別々にテストを実行することができます。それぞれの VMware 構成は「ネットワーク的に分離」されています。つまり、互いのネットワーク動作に影響を及ぼしません。VMware LiveLink テクノロジーにより、後でオンデマンドで再現（つまり「復元」）できる完全な構成の「スナップショット」を取ることができます。


 **注:** LiveLink による構成キャプチャなどの Lab Manager 機能の詳細については、Lab Manager のドキュメントを参照してください。

 **注:** 各構成には、Test Manager 実行サーバーが少なくとも 1 つ存在しなければなりません。これらの実行サーバー インスタンスによって、構成内で行われるテスト実行が制御され、テスト結果が取り出されます。

Lab Manager サーバーへのアクセスを設定する

Lab Manager サーバーへのアクセスを設定するには：

1. メニューで **管理 > システム設定** をクリックします。
2. **VMware Lab Manager サーバー** タブをクリックします。
3. **VMware Lab Manager サーバーの新規作成** をクリックします。 **VMware Lab Manager サーバーの新規作成** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **名前** に、設定するサーバーの名前を入力します。
5. **ホスト名** に、設定するサーバーのホスト名を入力します。
6. **ポート** に、ポート番号を入力します。
7. Lab Manager サーバーへの接続で SSL の暗号化を有効にする場合は、**SSL を使用する** チェック ボックスをオンにします。
8. **ユーザー名** と **パスワード** に、設定する Lab Manager サーバーの認証情報を入力します。デフォルトでは、**ステータス** は **アクティブ** に設定されています。

 **注:** Lab Manager のユーザーには、このタスクを実行するために管理権限が必要です。

9. 省略可能：**組織名** に、Lab Manager の組織名を入力します。


Lab Manager では、ユーザーにアクセスを許可するリソースを決定する際にこの組織名を使用します。ユーザーが、Lab Manager 内で選択されている組織に割り当てられていない場合は、Test Manager でエラー メッセージが表示されます。Lab Manager の組織の詳細については、Lab Manager のドキュメントを参照してください。


10OK をクリックします。Test Manager により、設定した Lab Manager サーバーが利用できるかどうかチェックされ、そのサーバーが Lab Manager サーバー リストに追加されます。

Lab Manager で仮想実行サーバーを設定する

Lab Manager で仮想実行サーバーを設定する方法について説明します。

Lab Manager の仮想イメージで実行サーバーを設定するには：

1. メニューで **管理 > 実行サーバー** をクリックします。
2. 仮想実行サーバーを設定するロケーションの名前をクリックします。
3. 新しい実行サーバーを作成するには、**実行サーバーの新規作成** をクリックします。既存の実行サーバーを編集するには、**アクション** 列で  をクリックします。

 **注:** これらのプロパティを編集する前に、実行サーバーを非アクティブにしておく必要があります。アクティブな実行サーバーのキーワード リストは、実行サーバーがアクティブであるときに編集できます。

4. **名前** フィールドと **説明** フィールドに、仮想実行サーバーの名前と説明をそれぞれ入力します。

5. **仮想マシン** オプション ボタンをクリックします。


6. **VMware Lab Manager サーバー** リスト ボックスから、設定する仮想マシンをホストする VMware Lab Manager サーバーを選択します。


7. 対象の Lab Manager 設定を **設定** リスト ボックスから選択します。

8. **マシン** リスト ボックスから、Test Manager 実行サーバーを実行するマシンを選択します。

これは、この設定でテストを実行、通信するために必要です。

9. **ポート** テキスト ボックスに実行サーバーがリスンするポートを指定します。

 **注:** SSL を使用して実行サーバーに接続する場合は、**SSL を使用する** チェック ボックスをオンにします。

 **ヒント:** 標準でない SSL ポートから実行サーバーに接続する場合は、「実行サーバーの標準ではない SSL ポートを設定する」を参照してください。

- 10 **応答タイムアウト [秒]** テキスト ボックスに、応答タイムアウト (秒単位) を入力します。

- 11 実行サーバーをアクティブにするには、**アクティブ** チェック ボックスをオンにします。

- 12 実行サーバーに対してテスト接続を確立するには、**接続のテスト** をクリックします。

実行サーバーに正常に接続したことを示すメッセージが表示されます。エラー メッセージが表示される場合は、設定が正しいこと、ネットワークが適切に構成されていること、および設定している実行サーバーに必要なソフトウェアがインストールされていることを確認してください。**接続のテスト** を実行すると、完全に設定がデプロイメントされ、Test Manager は、設定にある実行サーバーへの接続を試行し、その後設定のデプロイメントが解除されます。この処理の完了には時間がかかることがあります。

- 13 **OK** をクリックして、設定を保存します。これで、仮想サーバーが **ロケーション** タブの利用可能な実行サーバーのリストに表示されます。テストは、この仮想実行サーバーで実行できます。

[VMware Lab Manager サーバー] ページ

管理 > システム設定 > VMware Lab Manager サーバー

このページは、Lab Manager サーバーの管理に使用します。リスト内のサーバーごとに、次の列がページに表示されます。

列	説明
アクション	Lab Manager サーバー接続を編集または削除します。これらのアクション

列	説明
名前	<p>ンは、Lab Manager 接続が無効になっている場合にのみ可能です。 ステータス を参照してください。</p> <p>SilkCentral GUI に表示される Lab Manager サーバーの名前を指定します。サーバーの任意の名前を定義できます。このフィールドは、Lab Manager の実際の設定には影響を与えません。</p>
ステータス	<p>Lab Manager サーバーへの接続がアクティブか非アクティブかを表示します。非アクティブである場合、Lab Manager サーバーのサービスは SilkCentral で利用できません。</p> <p>VMware Lab Manager サーバーのステータスをクリックして、ステータスを [アクティブ] と [非アクティブ] で切り替えます。</p>
ホスト	<p>Lab Manager をホストするサーバーのホスト名およびポート。</p>
パス	<p>VMware Lab Manager の Web サービス API へのパス。デフォルトパスは /LabManager/SOAP/LabManager.asmx?WSDL です。</p>
SSL	<p>SilkCentral が Lab Manager サーバーに SSL を使用して接続するかどうかを表示します。</p>
作成日時	<p>Lab Manager サーバー接続が作成された日時。</p>
作成者	<p>Lab Manager サーバー接続を作成したユーザー。</p>
変更日時	<p>Lab Manager サーバー接続が変更された日時。</p>
変更者	<p>Lab Manager サーバー接続を変更したユーザー。</p>

VMware Lab Manager サーバーの新規作成 をクリックして、新しい Lab Manager 接続を作成します。

レポート テンプレートを管理する

SilkCentral には、各種レポートが事前に組み込まれていて、データをプレゼンテーションに利用できる分析情報にすばやく簡単に変換できます。デフォルトのレポートは、Microsoft Excel または BIRT (Eclipse 上で動くオープンソースの Web アプリケーション用レポート ツール) のいずれかを使用してカスタマイズできます。またはこれらのツールを使用して、新しいレポートを一から作成できます。Microsoft Excel で作成したレポートをカスタマイズするには、Microsoft Excel が必要です。

SilkCentral のレポートではビットマップ画像ファイル形式 (.bmp) をサポートしません。正確に表示するには、JPEG、GIF または PNG 形式の画像が必要です。

カスタム レポート テンプレートを BIRT で管理する

SilkCentral は BIRT (Business Intelligence and Reporting Tools) RCP Designer と緊密に統合されているため、テストデータ、ビルドデータ、欠陥データ、および要件データのレポートを簡単に作成できます。

BIRT RCP Designer をダウンロードした後は、コア SilkCentral レポートをカスタマイズして、独自のレポートを追加できます。レポートの実行とカスタマイズについては、アプリケーションのヘルプを参照してください。

BIRT RCP Designer の詳細については、BIRT RCP Designer のオンライン ヘルプ システムを参照してください。BIRT RCP Designer の詳細情報、例、およびデモンストレーションは、<http://www.eclipse.org/birt> で提供されています。活発なニュースグループ (news.eclipse.org) も利用できます。

BIRT カスタム レポートを使用するためのソフトウェア要件は以下のとおりです。

- BIRT RCP Designer
- 管理者権限での SilkCentral へのアクセス



注: SilkCentral のレポートではビットマップ画像ファイル形式 (.bmp) をサポートしません。正確に表示するには、JPEG、GIF または PNG 形式の画像が必要です。

BIRT を SilkCentral からインストールする

この手順では、BIRT RCP Designer を SilkCentral からインストールする方法について説明します。BIRT をこのようにインストールすることによって、SilkCentral に対して必要なすべての設定が自動的に実行されます。

BIRT を SilkCentral からインストールするには：

1. **ヘルプ > ツール** に移動します。
2. **BIRT RCP Report Designer** リンクをクリックします。
3. 圧縮したインストーラ パッケージをローカル システムにダウンロードした後に、圧縮ファイルをローカル システムのディレクトリ (C:¥ BIRT など) に展開します。



注: Windows の圧縮フォルダ機能を使用してインストーラ ファイルを展開したときにエラーが発生する場合は、圧縮ツール (WinZip、WinRAR など) を使用して、ファイルを展開してください。

4. ファイルを展開したディレクトリから BIRT.exe を起動します。

SilkCentral 用に BIRT を設定する

ユーザーのコンピュータに既に BIRT がインストールされている場合、または別の場所 (Eclipse のホームページなど) から BIRT をインストールしている場合、インストール後に SilkCentral で使用できるように BIRT を設定する必要があります。「SilkCentral から BIRT をインストールする」の説明どおりに、SilkCentral から BIRT をインストールした場合は、この手順で説明しているステップを実行する必要はありません。

SilkCentral と使うために BIRT RCP Designer を設定するには：

1. jtds.jar と ojdbc6.jar ファイル (SilkCentral フロントエンド サーバーのインストール フォルダにある ¥lib ディレクトリ) をユーザーの BIRT インストールにある plugins ¥org.eclipse.birt.report.data.oda.jdbc_<バージョン>¥drivers ディレクトリにコピーします。これにより JDBC がユーザーの SilkCentral インストールにアクセスできます。
2. scc.jar ファイル (SilkCentral フロントエンド サーバーのインストール フォルダにある ¥lib ディレクトリ) をユーザーの BIRT インストールにある plugins¥org.eclipse.birt.report.viewer_<バージョン>¥birt¥WEB-INF¥lib ディレクトリにコピーします。

3. 作成したレポートを保存するディレクトリを作成します (たとえば、C:\MyBirtReports)。新しく作成したディレクトリ内に conf サブディレクトリを作成します。
4. conf ディレクトリ内に、birt ディレクトリを作成します。 C:\MyBirtReports\conf\birt のようなディレクトリ構造になります。
5. library.rptlibrary ファイル (SilkCentral フロントエンド サーバーのインストール フォルダにある \conf\birt ディレクトリ) を前のステップで作成した \conf\birt ディレクトリにコピーします。
6. BIRT を起動します。アプリケーションの圧縮ファイルを展開したローカル ディレクトリにある BIRT.exe ファイルを実行します。
7. BIRT RCP Designer 内から、**Window**、**Preferences** を選択します。
8. **Preferences** ウィンドウで、**Report Design > Resource** を左ペインのディレクトリ ツリーから選択します。
9. **Resource folder** テキスト ボックスに、作成したディレクトリを入力します。
たとえば、C:\MyBirtReports\conf\birt です。
- 10 **Apply** をクリックしてから、**OK** をクリックします。

新規レポート テンプレート用のデータベース アクセスを確立する

BIRT RCP Designer で新しいレポート テンプレートを作成する前に、クエリを実行する SilkCentral リポジトリへのデータベース アクセスを確立する必要があります。

新規レポート テンプレート用のデータベース アクセスを確立するには：

1. BIRT RCP Designer 内から、**File > New > New Report** を選択します。
2. **New Report** ウィザードのステップに従います。
3. **Resource Explorer** を開きます。
4. **Resource Explorer** で、**Shared Resources > conf > birt > library.rptlibrary > Data Sources > Data Source** をクリックし、必須データソースをレポートの Data Sources ディレクトリ (**Outline** ウィンドウの中) にドラッグします。
5. **Resource Explorer** で、**Shared Resources > conf > birt > library.rptlibrary > Report Parameters** をクリックし、4 つのレポート パラメータ sourceUser、sourcePassword、sourceURL、および sourceDriver をレポートの Report Parameters ディレクトリ (**Outline** ウィンドウの中) にドラッグします。
6. 新しくインポートされたデータ ソースをダブルクリックして、**Edit Data Source** ダイアログ ボックスを開きます。
7. **Driver Class** と **Database URL** に有効な値を入力します。
詳細については、「**BIRT データ ソース設定**」を参照してください。
8. **Test Connection** をクリックして、設定をテストします。データベース接続が確立された場合は、新しいレポート テンプレートの設計を開始できます。
9. **OK** をクリックします。

BIRT データ ソース設定

BIRT の **New JDBC Data Source Profile** ダイアログ ボックスを使用して、既存の SilkCentral リポジトリへのデータベース アクセスを確立します。 **New JDBC Data Source Profile** ダイアログ ボックスにアクセスするには、**Outline** ペインの **Data Sources** を右クリックし、**New Data Source** をクリックし、**JDBC Data Source** を選択して **Next** をクリックします。

MS SQL Server または MS SQL Server Express データベースに接続するには、次の認証情報を使用します。

項目	文字列
ドライバクラス	net.sourceforge.jtds.jdbc.Driver


項目	文字列
ドライバの URL	<p>MS SQL Server jdbc:jtds:sqlserver://<ホスト>:<ポート>/<データベース></p> <p>Microsoft SQL Server Express jdbc:jtds:sqlserver://<ホスト>:<ポート>/<データベース>;instance=<インスタンス名></p>
ホスト	データベース サーバーをホストしているコンピュータのホスト名（または IP アドレス）。
ポート	データベース管理システムのポート番号。デフォルト値は 1433 です。
データベース	データベース名。
インスタンス名	MS SQL Server Express の場合のみ。データベース インスタンスのインスタンス名。デフォルトの Microsoft SQL Server Express インスタンスは、localhost¥SQLEXPRESS です。

Oracle データベースに接続するには、次の認証情報を使用します。

項目	文字列
ドライバクラス	oracle.jdbc.OracleDriver
ドライバの URL	jdbc:oracle:thin:@<ホスト>:<ポート>:<データベース>
ホスト	データベース サーバーをホストしているコンピュータのホスト名（または IP アドレス）。
ポート	データベース管理システムのポート番号。デフォルト値は 1521 です。
データベース	Oracle SID。

既存のレポート テンプレートを導入する

SilkCentral により、ユーザーは SilkCentral モジュールを使用して、カスタム レポート テンプレートを作成するために必要なすべての情報を含む BIRT レポート テンプレートをダウンロードし導入できます。

 **注:** SilkCentral のレポートではビットマップ画像ファイル形式 (.bmp) をサポートしません。正確に表示するには、JPEG、GIF または PNG 形式の画像が必要です。

SilkCentral テンプレートを基にしたレポートを作成するには：

1. メニューで **管理 > レポート テンプレート** をクリックします。 **レポート テンプレート** ページに、アップロードされたすべてのレポート テンプレートが一覧表示されます。
2. **アクション** 列の  をクリックします。
3. テンプレート ファイル (<ファイル名>.rptdesign) をローカル システムに保存します。
4. ダウンロードしたテンプレート ファイルを **BIRT RCP Designer** で開きます。
5. 必要な場合、レポートのデザインを変更します。
レポートのデザインの詳細については、BIRT RCP Designer のオンライン ヘルプ システムを参照してください。
6. レポートをプレビューするには、**Preview** タブをクリックします。
初めて **Preview** タブをクリックしたときは、**Enter Parameters** ダイアログ ボックスが開くので、有効なセッション ID を指定する必要があります。
7. セッション ID を生成するには、Web ブラウザで次の URL を実行します。

http://<ホスト>:<ポート>/services/sccsystem?method=logonUser&userName=<ユーザー名>&plainPasswd=<パスワード>.

パラメータ	説明
ホスト	SilkCentral をホストしているコンピュータのホスト名 (または IP アドレス)。
ポート	SilkCentral フロントエンド サーバーのポート番号。デフォルト設定は、19120 (スタンドアロン Web サーバーから SilkCentral へアクセスする場合) および 80 (IIS から SilkCentral へアクセスする場合) です。
ユーザー名/パスワード	SilkCentral ユーザーの有効な認証情報。

 **注:** 有効な認証情報 USERNAME/PASSWORD の順番はとても重要です。

8. レポートを編集している途中でデータが表示されない場合、可能性が高い原因はセッション ID のタイムアウトです。 **Preview** ウィンドウにある **Show Report Parameters** をクリックして、新しいセッション ID を入力します。新しいセッション ID を生成するには、前のステップを繰り返します。

レポートのアクセス許可を設定および編集する

レポート管理者は、レポートを印刷できるユーザー、レポート名と説明を変更できるユーザーを決定するアクセス許可を設定し、編集します。場合により、レポートが関連付けられているカテゴリ、モジュールまたはプロジェクトを変更する必要があります。さらに、レポートの説明や名前を変更すると、ユーザーがレポートを解釈するときに役に立つことがあります。

BIRT RCP Designer や Excel を使って新しいカスタム レポートを作成し、SilkCentral にアップロードしたら、レポートをユーザーが利用できるようにするためアクセス許可を設定する必要があります。


SilkCentral レポート テンプレート用のアクセス許可を設定または編集するには :

1. メニューで **管理 > レポート テンプレート** をクリックします。 **レポート テンプレート** ページに、アップロードされたすべてのレポート テンプレートが一覧表示されます。
2. アクセス許可や関連を設定または編集するレポート テンプレートの名前をクリックします。 **レポート テンプレートの編集** ダイアログ ボックスが表示されます。
3. **プロジェクト** と **モジュール** リスト ボックスの選択項目を変更してレポートのアクセス許可設定を変更できます。
これにより選択したレポート テンプレートにアクセスできるユーザーを決定します。
4. 編集を完了したら、**OK** をクリックしてレポート テンプレートへの変更を保存します。
編集内容はすぐに適用されます。ユーザーが次にアクセスしたとき、またはレポート リストを更新したときに、変更が表示されます。

レポート テンプレートをダウンロードする

選択したレポートのレポート テンプレート (レイアウトも含む) をダウンロードします。 SilkCentral レポート テンプレートをユーザーのローカル システムにダウンロードすると、BIRT Report Designer または Microsoft Excel でテンプレートを編集できます。レポートをダウンロードして編集した後で、別のユーザーが利用できるようにアップロードできます。詳細については、「レポート テンプレートをアップロードする」を参照してください。

SilkCentral レポート テンプレートをダウンロードするには :


1. メニューで **管理 > レポート テンプレート** をクリックします。 **レポート テンプレート** ページに、アップロードされたすべてのレポート テンプレートが一覧表示されます。
2. ダウンロードするレポートの **アクション** 列で、 をクリックします。 **ファイルのダウンロード** ダイアログ ボックスが表示されます。


3. **保存** をクリックするとレポート ファイルがローカル システムにダウンロードされます。ファイルの拡張子は、ダウンロードするレポートのタイプにより、.rptdesign または .xls となります。
4. BIRT RCP Designer (.rptdesign ファイル) または Excel (.xls ファイル) を使用して、必要に応じてレポートを編集します。

レポート テンプレートをアップロードする

SilkCentral のレポート テンプレートをアップロードすると、他のユーザーが利用できるようになります。場合により、BIRT RCP Designer または Microsoft Excel で編集した後で、レポート テンプレートをアップロードする必要があります。レポートが関連付けられているモジュールとプロジェクトへのアクセス権がある場合のみ、レポートを実行できます。

 **注:** 「スーパーユーザー」、「システム管理者」または「報告者」権限がカスタム レポートの作成とアップロードに必要です。別のユーザー権限では、レポートの更新やアップロードはできません。

 **ヒント:** テンプレートには、SilkCentral にアップロードしたときに識別できるように、付加情報を構成する必要があります。


 **注:** SilkCentral のレポートではビットマップ画像ファイル形式 (.bmp) をサポートしません。正確に表示するには、JPEG、GIF または PNG 形式の画像が必要です。


カスタマイズしたテンプレートを新しいレポートとしてアップロードするには：

1. メニューで **管理 > レポート テンプレート** をクリックします。 **レポート テンプレート** ページに、アップロードされたすべてのレポート テンプレートが一覧表示されます。
2. ページ下部の **アップロード** をクリックします。 **レポート テンプレートのアップロード** ダイアログ ボックスが表示されます。
3. **名前** にレポートの名前を入力します。
4. 省略可能：**説明** にレポートの説明を入力します。
5. **プロジェクト** リスト ボックスで、レポートに関連付けるプロジェクトを選択します。
複数のプロジェクトを選択するには、**Ctrl** キーを押したままにします。
6. **モジュール** リスト ボックスで、レポートに関連付けるモジュールを選択します。
複数のモジュールを選択するには、**Ctrl** キーを押したままにします。
7. **ファイル** フィールドの横にある **参照** をクリックします。
8. レポート テンプレートの基礎として使用するテンプレート ファイルを参照して選択します。
選択するファイルの拡張子は、.rptdesign または .xls です。
9. **OK** をクリックして、レポート テンプレートを使用できるように SilkCentral にアップロードします。

レポート ソースを更新する


既存の SilkCentral のレポート テンプレートを更新すると、BIRT RCP Designer や Microsoft Excel でカスタマイズしたレポートを SilkCentral に移動でき、別のユーザーが利用できるようになります。

 **注:** 「スーパーユーザー」、「システム管理者」または「報告者」権限がカスタム レポートの作成とアップロードに必要です。別のユーザー権限では、レポートの更新やアップロードはできません。

 **注意:** SilkCentral に同梱のレポート テンプレートは、新しいバージョンにアップグレードしたときに、自動的に更新されます。したがって、カスタマイズしたレポート テンプレートは専用のカスタム フォルダに保存すること、または新しいテンプレートとしてカスタマイズしたレポート テンプレートをアップロードすることが重要です。詳細については、「**レポート テンプレートをアップロードする**」を参照してください。

変更したテンプレート ファイルでレポート テンプレートを更新するには：


1. メニューで **管理 > レポート テンプレート** をクリックします。 **レポート テンプレート** ページに、アップロードされたすべてのレポート テンプレートが一覧表示されます。

- 更新するレポートの **アクション** 列で、 をクリックします。
- レポート テンプレート ファイルの更新** ダイアログ ボックスの **参照** をクリックして、既存のテンプレート ファイルを上書きするテンプレート ファイルを参照して選択します。
選択するファイルの拡張子は、.rptdesign または .xls です。
- OK** をクリックしてファイルをアップロードし、今までレポート テンプレートの基準として使用されていたファイルを上書きします。

レポート テンプレートを削除する

利用可能なレポートのリストから SilkCentral レポートを削除できます。

SilkCentral レポートを削除するには：

- メニューで **管理 > レポート テンプレート** をクリックします。 **レポート テンプレート** ページに、アップロードされたすべてのレポート テンプレートが一覧表示されます。
- 削除するレポートの **アクション** 列で、 をクリックします。確認ダイアログ ボックスが表示されます。
- はい** をクリックしてリストからレポートを削除します。

[レポート テンプレート] ページ

管理 > レポート テンプレート

レポート テンプレート ページを使用して、SilkCentral アプリケーションによるレポートのために利用可能にするレポート テンプレートを管理します。

アップロード をクリックして、新しいレポート テンプレートをハード ディスクまたは UNC から SilkCentral にアップロードします。

リスト内のレポートごとに、次の列がページに表示されます。

列	説明
タイトル	アプリケーションの GUI に表示されるレポート テンプレートの名前。
ファイル名	レポート テンプレートの物理ファイル名。
アップロード日時	レポート テンプレートが SilkCentral にアップロードされた日付。
アップロード者	レポート テンプレートを SilkCentral にアップロードしたユーザー。
プロジェクト	レポート テンプレートが関連付けられているプロジェクト。このテンプレートをレポート目的で使用できるのは、指定されたプロジェクトのみです。テンプレートがすべてのプロジェクトに割り当てられている場合は、どのプロジェクトでもこのテンプレートを使用できます。
モジュール	レポート テンプレートにアクセスする可能性がある SilkCentral アプリケーション。テンプレートがどのモジュールにも割り当てられていない場合は、どのアプリケーションでもこのテンプレートを使用できます。
アクション	この列にはアクションのアイコンが含まれ、ユーザーはレポート テンプレートについて次のアクションを実行できます。

列	説明
	アクション 説明
	更新 現在アップロードされているテンプレートを新しいテンプレートで置き換えます。
	ダウンロード テンプレートをローカル コンピュータにダウンロードします。
	削除 テンプレートを完全に削除します。

監査ログ

管理 > ログ ファイル > 監査ログ

管理者は、監査ログを使用することで、SilkCentral ユーザーの記録されている全アクティビティを見ることができます。ログ ファイルには、ログインとログアウトの全情報、および SilkCentral データベース（プロジェクト、モニタ、スケジュールなど）に対するすべての変更が保存されます。

利用可能な機能を使用することで、情報ニーズに合うように一覧のログ エントリを管理できます。

列によるデータのソート

列の見出しをクリックすると、一覧のすべてのデータがその列でソートされます。同じ列見出しを繰り返しくクリックすると、ソート順が昇順または降順に切り替わります。





カレンダーからの範囲の選択

表示されている時間範囲をクリックすると、カレンダーが開きます。カレンダーの **開始時間** 行と **終了時間** 行で、表示するデータの期間の開始と終了を指定できます。リスト ボックスで **開始時間** と **終了時間** を指定した後、**更新** をクリックすると、新しい時間範囲に基づいて監査ログが更新されます。

日、**週**、**月**、**四半期**、**過去 7 日間を選択**、**過去 31 日間を選択** の各リンクを使用すると、カレンダーを使用せずに、設定されている期間の情報を表示できます。

また、**以降** および **以前** の矢印を使用して、選択されている範囲を次の間隔で後および前に移動できます。

- 1 日
- 1 週
- 1 月
- 1 四半期

 および  を使用すると、監査ログの対象の時間範囲を広げたり狭めたりできます。  を 1 回クリックすると、期間が 50% 広くなります。  を 1 回クリックすると、期間が 50% 狭くなります。

カレンダーがカスタム期間（たとえば、拡大または縮小した後）を表示しているときに、左端の矢印（**以前** および **以降**）をクリックすると、表示範囲が、選択されている期間の半分だけ前方または後方に移動します。



ヒント: 新しい期間を指定した後、**更新** をクリックすると、レポートが更新されます。

データのフィルタリング

フィルタ オプションを使用すると、解析する監査ログ情報を絞り込むことができます。

次の項目によりリスト表示データをフィルタ処理できます。

ログイン 指定したユーザー ログインのアクションを表示します。

オブジェクト 指定したデータベース項目（プロジェクト、モニタ、ロケーションなど）に対して実行されたアクションを表示します。

操作 選択した操作（ログイン、ログオフ、作成、削除など）を表示します。

監査ログにアクセスして表示する

監査ログを表示するには：

1. メニューで **管理 > ログ ファイル** をクリックします。
2. **監査ログ** タブをクリックします。
3. カレンダーで範囲を選択して、示されるログ エントリを限定します。
4. フィルタ オプションを使って、解析する監査ログ情報を絞り込みます。

[監査ログ] ページ

管理 > ログ ファイル > 監査ログ

監査ログ ページは、SilkCentral ユーザーの記録されている全アクティビティの表示に使用します。

項目	説明
カレンダー領域	カレンダーで範囲を選択して、示されるログ エントリを限定します。
フィルタ領域	フィルタ オプションを使って、解析する監査ログ情報を絞り込みます。 更新 をクリックして、リストをフィルタ設定に従ってリフレッシュします。
結果領域	このセクションには、ログに記録された情報が表示されません。 ページ間を移動するには、ページ番号を使用します。 列の見出しをクリックすると、その列でソートされます。

カレンダーおよびフィルタ オプションの詳細については、「監査ログ」を参照してください。

サーバー ログ ファイル

フロントエンド サーバー、アプリケーション サーバー、および実行サーバーはログ ファイルに記録します。 これらのファイルには、エラー解析に役立つ情報が含まれています。 SilkCentral では、管理者は、これらのファイルを Web インターフェイスから直接、表示、検索、およびダウンロードできます。

サーバー ログ ファイルをダウンロードする

サーバー ログ ファイルをローカル コンピュータに CSV 形式でダウンロードできます。 これにより Microsoft Excel などですらにデータ解析が可能です。

サーバー ログ ファイルをダウンロードするには：

1. メニューで **管理 > ログ ファイル** をクリックします。
2. ログ ファイルが属するサーバーのタブをクリックします。
 - フロントエンド サーバー ログ
 - アプリケーション サーバー ログ
 - 実行サーバー ログ

ログ ファイルのリストが時間順に表示されます。ログ ファイル名は、サーバー コンポーネント名とそれに続くタイムスタンプで構成されます。最新のログ ファイルの名前は、FrontendServer.log、AppServer.log、および ExecServer.log です。



注: 実行サーバー ログ ファイルを見つけるには、ロケーションから個別の実行サーバーに移動します。

3. ログ ファイルの **アクション** 列で、 をクリックします。

代替方法：ダウンロードする前にログ ファイルの内容を表示するには、ダウンロード対象のログ ファイル名をクリックします。選択したログ ファイルが表示されます。このときログ エントリは時間順になっています。ページ下部の **CSV としてダウンロード** をクリックします。

4. 表計算プログラムにデータを表示するには、続いて表示されるダイアログ ボックスで **開く** を選択します。データをハード ドライブに保存するには、表示されたダイアログ ボックスで **保存** を選択します。

サーバー ログ ファイルを解析する

サーバー ログ ファイルを解析するには：

1. メニューで **管理 > ログ ファイル** をクリックします。
2. ログ ファイルが属するサーバーのタブをクリックします。

- **フロントエンド サーバー ログ**
- **アプリケーション サーバー ログ**
- **実行サーバー ログ**

ログ ファイルのリストが時間順に表示されます。ログ ファイル名は、サーバー コンポーネント名とそれに続くタイムスタンプで構成されます。最新のログ ファイルの名前は、FrontendServer.log、AppServer.log、および ExecServer.log です。



注: 実行サーバー ログ ファイルを見つけるには、ロケーションから個別の実行サーバーに移動します。

3. 表示するログ ファイルの名前をクリックします。選択したログ ファイルが表示されます。このときログ エントリは時間順になっています。
4. フィルタ オプションにより、記録されたログ情報のページを表示できます。

次の項目によりリスト表示データをフィルタ処理できます。

深刻度 選択した深刻度のイベントを表示します。

- エラー
- 警告
- 情報


ログ レベル 選択したログ レベルに一致するイベントを表示します。

- 概要
- 詳細
- 冗長
- デバッグ

サーバーに応じたログ レベルを設定したときのみ、さらに詳しいログ情報を表示できます。サーバーのログ レベルを設定する方法の詳細については、「ログ レベル」を参照してください。

モジュール 選択したモジュールのログ情報を表示します。ログ エントリを表示できるのは、該当製品（各モジュール）がインストールされ、アクセスするフロントエンド サーバーに接続されているときのみです。

サーバー ログ ファイルを削除する


 **注意:** ログ ファイルを削除すると、サーバーからファイルが恒久的に削除されます。削除したファイルからログ データを表示できません。

サーバー ログ ファイルを削除するには :

1. メニューで **管理 > ログ ファイル** をクリックします。
2. ログ ファイルが属するサーバーのタブをクリックします。

- フロントエンド サーバー ログ
- アプリケーション サーバー ログ
- 実行サーバー ログ

ログ ファイルのリストが時間順に表示されます。ログ ファイル名は、サーバー コンポーネント名とそれに続くタイムスタンプで構成されます。最新のログ ファイルの名前は、FrontendServer.log、AppServer.log、および ExecServer.log です。

 **注:** 実行サーバー ログ ファイルを見つけるには、ロケーションから個別の実行サーバーに移動します。

3. 削除するログ ファイルの **アクション** 列で、**X** をクリックします。確認ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **いいえ** をクリックするとログ ファイルの削除が中止され、**はい** をクリックすると、リストからログ ファイルが削除されます。
はい をクリックすると、ログ ファイルのリストが再表示されます。削除したログ ファイルは表示されません。

ログ ファイルの管理

SilkCentral の各サーバーは、そのアクティビティをログ ファイルに書き込みます。SilkCentral サーバーの詳細については、アーキテクチャを参照してください。アプリケーション エラーやシステム障害が発生したときには、これらのログ ファイルが問題の根本原因を究明するための貴重な情報となります。サーバー ログ ファイルに書き出す詳細レベルと。

SilkCentral サーバーのログ ファイルは、**管理 > ログ ファイル**を通してアクセスできます。

SilkCentral サーバーのログ レベルを変更する

ログ ファイルを生成するのは次のサーバーです。

- フロントエンド サーバー
- アプリケーション サーバー
- 実行サーバー

SilkCentral サーバーのログ レベルを変更するには :

1. ログ レベルを変更するサーバーを停止します。
2. ログ レベルを変更するサーバー に対応する次のファイルをテキスト エディタで開きます。

フロントエンド サーバー	SccFrontendBootConf.xml。フロントエンド サーバー上の SilkCentral ディレクトリの /conf/frontendserver フォルダにあります。
アプリケーション サーバー	SccAppServerBootConf.xml。アプリケーション サーバー上の SilkCentral ディレクトリの /conf/appserver フォルダにあります。
実行サーバー	SccExecServerBootConf.xml。実行サーバー上の SilkCentral ディレクトリの /conf/execserver フォルダにあります。

3. ファイルの <Log> セクションで <LogLevel> という XML タグを探します。
4. サーバーが情報を書き出すログ レベルの値を設定します。次のログ レベルがあります。

値	ログレベル	説明
0	概要	サーバーによって、最も重要な情報のみがログ ファイルに書き出されます。デフォルトの設定です。
1	詳細	サーバーは次の情報を追加でログ ファイルに書き出します。 フロントエンド サーバー 接続とイベントのディスパッチ情報 アプリケーション サーバー 結果の書き出しと取り出しの作業 実行サーバー トランザクション実行の作業
2	冗長	サーバーは次の情報を追加でログ ファイルに書き出します。 フロントエンド サーバー ユーザー管理情報 (Cookie 管理など) アプリケーション サーバー 結果の書き出しと取り出しの詳細情報 実行サーバー トランザクション実行と帯域幅の詳細情報
3	デバッグ	もっとも詳細なログ レベルです。深刻な問題をデバッグするとき以外は使うべきではありません。

5. XML ファイルを保存して閉じたら、サーバーを再起動します。

[フロントエンド サーバー ログ] ページ

管理 > ログ ファイル > フロントエンド サーバー ログ

このページは、SilkCentral フロントエンド サーバー サービスのログ情報の表示に使用します。

ログ ファイルごとに、次の列がページに表示されます。

列	説明
アクション	この列にはアクションのアイコンが含まれ、ユーザーはログ ファイルについて次のアクションを実行できます。 ダウンロード ログ ファイルをローカル コンピュータにダウンロードします。 削除 ログ ファイルを完全に削除します。
名前	ログ ファイルの名前。ファイル名をクリックしてログの詳細を表示します。
サイズ	ログ ファイルの物理的サイズ (バイト単位)。
日時	ログ ファイルが最後に物理的に保存された日時。

管理 > ログ ファイル > フロントエンド サーバー ログ > フロントエンド サーバー ログのファイル名

ログ ファイルの名前をクリックすると、ログの詳細リストが表示されます。リストには、次の項目が含まれます。

項目	説明
フィルタ領域	フィルタ オプションを使用して、深刻度、ログ レベル、およびモジュールごとにログ リスト情報をフィルタ処理します。 更新 をクリックして、リストをフィルタ設定に従ってリフレッシュします。
表領域	次のログ情報が表示されます。

項目	説明
	<p>深刻度 イベントの深刻度 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • 情報 (Info) • 警告 (Warning) • エラー (Error)
	<p>ログレベル イベントのログレベル :</p> <ul style="list-style-type: none"> • OV = 概要 • DT = 詳細 • VB = 冗長 • DB = デバッグ

フロントエンド サーバー ログ ページに戻るには、戻る をクリックします。 ログ ファイルを CSV ファイルとしてローカル コンピュータにダウンロードするには、CSV としてダウンロード をクリックします。

[アプリケーション サーバー ログ] ページ

管理 > ログ ファイル > アプリケーション サーバー ログ

このページは、SilkCentral アプリケーション サーバー サービスのログ情報の表示に使用します。

ログ ファイルごとに、次の列がページに表示されます。

列	説明
アクション	この列にはアクションのアイコンが含まれ、ユーザーはログ ファイルについて次のアクションを実行できます。
	<p>ダウンロード ログ ファイルをローカル コンピュータにダウンロードします。</p> <p>削除 ログ ファイルを完全に削除します。</p>
名前	ログ ファイルの名前。 ファイル名をクリックしてログの詳細を表示します。
サイズ	ログ ファイルの物理的サイズ (バイト単位)。
日時	ログ ファイルが最後に物理的に保存された日時。

管理 > ログ ファイル > アプリケーション サーバー ログ > アプリケーション サーバー ログのファイル名

ログ ファイルの名前をクリックすると、ログの詳細リストが表示されます。 リストには、次の項目が含まれます。

項目	説明
フィルタ領域	フィルタ オプションを使用して、深刻度、ログ レベル、およびモジュールごとにログ リスト情報をフィルタ処理します。更新 をクリックして、リストをフィルタ設定に従ってリフレッシュします。
表領域	次のログ情報が表示されます。
	<p>深刻度 イベントの深刻度 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • 情報 (Info) • 警告 (Warning)

項目	説明
	<ul style="list-style-type: none"> エラー (Error)
	ログレベル イベントのログレベル： <ul style="list-style-type: none"> OV = 概要 DT = 詳細 VB = 冗長 DB = デバッグ

アプリケーションサーバー ログ ページに戻るには、**戻る** をクリックします。 ログ ファイルを CSV ファイルとしてローカル コンピュータにダウンロードするには、**CSV としてダウンロード** をクリックします。

[実行サーバー ログ] ページ

管理 > ログ ファイル > 実行サーバー ログ

このページは、SilkCentral 実行サーバー サービスのログ情報の表示に使用します。

ロケーションごとに、次の列がページに表示されます。

列	説明
ロケーション	すべての利用可能なロケーションを表示します。
実行サーバー	ロケーションごとの実行サーバー数を表示します。
ステータス	ロケーションにおける実行サーバーのステータスの概要を表示します。

管理 > ログ ファイル > 実行サーバー ログ > ロケーション名

ロケーションの名前をクリックすると、選択されたロケーションの実行サーバー リストが表示されます。リストには、実行サーバーごとに次の列が表示されます。

列	説明
実行サーバー名	実行サーバーの名前。
ホスト	実行サーバーをホストするコンピュータの名前。
タイプ	実行サーバーの構成対象である SilkCentral アプリケーション。Test Manager の場合、タイプは常に <i>Test Manager</i> です。
割り当て済みタスク数	この実行サーバーに現在スケジュールされているタスクの数。
ステータス	実行サーバーのステータス。[アクティブ] または [非アクティブ]。

ロケーションのリストに戻るには、**戻る** をクリックします。

管理 > ログ ファイル > 実行サーバー ログ > ロケーション名 > 実行サーバー名

実行サーバーの名前をクリックすると、選択された実行サーバーのログ ファイルのリストが表示されます。ログ ファイルごとに、次の列がページに表示されます。

列	説明
アクション	この列にはアクションのアイコンが含まれ、ユーザーはログ ファイルについて次のアクションを実行できます。 ダウンロード ログ ファイルをローカル コンピュータにダウンロードします。 削除 ログ ファイルを完全に削除します。
名前	ログ ファイルの名前。 ファイル名をクリックしてログの詳細を表示します。
サイズ	ログ ファイルの物理的サイズ (バイト単位)。
日時	ログ ファイルが最後に物理的に保存された日時。

実行サーバーのリストに戻るには、**戻る** をクリックします。

管理 > ログ ファイル > 実行サーバー ログ > ロケーション名 > 実行サーバー名 > 実行サーバーのログ ファイル名

ログ ファイルの名前をクリックすると、ログの詳細リストが表示されます。 リストには、次の項目が含まれます。

項目	説明
フィルタ領域	フィルタ オプションを使用して、深刻度、ログ レベル、およびモジュールごとにログ リスト情報をフィルタ処理します。 更新 をクリックして、リストをフィルタ設定に従ってリフレッシュします。
表領域	次のログ情報が表示されます。 深刻度 イベントの深刻度： <ul style="list-style-type: none"> • 情報 (Info) • 警告 (Warning) • エラー (Error) ログレベル イベントのログレベル： <ul style="list-style-type: none"> • OV = 概要 • DT = 詳細 • VB = 冗長 • DB = デバッグ

実行サーバー ログ ページに戻るには、**戻る** をクリックします。 ログ ファイルを CSV ファイルとしてローカル コンピュータにダウンロードするには、**CSV としてダウンロード** をクリックします。

タスク管理ツールを統合する

アジャイルプロジェクト テンプレートを使用して、さまざまな外部タスク管理ツールがテストを Test Manager に統合することができます。

アジャイルプロジェクト テンプレートは、あらかじめ選択されている属性リリースとスプリントを持った、Test Manager のプロジェクトです。 アジャイル プロジェクト テンプレートに基づいてプロジェクトを作成すると、新しいプロジェクトに対して、空のサブフォルダやテスト コンテナが作成されます。 そして、外部タスク管理ツールは、そのテンプレート内にテストを挿入していくことができます。 アジャイルプロジェクト テンプレートに基づいてプロジェクトを作成する方法については、「プロジェクトを追加する」を参照してください。


Test Manager で現在サポートされていて特別な設定をせずにそのまま使用できるタスク管理ツールは、次のとおりです。

タスク管理 ツール 説明

VersionOne VersionOne は、プロジェクト計画および管理ツールで、特にアジャイル ソフトウェア開発のために設計されています。 リリース管理、イテレーションの計画とトラッキング、ユーザー ストーリーやバックログ アイテムの管理、タスク管理など、アジャイルおよびインタラクティブ管理のための実践機能を持っています。

Test Manager に VersionOne を統合する

VersionOne からのテストを Test Manager に統合するには：

1. 新しい Test Manager プロジェクトを追加し、アジャイル プロジェクトテンプレートをプロジェクトに適用します。
アジャイル テンプレートに基づいたプロジェクトを Test Manager に追加する方法については、「プロジェクトを追加する」を参照してください。
2. ファイル エクスプローラを開きます。
3. VersionOne の設定 XML ファイルである VersionOneConfig.xml まで移動します。
ファイルのデフォルトパスは C: ¥ Program Files ¥ Silk ¥ SC Test Manager <version> ¥ wwwrootAS ¥ VersionOneIntegration です。
4. VersionOne の設定 XML ファイルをエディタで開きます。
5. VersionOne の設定 XML ファイルを、適切な内容で設定します。
VersionOne の設定 XML ファイルにおける設定の詳細については、VersionOneConfig.xml 内のコメントを参照してください。
6. 設定ファイルを保存の上、閉じます。
 **注:** 設定ファイルを編集した後、このファイルは自動的に更新されるので、アプリケーション サーバーを再起動する必要はありません。
7. Test Manager で、**テスト** 領域まで移動します。 空のテスト コンテナが、未完成の状態が表示されます。これは、製品を選択する必要があるためです。
8. コンテナをクリックし、**プロパティ** タブを選択し、製品リンクをクリックして目的の製品を参照します。

これで VersionOne は Test Manager に統合されます。 VersionOne 内の新しいテスト タスクが、定義されている適切なユーザーのために、定義されている Test Manager プロジェクト内のデフォルトのインテグレーション フォルダに手動テストとして挿入されます。 テストのステータスが Test Manager と VersionOne の間でやり取りされるようになります。

VersionOne インテグレーションへの変更に関する情報については、VersionOneIntegration.log ログ ファイルを参照してください。 ログ ファイルのデフォルトパスは C: ¥ Documents and Settings ¥ All Users ¥ Application Data ¥ SilkCentral ¥ log ¥ です。

 **注:** VersionOne を日本語の Test Manager と統合するには、レジストリ内のアプリケーション サーバー サービスの start オプションを -Dfile.encoding=utf-8 に変更します。

製品とプラットフォームを管理する

SilkCentral では、製品、製品コンポーネント、製品バージョン、および製品バージョンのビルド番号を作成および整理できます。 そして、製品の指定項目はテストに関連付けられ、バージョンおよびビルドは実行計画に関連付けられます。 Issue Manager で事前に定義された製品およびコンポーネントをインポートすることもできます。

- コンポーネントは、テストの目的でそれぞれ追跡される別個の製品要素です。

- バージョンは、開発およびテストの目的でそれぞれ追跡される製品リリースです。
- ビルドは、開発およびテストの目的でそれぞれ追跡されるバージョンの繰り返しです。

また SilkCentral により、テスト 向けにオペレーティング システムなどのプラットフォーム指定をセットアップできます。製品、バージョン、およびビルド セットアップと同様に、プラットフォームには名前、説明、およびアクティブまたは非アクティブのステータスを指定できます。

ビルドを管理する

ビルドは、開発およびテストの目的でそれぞれ追跡されるバージョンの繰り返しです。

ビルドを追加する

新しいビルドをバージョンに追加するには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 製品名をクリックします。 その製品の **製品の詳細** ページが開きます。
4. **バージョンのビルド** リスト ボックスで、ビルドの追加先となるバージョンを選択します。
5. **ビルドの新規作成** をクリックします。 **ビルドの新規作成** ダイアログ ボックスが表示されます。
6. **名前** テキスト ボックスに、新しいビルドの名前を入力します。
7. **説明** テキスト ボックスに、ビルドの説明を入力します。
8. **アクティブ** チェック ボックスをオンにして、このビルドとバージョンとの関連付けを有効にします。
9. **OK** をクリックしてビルドを保存します。この操作を中止する場合は、**キャンセル** をクリックします。

ビルドを編集する

バージョン内の既存のビルドを編集するには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 製品名をクリックします。 その製品の **製品の詳細** ページが開きます。
4. 編集対象のビルドを選択します。
5. **ビルドの編集** ダイアログ ボックスが表示され、選択されているビルドの **名前**、**説明**、および **アクティブ** ステータスが表示されます。 必要な変更をすべて行った後、**OK** をクリックします。
6. ビルドにタグ付けするには、**タグの設定** チェック ボックスをオンにします。



ビルドをアクティブまたは非アクティブにする

既存のビルドをアクティブまたは非アクティブにするには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 製品名をクリックします。 その製品の **製品の詳細** ページが開きます。
4. アクティブまたは非アクティブにするビルドに関連付けられた **ステータス** アイコンをクリックします。 確認ダイアログ ボックスに、アクティブ化/非アクティブ化を確認するメッセージが表示されます。
5. メッセージを確認して、ビルドのステータスを [アクティブ] と [非アクティブ] で切り替えます。


ビルド リストをソートする


ビルドをリスト内で上下に移動したり、ビルド リストを名前のアルファベット順にソートしたりするには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 製品名をクリックします。 その製品の **製品の詳細** ページが開きます。
4. **バージョンのビルド** リスト ボックスから、ビルドを表示するバージョンを選択します。
5. 移動する項目の **アクション** 列で、 または  をクリックします。
6. リストを名前のアルファベット順にソートするには、**名前でソート** をクリックします。

ビルドにタグ付けする


既存のビルドにタグ付けするには：

 **注:** タグ付けされたビルドの実行を削除できます。 タグ付けされたビルドを含む実行を削除しようとすると、警告が表示され、アクションを確認する必要があります。 実行ノードを右クリックして一括削除 (すべてまたは特定の期間) を実行する場合、タグ付けされたビルドは削除されません。

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 製品名をクリックします。 その製品の **製品の詳細** ページが開きます。
4. **ビルド** セクションで、タグ付けするビルドの **アクション** 列にある  をクリックします。 確認ダイアログ ボックスが表示されます。
5. **はい** をクリックしてタグ付けを実行します。または、**いいえ** をクリックしてタグ付けを中止します。

ビルドを削除する

既存のビルドをバージョンから削除するには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 製品名をクリックします。 その製品の **製品の詳細** ページが開きます。
4. 削除対象のビルドを非アクティブにします。
詳細については、「ビルドをアクティブおよび非アクティブにする」を参照してください。
5. ビルドの [アクション] 列で、 をクリックします。 確認ダイアログ ボックスが表示されます。
6. **はい** をクリックして削除を実行します。または、**いいえ** をクリックして削除を中止します。

コンポーネントを管理する

コンポーネントは、テストの目的でそれぞれ追跡される別個の製品要素です。

コンポーネントを追加する

新しいコンポーネントを製品に追加するには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 製品名をクリックします。 その製品の **製品の詳細** ページが開きます。
4. **コンポーネントの新規作成** をクリックします。 **コンポーネントの新規作成** ダイアログ ボックスが表示されます。
5. **名前** テキスト ボックスに、新しいコンポーネントの名前を入力します。
6. **説明** テキスト ボックスに、コンポーネントの説明を入力します。
7. **タイプ** からコンポーネントのタイプを選択します。
選択可能な値は、ソフトウェア と ドキュメント です。
8. **アクティブ** チェック ボックスをオンにして、このコンポーネントと製品との関連付けを有効にします。

9. **OK** をクリックしてコンポーネントを保存します。この操作を中止する場合は、**キャンセル** をクリックします。

コンポーネントを編集する

製品内の既存のコンポーネントを編集するには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 製品名をクリックします。 その製品の **製品の詳細** ページが開きます。
4. 編集対象のコンポーネントを選択します。
5. **コンポーネントの編集** ダイアログ ボックスが表示され、選択されているコンポーネントの **名前**、**説明**、および **アクティブ** ステータスが表示されます。 必要な変更をすべて行った後、**OK** をクリックします。



注：コンポーネントのタイプを編集するには、まずそのコンポーネントを非アクティブにする必要があります。 その他の情報については、「コンポーネントをアクティブおよび非アクティブにする」を参照してください。



コンポーネントをアクティブまたは非アクティブにする

既存のコンポーネントをアクティブまたは非アクティブにするには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 製品名をクリックします。 その製品の **製品の詳細** ページが開きます。
4. アクティブまたは非アクティブにするコンポーネントに関連付けられた **ステータス** アイコンをクリックします。 確認ダイアログ ボックスに、アクティブ化/非アクティブ化を確認するメッセージが表示されます。
5. メッセージを確認して、コンポーネントのステータスを [アクティブ] と [非アクティブ] で切り替えます。

コンポーネント リストをソートする

コンポーネントをリスト内で上下に移動したり、コンポーネント リストを名前のアルファベット順にソートしたりするには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 製品名をクリックします。 その製品の **製品の詳細** ページが開きます。
4. **コンポーネント タイプ** リスト ボックスから、コンポーネントを表示するコンポーネント タイプを選択します。
5. 移動する項目の **アクション** 列で、 または  をクリックします。
6. リストを名前のアルファベット順にソートするには、**名前でソート** をクリックします。

コンポーネントを削除する

既存のコンポーネントを製品から削除するには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 製品名をクリックします。 その製品の **製品の詳細** ページが開きます。
4. 削除対象のコンポーネントを非アクティブにします。
その他の情報については、「コンポーネントをアクティブおよび非アクティブにする」を参照してください。

5. コンポーネントの [アクション] 列で、**X** をクリックします。確認ダイアログ ボックスが表示されます。
6. **はい** をクリックして削除を実行します。または、**いいえ** をクリックして削除を中止します。

プラットフォームを管理する

テスト 向けにオペレーティング システムなどのプラットフォーム指定をセットアップします。製品、バージョン、およびビルド セットアップと同様に、プラットフォームには名前、説明、およびアクティブまたは非アクティブのステータスを指定できます。


プラットフォームを追加する

新しいプラットフォームを追加するには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **プラットフォーム** タブをクリックします。 **プラットフォーム** ページに、既存のすべてのプラットフォームが一覧表示されます。
3. **プラットフォームの新規作成** をクリックします。 **プラットフォームの新規作成** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **名前** テキスト ボックスに、新しいプラットフォームの名前を入力します。
5. **説明** テキスト ボックスに、プラットフォームの説明を入力します。
6. **アクティブ** チェック ボックスをオンにして、このプラットフォームとテスト との関連付けを有効にします。
7. **OK** をクリックして、プラットフォームを保存します。

プラットフォームを編集する

既存のプラットフォームを編集するには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **プラットフォーム** タブをクリックします。 **プラットフォーム** ページに、既存のすべてのプラットフォームが一覧表示されます。
3. 編集するプラットフォームの **アクション** 列で、 をクリックします。
4. **プラットフォームの編集** ダイアログ ボックスが表示され、選択されているプラットフォームの **名前**、**説明**、および **アクティブ** ステータスが表示されます。必要な変更をすべて行った後、**OK** をクリックします。

プラットフォームをアクティブまたは非アクティブにする





注： テスト に関連付けられているプラットフォームは非アクティブにできません。

既存のプラットフォームをアクティブまたは非アクティブにするには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **プラットフォーム** タブをクリックします。 **プラットフォーム** ページに、既存のすべてのプラットフォームが一覧表示されます。
3. アクティブまたは非アクティブにするプラットフォームに関連付けられた **ステータス** アイコンをクリックします。確認ダイアログ ボックスに、アクティブ化/非アクティブ化を確認するメッセージが表示されます。
4. メッセージを確認して、プラットフォームのステータスを [アクティブ] と [非アクティブ] で切り替えます。


プラットフォーム リストをソートする

プラットフォームをリスト内で上下に移動したり、プラットフォーム リストを名前のアルファベット順にソートしたりするには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **プラットフォーム** タブをクリックします。 **プラットフォーム** ページに、既存のすべてのプラットフォームが一覧表示されます。
3. 移動する項目の **アクション** 列で、 または  をクリックします。
4. プラットフォーム リストを名前のアルファベット順にソートするには、**名前でソート** をクリックします。

プラットフォームを削除する

既存のプラットフォームを削除するには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **プラットフォーム** タブをクリックします。 **プラットフォーム** ページに、既存のすべてのプラットフォームが一覧表示されます。
3. 削除対象のプラットフォームを非アクティブにします。
詳細については、「プラットフォームをアクティブおよび非アクティブにする」を参照してください。
4. 削除するプラットフォームの **アクション** 列で、 をクリックします。確認ダイアログ ボックスが表示されます。
5. **はい** をクリックして削除を実行します。または、**いいえ** をクリックして削除を中止します。

[プラットフォーム] 設定ページ




管理 > プラットフォーム

このページは、プラットフォームの設定に使用します。

新しいプラットフォームを作成するには、**プラットフォームの新規作成** をクリックします。詳細については、「プラットフォームを追加する」を参照してください。

プラットフォーム リストを名前のアルファベット順にソートするには、**名前でソート** をクリックします。詳細については、「プラットフォーム リストをソートする」を参照してください。

リスト内のプラットフォームごとに、次の列がページに表示されます。

列	説明
アクション	ユーザーは、プラットフォームに対して次のアクションを実行できます。  プラットフォームをリストの1つ上の行に移動します。  プラットフォームをリストの1つ下の行に移動します。  プラットフォームを完全に削除します。プラットフォームは削除する前に非アクティブにする必要があります。プラットフォームが既にテストに関連付けられている場合は削除できません。

列	説明
名前	GUI およびレポートに表示されるプラットフォームの名前。プラットフォームの名前をクリックしてプラットフォームの名前、説明、およびステータスを変更します。
説明	プラットフォームのテキスト説明。
ステータス	プラットフォームのステータス ([アクティブ] または [非アクティブ])。ステータスをクリックして、ステータスを [アクティブ] と [非アクティブ] で切り替えます。
作成日時	プラットフォームが作成された日時。
作成者	このプラットフォームを作成したユーザー。


製品を管理する

SilkCentral で製品を設定する方法について説明します。

製品を追加する


新しい製品を追加するには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. **製品の新規作成** をクリックします。 **製品の新規作成** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **名前** テキスト ボックスに、新しい製品の名前を入力します。
5. **説明** テキスト ボックスに、製品の説明を入力します。
6. **アクティブ** チェック ボックスをオンにして、この製品とテスト との関連付けを有効にします。
7. **OK** をクリックして、製品を保存します。

 **注:** 製品を作成すると、SilkCentral によって、その製品に対するデフォルトのバージョン 1.0 とデフォルトのビルド 1 が、自動的に作成されます。

製品を編集する

既存の製品を編集するには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 編集する製品の **アクション** 列で、 をクリックします。 **製品の編集** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 選択した製品の **名前**、**説明**、および **アクティブ** ステータスに必要なすべての変更を加え、**OK** をクリックします。

製品をアクティブまたは非アクティブにする



既存の製品をアクティブまたは非アクティブにするには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。

3. アクティブまたは非アクティブにする製品に関連付けられた **ステータス** アイコンをクリックします。確認ダイアログ ボックスに、アクティブ化/非アクティブ化を確認するメッセージが表示されます。
4. メッセージを確認して、製品のステータスを [アクティブ] と [非アクティブ] で切り替えます。


製品リストをソートする

製品をリスト内で上下に移動したり、製品リストを名前のアルファベット順にソートしたりするには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 移動する項目の **アクション** 列で、 または  をクリックします。
4. リストを名前のアルファベット順にソートするには、**名前でソート** をクリックします。

製品を削除する

既存の製品を削除するには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 削除対象の製品を非アクティブにします。
詳細については、「製品をアクティブおよび非アクティブにする」を参照してください。
4. 削除する製品の **アクション** 列で、 をクリックします。確認ダイアログ ボックスが表示されます。
5. **はい** をクリックして削除を実行します。または、**いいえ** をクリックして削除を中止します。





[製品] 設定ページ

管理 > 製品/バージョン/ビルド > 製品

このページは、製品、コンポーネント、バージョン、およびビルドの設定に使用します。

製品の新規作成 をクリックして、新しい製品を作成します。 **名前でソート** をクリックして、製品を名前のアルファベット順にソートします。

リスト内の製品ごとに、次の列がページに表示されます。

列	説明
アクション	製品に対して次のアクションを実行できます。  製品をリストの 1 つ上の行に移動します。  製品をリストの 1 つ下の行に移動します。  製品の名前、説明、およびステータスを編集します。  製品を完全に削除します。製品は削除する前に非アクティブにする必要があります。製品が既にテストに関連付けられている場合は削除できません。
名前	GUI およびレポートに表示される製品の名前。製品の名前をクリックして製品のコンポーネント、バージョン、およびビルドを変更します。
説明	製品のテキスト説明。

列	説明
ステータス	製品のステータス ([アクティブ] または [非アクティブ])。ステータスをクリックして、ステータスを [アクティブ] と [非アクティブ] で切り替えます。
作成日時	製品が作成された日時。
作成者	この製品を作成したユーザー。

ページには、選択した製品に含まれているコンポーネント、バージョン、およびビルドの詳細が表示されます。

製品のコンポーネントについては、次の列が表示されます。

列	説明
アクション	この列では、コンポーネントを削除できます。
名前	コンポーネントの名前。クリックすると、 コンポーネントの編集 ダイアログ ボックスが開きます。
説明	コンポーネントの説明。
作成日時	コンポーネントが作成された日時。
作成者	コンポーネントを作成したユーザー。
ステータス	コンポーネントのステータス。[アクティブ] または [非アクティブ]。クリックしてステータスを切り替えます。

コンポーネントの新規作成 をクリックして、新しいコンポーネントを作成します。**名前でソート** をクリックして、コンポーネントを名前のアルファベット順にソートします。**更新** をクリックしてコンポーネント リストを保存します。

製品のバージョンについては、次の項目が表示されます。

項目	説明
アクション	この列では、バージョンを削除したり、バージョンをリスト内で上下に移動したりできます。
名前	バージョンの名前。クリックすると、 バージョンの編集 ダイアログ ボックスが開きます。
説明	バージョンの説明。
作成日時	バージョンが作成された日時。
作成者	バージョンを作成したユーザー。
ステータス	バージョンのステータス。[アクティブ] または [非アクティブ]。クリックしてステータスを切り替えます。


バージョンの新規作成 をクリックして、新しいバージョンを作成します。**名前でソート** をクリックして、バージョンを名前のアルファベット順にソートします。

製品のビルドについては、次の項目が表示されます。

項目	説明
アクション	ビルドを削除したり、ビルドにタグ付けしたりできます。

項目	説明
名前	ビルドの名前。クリックすると、 ビルドの編集 ダイアログ ボックスが開きます。
説明	ビルドの説明。
作成日時	ビルドが作成された日時。
作成者	ビルドを作成したユーザー。
ステータス	ビルドのステータス。[アクティブ]または[非アクティブ]。クリックしてステータスを切り替えます。

ビルドの新規作成 をクリックして、新しいビルドを作成します。**名前**でソート をクリックして、ビルド リストを名前のアルファベット順にソートします。**更新** をクリックしてコンポーネント リストを保存します。

 **注:** これらのボタンを有効にするには、**ビルド** リスト ボックスで特定のバージョンを選択する必要があります。

製品リストに戻るには、**戻る** をクリックします。

バージョンを管理する

バージョンは、開発およびテストの目的でそれぞれ追跡される製品リリースです。

バージョンを追加する

新しいバージョンを製品に追加するには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 製品名をクリックします。その製品の **製品の詳細** ページが開きます。
4. **バージョンの新規作成** をクリックします。 **バージョンの新規作成** ダイアログ ボックスが表示されます。
5. **名前** テキスト ボックスに、新しいバージョンの名前を入力します。
6. **説明** テキスト ボックスに、バージョンの説明を入力します。
7. **アクティブ** チェック ボックスをオンにして、このバージョンと製品との関連付けを有効にします。
8. **OK** をクリックしてバージョンを保存します。この操作を中止する場合は、**キャンセル** をクリックします。

バージョンを編集する

製品内の既存のバージョンを編集するには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 製品名をクリックします。その製品の **製品の詳細** ページが開きます。
4. 編集対象のバージョンを選択します。 **バージョンの編集** ダイアログ ボックスが表示されます。
5. 選択したバージョンの **名前**、**説明**、および **アクティブ** ステータスに必要なすべての変更を加え、**OK** をクリックします。

製品をアクティブまたは非アクティブにする



既存の製品をアクティブまたは非アクティブにするには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。

2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. アクティブまたは非アクティブにする製品に関連付けられた **ステータス** アイコンをクリックします。確認ダイアログ ボックスに、アクティブ化/非アクティブ化を確認するメッセージが表示されます。
4. メッセージを確認して、製品のステータスを [アクティブ] と [非アクティブ] で切り替えます。


バージョン リストをソートする

バージョンをリスト内で上下に移動したり、バージョン リストを名前のアルファベット順にソートしたりするには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 製品名をクリックします。 その製品の **製品の詳細** ページが開きます。
4. 移動する項目の **アクション** 列で、 または  をクリックします。
5. リストを名前のアルファベット順にソートするには、**名前ですорт** をクリックします。

バージョンを削除する

既存のバージョンを製品から削除するには：

1. メニューで **管理 > 製品/バージョン/ビルド** をクリックします。
2. **製品** タブをクリックします。 **製品** ページに、既存のすべての製品が一覧表示されます。
3. 製品名をクリックします。 その製品の **製品の詳細** ページが開きます。
4. 削除対象のバージョンを非アクティブにします。
詳細については、「バージョンをアクティブおよび非アクティブにする」を参照してください。
5. 削除する製品の **アクション** 列で、 をクリックします。確認ダイアログ ボックスが表示されます。
6. **はい** をクリックして削除を実行します。または、**いいえ** をクリックして削除を中止します。

値リストをメンテナンスする

値リストを使用して、Issue Manager 向けに構成できる [問題のカスタム タブ] のカスタム プロパティに値を設定します(**問題 > 設定**)。問題のカスタム プロパティおよびタブの詳細については、『*SilkCentral Issue Manager* 管理ガイド』を参照してください。

値リストを追加する

新しい値リストを追加するには：

1. メニューで **管理 > 値リスト** をクリックします。
2. リストの**新規作成** をクリックします。 **値リストの新規作成** ダイアログ ボックスが表示されます。
3. **名前** テキスト ボックスに新しい値リストの名前を入力し、**説明** テキスト ボックスに値リストの説明を入力します。
4. **グループ化基準** リスト ボックスから、このリストをグループ化するパラメータを選択します。
この選択は限定的であり、新しいリストを保存した後では編集できません。値のグループ化とは、リスト内の各値に、**グループ化基準** リスト ボックスで選択したリストの値を割り当てる必要があることを意味します。値をグループ化しないと、カスタム値を手作業で定義できます。
5. **値の新規作成** をクリックして、リストに値を追加します。 **値の新規作成** ダイアログ ボックスが表示されます。
6. **名前** フィールドと **説明** フィールドに、新しい値の名前と説明をそれぞれ入力します。
7. **グループ化基準** で選択した項目に対応するリスト ボックスから値を選択します (該当する場合)。

8. **挿入位置 (後に挿入)** リストボックスから既存値のリスト内での新しい値の位置を選択するか、<最後の値> を選択してリストの最後に新しい値を追加します。
9. **OK** をクリックして値を保存します。 **値リストの新規作成** ダイアログ ボックスに、新たに追加された値が表示されます。
10. 値リストを完成させるために必要なすべての値を追加します。
11. **OK** をクリックして値リストを保存します。

値リストを編集する

既存の値リストを編集するには：

1. メニューで **管理 > 値リスト** をクリックします。
2. 編集する値リストの名前をクリックします。 **値リストの編集** ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 選択した値リストの **名前**、**説明**、および **グループ化基準** の設定を変更し、**OK** をクリックします。



注: リストに設定されている個々の値を個別に編集することもできます。個別の値を編集する方法の詳細については、「個別の値を編集する」を参照してください。

個別の値を編集する

値リスト内の個別の値を編集するには：

1. メニューで **管理 > 値リスト** をクリックします。
2. 編集する値リストの名前をクリックします。 **値リストの編集** ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 編集する値の名前をクリックします。 **値の編集** ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 必要に応じて、値の **名前** と **説明** を編集します。
5. **OK** をクリックして、変更を保存します。

値リストをアクティブまたは非アクティブにする



注: 値リスト 問題種別 は Issue Manager に必要なもので、このリストを非アクティブにすることはできません。

既存の値リストをアクティブまたは非アクティブにするには：

1. メニューで **管理 > 値リスト** をクリックします。
2. アクティブまたは非アクティブにする値リストに関連付けられた **ステータス** アイコンをクリックします。確認ダイアログ ボックスに、アクティブ化/非アクティブ化を確認するメッセージが表示されます。
3. メッセージを確認して、値リストのステータスを [アクティブ] と [非アクティブ] で切り替えます。



注: リストに設定されている個々の値を個別にアクティブまたは非アクティブにすることもできます。個別の値をアクティブまたは非アクティブにする方法の詳細については、「個別の値をアクティブまたは非アクティブにする」を参照してください。

個別の値をアクティブまたは非アクティブにする



値リスト内の個別の値をアクティブまたは非アクティブにするには：

1. メニューで **管理 > 値リスト** をクリックします。
2. アクティブまたは非アクティブにする値を含む値リストの名前をクリックします。 **値リストの編集** ダイアログ ボックスが表示されます。
3. アクティブまたは非アクティブにする値に関連付けられた **ステータス** アイコンをクリックします。確認ダイアログ ボックスが表示されます。

4. **OK** をクリックして更新された値リストを保存します。


値リスト内で値をソートする

値を値リスト内で上下に移動したり、値リストを値名のアルファベット順にソートしたりするには：

1. メニューで **管理 > 値リスト** をクリックします。
2. ソートする値を含む値リストの名前をクリックします。 **値リストの編集** ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 移動する項目の **アクション** 列で、 または  をクリックします。
4. 値リストを値名のアルファベット順にソートするには、**値でソート** をクリックします。 **値でソート** ダイアログ ボックスが表示されます。
5. ソート順（昇順 または 降順）を選択し、**OK** をクリックします。
6. **値リストの編集** ダイアログ ボックスの **OK** をクリックして、更新した値リストを保存します。

値リストを削除する

既存の値リストを削除するには：


1. メニューで **管理 > 値リスト** をクリックします。
2. 削除対象の値リストを非アクティブにします。
詳細については、「値リストアクティブおよび非アクティブにする」を参照してください。
3. 削除する値リストの [アクション] 列で、 をクリックします。確認ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **はい** をクリックして削除を実行します。または、**いいえ** をクリックして削除を中止します。



注： リストに設定されている個々の値を個別に削除することもできます。個別の値を削除する方法の詳細については、「個別の値を削除する」を参照してください。

個別の値を削除する

値リスト内の個別の値を削除するには：

1. メニューで **管理 > 値リスト** をクリックします。
2. 削除する値を含む値リストの名前をクリックします。 **値リストの編集** ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 削除対象の値を非アクティブにします。詳細については、「個別の値をアクティブおよび非アクティブにする」を参照してください。
4. 削除する値の **アクション** 列で、 をクリックします。
5. **値リストの編集** ダイアログ ボックスの **OK** をクリックして、更新した値リストを保存します。

[値リスト] 設定ページ

管理 > 値のリスト

このページは、値リストの設定に使用します。リスト内の値リストごとに、次の列がページに表示されません。

列	説明
名前	GUI およびレポートに表示される値リストの名前。値リストの名前をクリックして名前、説明、および値リストの値を変更します。

列	説明
グループ化基準	値リストが [製品] または [問題種別] でグループ化されているか、あるいは [非グループ化] であるかを示します。
ステータス	値リストのステータス ([アクティブ] または [非アクティブ])。ステータスをクリックして、[アクティブ] と [非アクティブ] を切り替えます。デフォルトの値リストである問題種別は、Issue Manager で使用される主要なコンポーネントであるため、非アクティブにできません。
作成日時	値リストが作成された日時。
作成者	この値リストを作成したユーザー。
変更日時	値リストが最後に変更された日時。
変更者	この値リストを最後に変更したユーザー。
アクション	値リストに対して次のアクションを実行できます。 ✕ 値リストを完全に削除します。値リストは削除する前に無効にする必要があります。値リストが既に問題に関連付けられている場合は削除できません。

新しい値リストを作成するには、**リストの新規作成** をクリックします。

グローバル スケジュールを設定する

実行計画のスケジュールを設定するために Test Manager で再利用できるグローバル スケジュールを定義できます。グローバル スケジュールを利用すると、実行計画のスケジューリング プロセスをスピードアップできます。個別のスケジュールを定義するのは、特殊なスケジューリングを必要とする実行計画のみに限定できるからです。スケジュールの詳細については、*SilkCentral Test Manager* のヘルプを参照してください。

除外期間


テストを実行しない曜日や時間帯を定義できます。たとえば、週末にはテストを実行しないように定義できます。


限定実行

設定されたスケジュールに関係なくテストを実行する必要がある時間を定義できます。

グローバル スケジュールを追加する



新しいグローバル スケジュールを追加するには：

1. メニューで **管理 > スケジュール** をクリックします。 **スケジュール** ページに、既存のすべてのグローバル スケジュールが一覧表示されます。
2. **スケジュールの新規作成** をクリックします。 **スケジュールの設定** ページが表示されます。
3. **名前** テキスト ボックスに、新しいスケジュールの名前を入力します。
4. **説明** テキスト ボックスに、スケジュールの説明を入力します。
5. **開始日時** の横にある  をクリックして、スケジュールの開始日時を定義します。

6. **間隔** で、実行の繰り返し間隔を定義します。設定できる時間範囲は 1 分から 36 日までです。
7. **サマータイムを補正する** チェックボックスをオンにすると、スケジュールによる実行が自動的にサマータイムに合わせて調整されます。
8. 実行の横にある  をクリックして、実行を停止する日時を定義します。**期限なし** をクリックして期限なしで実行するか、または **期限あり** をクリックして定義済みの期間まで実行します。
9. テストを実行しない曜日や時間帯を定義するには、**除外期間の追加** をクリックします。
詳細については、「スケジュールの除外期間を作成する」を参照してください。
10. テストを実行する必要がある時点定義するには、**限定実行の追加** をクリックします。
詳細については、「限定実行のスケジュールを作成する」を参照してください。
11. スケジュールの定義が完了したら、**保存** をクリックします。

グローバル スケジュールを編集する

グローバル スケジュールを変更するには：

1. メニューで **管理 > スケジュール** をクリックします。**スケジュール** ページに、既存のすべてのグローバル スケジュールが一覧表示されます。
2. 編集対象のスケジュールの名前をクリックします。**スケジュールの設定** ページが表示されます。
3. **名前** テキスト ボックスでスケジュールの名前を変更します。
4. **説明** テキスト ボックスでスケジュールの説明を変更します。
5. **開始時間** の横にある  をクリックして、スケジュールの新しい開始日時を定義します。
6. **間隔** で、実行の繰り返し間隔を変更します。設定できる時間範囲は 1 分から 36 日までです。
7. **サマータイムを補正する** チェックボックスをオンにすると、スケジュールによる実行が自動的にサマータイムに合わせて調整されます。
8. 実行の横にある  をクリックして、実行を停止する日時を定義します。**期限なし** をクリックして期限なしで実行するか、または **期限あり** をクリックして定義済みの期間まで実行します。
9. テストを実行しない曜日や時間帯を定義するには、**除外期間の追加** をクリックします。
詳細については、「スケジュールの除外期間を作成する」を参照してください。
10. テストを実行する必要がある時点定義するには、**限定実行の追加** をクリックします。
詳細については、「限定実行のスケジュールを作成する」を参照してください。
11. スケジュールの変更が完了したら、**保存** をクリックします。

グローバル スケジュールをアクティブまたは非アクティブにする


既存の製品をアクティブまたは非アクティブにするには：

1. メニューで **管理 > スケジュール** をクリックします。**スケジュール** ページに、既存のすべてのグローバル スケジュールが一覧表示されます。
2. アクティブまたは非アクティブにするスケジュールに関連付けられた **ステータス** アイコンをクリックします。確認ダイアログ ボックスに、アクティブ化/非アクティブ化を確認するメッセージが表示されます。
3. メッセージを確認して、スケジュールのステータスを [アクティブ] と [非アクティブ] で切り替えます。

グローバル スケジュールを削除する

既存のグローバル スケジュールを削除するには：



1. メニューで **管理 > スケジュール** をクリックします。 **スケジュール** ページに、既存のすべてのグローバルスケジュールが一覧表示されます。
2. 削除するスケジュールの **アクション** 列で、 **×** をクリックします。 確認ダイアログ ボックスが表示されます。
3. **はい** をクリックすると現在のスケジュールが削除され、 **いいえ** をクリックすると削除が中止されます。

 **注:** グローバルスケジュールがテストに一度でも使用されていると、スケジュールを削除できません。最初にすべてのテストで別のスケジュールを使うように設定し直す必要があります。

スケジュールの除外期間を作成する


スケジュールの除外期間を作成するには：



1. メニューで **管理 > スケジュール** をクリックします。 **スケジュール** ページに、既存のすべてのグローバルスケジュールが一覧表示されます。
2. 編集対象のスケジュールの名前をクリックします。
3. **スケジュールの設定** ページで、 **除外期間の追加** をクリックします。
4. **スケジュールの除外期間の設定** ページで、テストを実行しない曜日を選択します。
5. これらの曜日で、テスト定義を実行しない時間帯を定義します。
6. **OK** をクリックして除外期間の設定定義を完了するか、 **キャンセル** をクリックして中止します。これで、除外期間の設定が **スケジュールの設定** ページに一覧表示されます。
7. **保存** をクリックして除外期間を現在のスケジュールに追加するか、除外期間の追加を続行します。

 **ヒント:** 対象の除外期間の **アクション** 列で  または **×** をクリックして、除外期間を編集または削除できます。

限定実行のスケジュールを作成する

限定実行のスケジュールを作成するには：

1. メニューで **管理 > スケジュール** をクリックします。 **スケジュール** ページに、既存のすべてのグローバルスケジュールが一覧表示されます。
2. 編集対象のスケジュールの名前をクリックします。
3. **スケジュールの設定** ページで、 **限定実行の追加** をクリックします。
4. **限定実行の設定** ページで  をクリックして、限定実行の開始時刻を定義します。
5. **OK** をクリックして限定実行の定義を完了するか、 **キャンセル** をクリックして中止します。これで、限定実行の設定が **スケジュールの設定** ページに一覧表示されます。
6. **保存** をクリックして限定実行を現在のスケジュールに追加するか、または限定実行の追加を続行します。

 **ヒント:** 対象の限定実行の **アクション** 列で  または **×** 削除 をクリックして、限定実行を編集または削除できます。

[スケジュール] 設定ページ

管理 > スケジュール

このページは、Test Manager のグローバルスケジュールの設定に使用します。スケジュールごとに、次の列がページに表示されます。

列	説明
アクション	この列にはアクションのアイコンが含まれ、ユーザーはスケジュールについて次のアクションを実行できます。 ✗ スケジュールを完全に削除します。スケジュールが実行計画に既に関連付けられている場合は削除できません。
名前	GUI およびレポートに表示されるスケジュールの名前。スケジュールの名前をクリックしてスケジュールの名前、説明、およびステータスを変更します。
説明	スケジュールのテキスト説明。
ステータス	スケジュールのステータス ([アクティブ] または [非アクティブ])。ステータスをクリックして、ステータスを [アクティブ] と [非アクティブ] で切り替えます。
作成日時	スケジュールが作成された日時。
作成者	このスケジュールを作成したユーザー。

スケジュールの新規作成 をクリックして、新しいスケジュールを作成します。

ファイルプールを管理する

ファイルプールとは、フロントエンド サーバーと呼ばれる SilkCentral Web サーバー上のアップロードおよびダウンロード領域です。スーパーユーザーおよび管理者は、この領域にファイルをアップロードして、新しいテストの作成時にこれらのファイルを利用できるようにします。

ブラウザ インターフェイスを使用すれば、ファイルをハード ディスクまたは UNC パスからアップロードできます。



注: アップロードされたファイルからテストを作成しても、ファイルはファイルプールから削除されず、独立したインスタンスが作成されます。ファイルプールからファイルを削除するには、**管理 > ファイル** に移動して、削除するファイルの **削除** アイコンをクリックします。

ブラウザからファイルをアップロードする

ブラウザからファイルをアップロードするには：

1. メニューで **管理 > ファイル** をクリックします。
2. **ファイルプール** タブをクリックします。 **ファイルプール** ページが表示され、ファイルプールにアップロードされたファイルのリストが示されます。
3. **ブラウザからアップロード** をクリックし、 **ファイルプールにファイルをアップロード** します。ページを開きます。
4. アップロードするファイルの **説明** を入力します。
5. アップロードされたファイルを特定のプロジェクトのみが使用できるようにするには、**プロジェクト** リスト ボックスからプロジェクト名を選択します。すべてのプロジェクトがファイルにアクセスできるようにする場合は、プロジェクトが指定されていません。を選択します。
6. オプションとして、アップロードされたファイルに **所有者** を割り当てることができます。このようにすると、ユーザーはファイルの所有者に基づいてファイルプールにフィルタを適用できます。
7. **アップロードするファイルを選択** テキスト ボックスでは、アップロードするファイルの有効なローカルパスまたは UNC パスを手動で入力できます。または、**参照** を使用して、ファイルを参照することもできます。

SilkCentral では、.sep、.stp、.zip、.ltz の各ファイルのみがテストの作成に有効です。

8. **アップロード** をクリックして、ファイルを SilkCentral のファイルプールにアップロードします。その後、アップロードしたファイルがリストに表示される **ファイルプール** ページに戻ります。これで、Test Manager での新しいテストの作成にファイルを使用できるようになります。

[ファイルプール] ページ



管理 > ファイル

ファイルプール ページを使用して、ファイルプールへのファイルのアップロードおよびファイルプールからのファイルのダウンロードを行います。

フィルタ オプションによって、アクセス対象のアップロードされたファイルを絞り込むことができます。このページでは、次のフィルタ項目を設定できます。

フィルタ項目	説明
アップロード者	選択されたユーザーによってアップロードされたファイルまたはすべてのユーザーによってアップロードされたファイルを表示します。
プロジェクト	選択されたプロジェクトに関連するファイルを表示します。[任意のプロジェクト] を選択すると、アップロードされたファイルがすべて表示されます。[プロジェクトなし] を選択すると、どのプロジェクトにも関連しないファイルのみが表示されます。
所有者	選択された所有者に関連するファイルを表示します。[任意の所有者] を選択すると、アップロードされたすべてのファイルが表示されます。[所有者なし] を選択すると、所有者に関連しないファイルのみが表示されます。
更新	フィルタの設定に準じて、表示されるファイルのリストを更新します。

リスト内のファイルごとに、次の列がページに表示されます。

表項目	説明
アクション	この列にはアクションのアイコンが含まれ、ユーザーはファイルについて次のアクションを実行できます。  ファイルプールからファイルを完全に削除します。  ファイルをローカルコンピュータにダウンロードします。
ファイル	ファイルの名前。
ファイル サイズ	ファイルのサイズ。
アップロード日時	ファイルがアップロードされた日時。
アップロード者	このファイルをアップロードしたユーザー。
プロジェクト	ファイルが関連付けられているプロジェクト。または、ファイルを特定のプロジェクトに関連付けずにどのプロジェクトでも使用できることを示すことができます。

表項目	説明
所有者	このファイルを所有するユーザー。ファイルの所有者が指定されていない場合は、ファイル プールへのアクセス許可を持つユーザーであればこのファイルにアクセスしたり編集したりできます。

アップロード ボタン	説明
ブラウザからアップロード	ブラウザ インターフェイスを使用して、ファイルをお使いのハード ディスクまたは UNC パスからアップロードします。
SilkPerformer からアップロード	SilkPerformer からプロジェクトをアップロードする方法に関する情報が表示されます。

タイムゾーン

SilkCentral は、実行サーバーのネットワークに対してテスト を実行するように設計されています。インターネットによって、このようなネットワークを、複数のタイムゾーンをまたいで世界中に広げることが可能となったため、SilkCentral でのタイムゾーンの処理方法を理解することは重要です。

すべての日時値は、GMT でデータベースに保存されます。値の表現は、ユーザー設定で指定される **タイムゾーン** に基づいて設定されます。詳細については、「ユーザー アカウントを追加する」を参照してください。

以下の要件が適用されます。

- アプリケーション サーバーとフロントエンド サーバーは、同じタイムゾーンに存在する必要があります。アプリケーション サーバーは 1 つ以上のフロントエンド サーバーと緊密に通信するので、これらのサーバーを WAN 内でローカルに分離しても意味がありません。また、フロントエンド サーバーもアプリケーション サーバーも、データベースに直接アクセスします。
- 実行サーバーは、アプリケーション サーバーとも他の実行サーバーとも別の、異なるタイムゾーンに存在してもかまいません。

高度な設定

このセクションでは、高度な設定によって SilkCentral システムをカスタマイズする方法について説明します。

ログイン オプション

次の 2 つのログイン設定が機能強化されています。

ログイン情報の保存

SilkCentral ログイン ページの **ログイン情報を保存する** オプションのデフォルト設定が変更されています。

通常、ユーザーが複数のブラウザ ウィンドウで作業をしている場合には、ブラウザのセッションごとに 1 つのライセンスが必要です。 **ログイン情報を保存する** を有効にすると、1 人のユーザーが 1 台のコンピュータで複数のブラウザ セッションを使っている場合でも、使用するライセンスは 1 つで済みます。

ログイン情報を保存する オプションは、各ユーザーが必要に応じて有効にしたり無効にしたりすることができますが、デフォルト設定を指定できるのは管理者です。

Cookie の有効期間

ユーザーが SilkCentral にアクセスするたびに、エンコードされたログイン情報を持つ Cookie が作成されます。この Cookie は、ユーザーがログアウトするかセッションがタイムアウトすると破棄されます。ただし、**ログイン情報を保存する** オプションが有効になっている場合には、セッションがタイムアウトしても Cookie は破棄されません。指定の有効期間内は Cookie はアクティブなままです。この機能によって、ユーザーはセッションがタイムアウトするたびにログイン情報を入力し直さなくても、SilkCentral を使い続けることができます。デフォルトでは、Cookie の有効期間は 30 日です。有効期間の設定を変更できるのは管理者です。

ログイン情報を保存するオプションを設定する

ログイン情報を保存するオプションを有効または無効にするには：

1. フロントエンド サーバーを停止します。
2. SccFrontendBootConf.xml ファイルをテキスト エディタで開きます。
このファイルは、フロントエンド サーバー上の SilkCentral ディレクトリの /conf/frontendserver フォルダにあります。
3. BootConf¥Options¥Login¥RememberLogin という XML タグを探します。
このタグは、デフォルトで <RememberLogin>true</RememberLogin> に設定されています。
4. この値を false に設定すると、ログイン ページを開いたときにデフォルトで **ログイン情報を保存する** チェック ボックスがオフになります。この値を true に設定すると、ログイン ページを開いたときにデフォルトで **ログイン情報を保存する** チェック ボックスがオンになります。
5. XML ファイルを保存して閉じます。
6. フロントエンド サーバーを再起動します。

Cookie の有効期間を調整する

ログイン Cookie の有効期間を設定するには：

1. フロントエンド サーバーを停止します。
2. SccFrontendBootConf.xml ファイルをテキスト エディタで開きます。
このファイルは、フロントエンド サーバー上の SilkCentral ディレクトリの /conf/frontendserver フォルダにあります。
3. BootConf¥Options¥Login¥MaxCookieAge という XML タグを探します。
このタグは、デフォルトで <MaxCookieAge>30</MaxCookieAge> に設定されています。
4. ユーザーのコンピュータ上でログイン Cookie を何日間有効にするかの値を設定します。
5. XML ファイルを保存して閉じます。
6. フロントエンド サーバーを再起動します。

SilkCentral Service Manager を使用する

SilkCentral Service Manager は、SilkCentral サービスを管理し、ログ ファイルを表示するためのツールです。使用可能なサービスは次のとおりです。


- 実行サーバー
- フロントエンド サーバー
- アプリケーション サーバー
- チャート サーバー

ログ ファイル


各 SilkCentral サーバーは、行ったアクティビティをログ ファイルに書き出します。アプリケーション エラーやシステム障害が発生したときには、これらのログ ファイルが問題の根本原因を究明するための貴重な情報となります。

SilkCentral サービス

4 つのサービスのいずれかをインストールすると、セットアップ時に自動的に Service Manager がインストールされます。Service Manager には、SilkCentral プログラム グループまたは Windows タスクバーのトレイ アイコンからアクセスすることができます。Windows サービス (Windows サービス ウィンドウで参照することができます) は、*SilkCentral* <名前> *Server* という名前になります。たとえば、*SilkCentral Application Server* などです。

 **注:** Service Manager は、UAC (User Account Control : ユーザー アカウント制御) を使用する Windows プラットフォーム (例 : Microsoft Windows Vista、Microsoft Windows 7、または Microsoft Windows Server 2008) では、そのままでは動作しません。これらのプラットフォームで Service Manager を有効にするには、UAC を無効にするか、または Service Manager を停止し、**管理者として実行** オプションを使用して再起動する必要があります。

SilkCentral を動作させるには、4 つのサービスがすべて実行されている必要があります。これらのサービスは、別のコンピュータに分散させることも、1 つのコンピュータ上で動かすこともできます。サービスのインストール方法については、『*Test Manager* インストール ヘルプ』を参照してください。

 **ヒント:** サービスの停止や再起動は管理者が行う作業であり、システムが意図したとおりに動かない場合やメンテナンス作業を行う場合以外には必要ありません。

SilkCentral 実行サーバー

SilkCentral 実行サーバーは、Windows システム サービスとしても Windows プロセスとしても実行できます。

デフォルトでは、SilkCentral は実行サーバーを Windows プロセスとして起動します。

Windows プロセスは現在ログインしているユーザーの認証情報で起動しますが、システム サービスはローカル システム アカウント (デフォルトでは Windows システム アカウント) で起動します。システム

サービスは、ユーザーがログオフした後もアクティブなままです。そのため、コンピュータの電源が切られるまで SilkCentral 実行サーバーは有効です。


SilkTest Classic、Citrix、および SAP スクリプトを実行し監視するには、SilkCentral 実行サーバーを、有効なユーザー認証情報で Windows プロセスとして起動する必要があります。

システム起動時にどの SilkCentral サービスを実行するかを管理する


SilkCentral サービスは、システム起動時に自動的に起動するサービスです。サービスを非アクティブにしたい場合や、実行サーバーが今後サービス モードではなくプロセス モードで動くよう切り替えたい場合には、この動作を変更することができます。

システム起動時にどの SilkCentral サービスを実行するかを個別に管理するには：

1. Windows タスク バーの **SilkCentral Service Manager** トレイ アイコンをダブルクリックします。
SilkCentral Service Manager が表示されます。そこには、コンピュータにインストールされているサービスに応じて、最大で 5 つのタブが表示されます。
2. アクセスするサービスに対応するタブをクリックします。
 - SilkCentral Execution Server
 - Execution Server (Process)
 - SilkCentral Front-End Server
 - SilkCentral Application Server
 - SilkCentral Chart Server
3. 選択したサービスを自動的に起動する場合には、**Run at start-up (起動時に実行する)** チェック ボックスをオンにします。
4. **OK** をクリックしてサーバーの管理を終了します。*SilkCentral Service Manager* が閉じますが、システム トレイではアクティブなままです。

 **注：実行サーバー (プロセス)** が起動するのは Windows サーバーへのログインが済んだ後です。

全 SilkCentral サービスを起動、停止する


 **注意：**SilkCentral は、4 つのサービスが実行されていないと、正しく動作しません。

すべての SilkCentral サービスを一度に起動、停止するには：

1. Windows タスク バーの **SilkCentral Service Manager** トレイ アイコンを右クリックします。
2. 次のいずれかをクリックします。

Start all Services	コンピュータに現在インストールされているすべての SilkCentral サービスが実行を開始します。
Stop all Services	コンピュータにインストールされているすべての SilkCentral サービスが停止します。
3. サービスを個別に起動、停止する方法については、「個別サービスを起動、停止する」を参照してください。

個別 SilkCentral サービスを起動、停止する

 **注意：**SilkCentral は、4 つのサービスが実行されていないと、正しく動作しません。

サービスを個別に起動、停止するには：

1. Windows タスクバーの **SilkCentral Service Manager** トレイ アイコンをダブルクリックします。
SilkCentral Service Manager が表示されます。そこには、コンピュータにインストールされているサービスに応じて、最大で 5 つのタブが表示されます。
2. 管理するサービスのタブをクリックします。
SilkCentral 実行サーバーを、他のサーバーのようにシステム サービスとして起動するのではなく、Windows プロセスとして起動する方法については、「Windows プロセスとして実行サーバーを起動する」を参照してください。
3. **Start** または **Stop** をクリックして、選択したサービスを起動または停止します。
4. **Query Status** をクリックして、サービスの現在のステータスを確認します。



注: SilkCentral が動作できるように、サービス ステータスが [running] になっていることを確認してください。

実行サーバーは、他のサーバーのようにシステム サービスとして起動するのではなく、Windows プロセスとして起動することができます。このため、リアルタイムのアクティビティを表示するコンソール ウィンドウ付きで SilkCentral 実行サーバーを起動することができます。



注: フロントエンド、アプリケーション、チャートの各サーバーについては、このオプションは利用できません。

5. SilkCentral 実行サーバーをコンソール ウィンドウ付きで起動するには、次のステップを実行します。
 1. **Execution Server (Process)** タブで **Start with console** をクリックします。
 2. **Stop** をクリックします。
 3. **Start** をクリックします。
6. **OK** をクリックしてサービスの管理を終了します。Service Manager が閉じますが、システム トレイではアクティブなままです。

Windows プロセスとして SilkCentral 実行サーバーを起動する


デフォルトで、実行サーバーはシステム アカウントの下で Windows システム サービスとして実行します。ただし、GUI レベルのテストまたはブラウザ駆動型テストを実行する場合は、実行サーバーは実際のユーザーの認証情報を使用してプロセスとして実行する必要があります。



ヒント: 実行サーバーを両方のモード (サービスとプロセス) で同時に実行することはできません。実行サーバーを別のモードで立ち上げる前に、まず現在動いている実行サーバーを停止してください。

SilkCentral 実行サーバーを Windows プロセスとして起動するには :

1. Windows タスクバーの **SilkCentral Service Manager** トレイ アイコンをダブルクリックします。
SilkCentral Service Manager が表示されます。そこには、コンピュータにインストールされているサービスに応じて、最大で 5 つのタブが表示されます。
2. **SilkCentral Execution Server** タブをクリックします。
このタブは、Windows システム サービスとして実行されている SilkCentral 実行サーバーを表します。
3. **Stop** をクリックして SilkCentral 実行サーバー システム サービスを停止します。
4. **Query Status** をクリックして、サービスのステータスを確認します。
サービス ステータスが [stopped] になっていることを確認してください。
5. **Run at start-up** のチェックをオフにして、コンピュータの再起動後にサービスが起動しないようにします。
6. **Execution Server (Process)** タブをクリックします。
このタブは、Windows プロセスとして実行されている SilkCentral 実行サーバーを表します。

 **注:** この Windows プロセスは、現在ログインしているユーザーの認証情報で起動します。 SilkCentral 実行サーバーで実行しようと考えているタスクを実施できるだけの権限を、このユーザーが持っていることを確認してください。

7. **Start** をクリックして SilkCentral 実行サーバーを Windows プロセスとして起動します。
リアルタイムのアクティビティを表示するコンソール ウィンドウ付きで SilkCentral 実行サーバーを起動する方法については、「個別 SilkCentral サービスを起動、停止する」を参照してください。
8. **Run at start-up** のチェックをオンにして、コンピュータを再起動して再ログインした後にプロセスが起動するようにします。
9. **OK** をクリックして SilkCentral 実行サーバーの管理を終了します。 Service Manager が閉じますが、システム トレイではアクティブなままです。

SilkCentral Service Manager コンソールからログ ファイルを表示する


SilkCentral Service Manager コンソールから SilkCentral のログ ファイルを表示するには :

1. Windows タスク バーの **SilkCentral Service Manager** トレイ アイコンをダブルクリックします。 *SilkCentral Service Manager* が表示されます。そこには、コンピュータにインストールされているサービスに応じて、最大で 5 つのタブが表示されます。
2. ログ ファイルを表示したいサーバーを表すタブを選択します。
3. サーバーの **Logfile** リンクをクリックします。
登録されているテキスト エディタでログ ファイルが開きます。デフォルトでは、Microsoft のメモ帳が使用されます。
4. SilkCentral Service Manager で **OK** または **キャンセル** をクリックし、Service Manager を閉じます。 Service Manager が閉じますが、システム トレイではアクティブなままです。

疑わしい実行時間

テストの実行時間はさまざまですが、実行に時間がかかりすぎている場合には、実行計画に最後の変更を加えたユーザーには電子メールで通知を送ることができます。

SilkCentral 実行がある時間よりも長くかかると、テストは通知を送ります。ユーザーは、テスト実行にどれだけの時間がかかったときに電子メールを送るかを設定することができます。

 **注:** テスト 領域の **成功条件** にある 実行タイムアウト [秒] プロパティを指定することで、特定のテストごとにタイムアウトを設定することもできます。

疑わしい実行時間を設定する

疑わしい実行時間を設定するには :

1. アプリケーション サーバーを停止します。
2. TmAppServerHomeConf.xml ファイルをテキスト エディタで開きます。
このファイルは、アプリケーション サーバー上の SilkCentral ディレクトリの /conf/appserver フォルダにあります。
3. Config ¥ ExecutionTracking ¥ SuspiciousDuration という XML タグを探します。
このタグは、デフォルトで <SuspiciousDuration>360</SuspiciousDuration> に設定されています。
4. テスト 実行に時間がかかりすぎているときに、何分後に SilkCentral が管理者に通知を出すかの値を設定します。
5. XML ファイルを保存して閉じます。
6. アプリケーション サーバー サービスを再起動します。

外部の問題統計の更新を無効にする

外部の問題追跡プロファイルの問題統計の更新は多くのメモリを使用する場合があります。これによりパフォーマンスが低下する可能性もあります。更新を無効にするには：

1. アプリケーション サーバーを停止します。
2. TmAppServerHomeConf.xml ファイルをテキスト エディタで開きます。
このファイルは、アプリケーション サーバー上の SilkCentral ディレクトリの /conf/appserver フォルダにあります。
3. Config/IssueStateUpdate/UpdateIssueUnitStatistics という XML タグを探します。
このタグは、デフォルトで true に設定されています。
4. 値を false に設定して、更新を無効にします。
5. XML ファイルを保存して閉じます。
6. アプリケーション サーバー サービスを再起動します。

日時の書式

SilkCentral では、ユーザー定義の日時の書式を設定できます。SilkCentral ユーザーは、各自が自分専用のユーザー設定を変更することができます。その設定には、日付をカスタマイズ表示するための長い日付と短い日付の書式のオプションが含まれます。詳細については、「ユーザー アカウントを編集する」を参照してください。

SilkCentral によって、定義済みの日時の書式のリストが提示されます。ユーザーは、このリストから選択を行うことができます。SilkCentral 管理者は、このリストにカスタマイズした書式を追加することができます。

パターン定義

日時の書式は、日時のパターン文字列で指定します。日時のパターン文字列内では、引用符で囲まない "A" から "Z" までと "a" から "z" までの文字は、日時の文字列の構成要素を表すパターン文字として解釈されます。テキストを解釈させないためには、一重引用符 (') を使います。"" が一重引用符を表します。その他の文字はどれも解釈されません。整形時にはそのまま出力文字列にコピーされ、解析時には入力文字列と照合されます。

次のパターン文字が定義されています。それ以外の「A」から「Z」までと「a」から「z」までの文字はすべて予約済みです。

文字	日時の構成要素	表示	例
G	紀元の指定	テキスト	AD
y	年	年	1996、96
M	年内の月	月	July、Jul、07
w	年内の週番号	数	27
W	月内の週番号	数	2
D	年内の日番号	数	189
d	月内の日番号	数	10
F	月内の何度目の曜日か	数	2
E	曜日	テキスト	Tuesday、Tue

文字	日時の構成要素	表示	例
a	午前/午後指定	テキスト	PM
H	24 時間表記の時間 (0 ~ 23)	数	0
k	24 時間表記の時間 (1 ~ 24)	数	24
K	午前/午後表記の時間 (0 ~ 11)	数	0
h	午前/午後表記の時間 (1 ~ 12)	数	12
m	時間内の分	数	30
s	分内の秒	数	55
S	ミリ秒	数	978
z	タイムゾーン	一般的なタイムゾーン	Pacific Standard Time、PST、GMT-08:00
Z	タイムゾーン	RFC 822 タイムゾーン	-0800

文字の数によって正確な表示方法が決まるため、パターン文字は通常、繰り返されます。

次のリストでは、上の表の **表示** 列の項目について説明します。

項目	説明
テキスト	整形時には、パターン文字の数が 4 以上であれば完全形式を使用し、4 未満のときには短縮形式があればそれを使用します。解析時には、パターン文字の数に関係なく、両方の書式を受け入れます。
数	整形時には、パターン文字の数が最低桁数になり、足りない部分はゼロで埋められます。解析時には、隣接する 2 つのフィールドを分けるのに必要な場合を除いて、パターン文字の数は無視されます。
年	整形時には、パターン文字の数が 2 であれば 2 桁に短縮して表示され、それ以外のときには数として解釈されます。
月	パターン文字の数が 3 以上であれば月はテキストとして解釈され、それ以外のときには数として解釈されます。
一般的なタイムゾーン	タイムゾーンは、名前が付けられているときにはテキストとして解釈されます。パターン文字の数が 4 未満の場合には、タイムゾーンの短縮形が表示されます (PST など)。パターン文字の数が 4 以上であれば、完全名が表示されます (Pacific Standard Time など)。
RFC 822 タイムゾーン	RFC 822 の 4 桁のタイムゾーン書式が使われます (-0800 など)。

例

次の例は、日時のパターンが米国でどのように解釈されるかを示したものです。例に使った日時は、2001-07-04 12:08:56 ローカルタイム、太平洋標準時タイムゾーンです。

日時のパターン	結果
"yyyy.MM.dd G 'at' HH:mm:ss z"	2001.07.04 AD at 12:08:56 PDT

日時のパターン	結果
"EEE, MMM d, 'yy"	Wed, Jul 4, '01
"h:mm a"	12:08 PM
"hh 'o'clock' a, zzzz"	12 o'clock PM, Pacific Daylight Time
"K:mm a, z"	0:08 PM, PDT
"yyyyy.MMMMM.dd GGG hh:mm aaa"	02001.July.04 AD 12:08 PM
"EEE, d MMM yyyy HH:mm:ss Z"	Wed, 4 Jul 2001 12:08:56 -0700
"yyMMddHHmmssZ"	010704120856-0700

日時の書式をカスタマイズする

日時の書式をカスタマイズするには：

1. フロントエンド サーバーを停止します。
2. SccFrontendBootConf.xml ファイルをテキスト エディタで開きます。
このファイルは、フロントエンド サーバー上の SilkCentral ディレクトリの /conf/frontendserver フォルダにあります。
3. DateFormats という XML タグを探します。
<LongDateFormats> および <ShortDateFormats> の XML タグに、デフォルトで利用可能な日付の書式が示されています。書式を追加してユーザーが利用できるようにしたり、書式を削除して利用できないようにしたりできます。
4. Java の SimpleDateFormat クラスに基づく時刻の書式を入力します。
5. XML ファイルを保存して閉じます。
6. フロントエンド サーバーを再起動します。

HTML 応答の圧縮

SilkCentral フロントエンド サーバーには、gzip 形式で圧縮した応答を自動的に送るためのオプションがあります。この機能を有効にすると、SilkCentral HTML ページのロード時間は短縮されますが、予想される HTML 要求の量（同時に SilkCentral を使用するユーザーの数）によっては、フロントエンド サーバーの負荷が少し増えることがあります。

HTML 応答の圧縮が正しく機能するのは、ユーザーの Web ブラウザが HTML 応答の圧縮をサポートしている場合のみです。

サポートされているブラウザの最新のリストについては、リリース ノートを参照してください。

HTML 応答の圧縮の有効化/無効化を切り替える

HTML 応答の圧縮の有効化/無効化を切り替えるには：

1. フロントエンド サーバーを停止します。
2. Server.xml ファイルをテキスト エディタで開きます。
このファイルは、フロントエンド サーバー上の SilkCentral ディレクトリの /conf/frontendserver フォルダにあります。
3. Connector という XML タグを探します。

4. `compression="on"` および `compressableMimeType="text/html,text/xml,text/plain,text/css,text/javascript,application/xml"` をコネクタに追加します。
サブレットが応答を gzip で圧縮するようになります。gzip は、Apache Tomcat Native から取得します。
5. XML ファイルを保存して閉じます。
6. フロントエンド サーバーを再起動します。

ホスト名の表示

複数のフロントエンド サーバー上の Web アプリケーションを使って作業している場合には、どのホスト上で作業しているかがわかると便利です。SilkCentral では、Web ブラウザのタイトルバーにフロントエンド サーバーのホスト名を表示するかどうかを設定することができます。

Web ブラウザのタイトルバーでホスト名の表示/非表示を切り替える

Web ブラウザのタイトルバーでホスト名の表示/非表示を切り替えるには：

1. フロントエンド サーバーを停止します。
2. `SccFrontendBootConf.xml` ファイルをテキスト エディタで開きます。
このファイルは、フロントエンド サーバー上の SilkCentral ディレクトリの `/conf/frontendserver` フォルダにあります。
3. ファイルの Options セクションで `DisplayHostNameInTitleBar` という XML タグを探します。
4. 値を `true` (デフォルト値) に設定すると、SilkCentral にアクセスしたときに、フロントエンド サーバーのホスト名が Web ブラウザのタイトルバーに表示されます。値を `false` に設定するとホスト名は表示されず、値をそれ以外の文字列に設定すると指定した文字列が表示されます。
たとえば、XML タグを `true` に設定すると、ブラウザには `HURRICANE - SilkCentral - Micro Focus - Administration: System - Microsoft Internet Explorer` と表示されます。
タグを `false` に設定すると、ブラウザには `SilkCentral - Micro Focus - Administration: System - Microsoft Internet Explorer` と表示されます。
タグを `MyHost` に設定すると、ブラウザには `MyHost - SilkCentral - Micro Focus - Administration: System - Microsoft Internet Explorer` と表示されます。
5. XML ファイルを保存して閉じます。
6. フロントエンド サーバーを再起動します。

Ext メソッドを使った (PuTTY による) CVS リポジトリへのアクセス

PuTTY は、フリーでオープンソースの SSH、Telnet、rlogin、raw TCP クライアントです。PuTTY の詳細情報やダウンロードは、<http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/> で提供されています。

CVS の ext メソッドでは、CVS サーバーとの通信に外部アプリケーションを使用するように指定します。どのプログラムを使用するかを CVS コマンドに知らせるために、環境変数 `CVS_RSH` にプログラムパスを指定する必要があります。PuTTY を使用する場合、ここには `Plink.exe` のパスを指定する必要があります。


ext メソッドを使用して CVS リポジトリに接続する場合、ホスト名および認証情報はまとめて PuTTY セッションに格納されます。このセッションを SilkCentral Test Manager CVS プロファイルに指定すると、サーバー名、ユーザー名、パスワードは無視されます。

CVS およびその他のソース管理プロファイルの詳細については、『Test Manager ヘルプ』を参照してください。

Ext メソッドを使って (PuTTY を使って) CVS リポジトリへアクセスする

CVS およびその他のソース管理プロファイルの詳細については、『Test Manager ヘルプ』を参照してください。

ext メソッドを使って CVS リポジトリにアクセスするための PuTTY プロファイルを作成するには：

1. PuTTY 内から **カテゴリ** ツリーの **セッション** ノードを選択します。
2. **ホスト名** テキストボックスに CVS サーバー名を入力します。
3. **ストアされたセッションの読み込み、保存、削除** 領域で、保存されたセッションを選択するか新しいセッションを読み込んで、セッション名を指定します。
4. **カテゴリ** ツリーの **接続** ノードを選択します。
5. **自動ログインのユーザー名** を指定します。
このユーザー名は、PuTTY が対象のアプリケーションにログインしようとして、ユーザー名が指定されていない場合に使うものです。この設定は、ext メソッドを使う場合、CVS のプロファイルに設定されたユーザー名より優先されます。
6. **カテゴリ** ツリーの **SSH/認証** ノードを選択します。
7. **認証のためのプライベートキーファイル** テキストボックスに、認証に使用するキー ファイルを設定します。
 **注:** プライベートキーとパブリックキーは、PuTTY プログラム puttygen.exe で作成できます。パブリックおよびプライベートキー認証を使うと、パスワードなしでシステムにログインすることができます。パブリックキーはサーバー上にインストールされ、プライベートキーはローカルファイルに保存されます。**認証のためのプライベートキーファイル** フィールドにローカルファイル名を指定します。オプションでパスワードを使用してキーをセキュアにするには、PuTTY プログラム pageant.exe を使用する必要があります。このプログラムはシステムトレイで動き、プライベートキーのパスワードを保守します。
8. **カテゴリ** ツリーの **セッション** ノードをもう一度選択し、**保存** をクリックします。
9. ここで **開く** をクリックして設定のテストを行います。putty @cvs-server を実行してログインシェルを生成できるはずですが、Test Manager で CVS プロファイルを作成するときには、サーバー名として PuTTY セッションの名前を (@ シンボルなしで) 入力する必要があります。

テストのデータ キャッシング

Test Manager では、**テスト** でのキャッシングを利用して、フロントエンドサーバーのスケーラビリティの向上と、複数のユーザーが同じプロジェクトで同時に作業する際のデータベース負荷の削減を図っています。**テスト** ツリーとテストフィルタは、フロントエンドサーバーとデータベースサーバーにかなりの負荷を与えます。特定のプロジェクトに対する **テスト** ツリーとフィルタの情報は、複数のユーザーの間で共有されるので、この領域はキャッシングに非常に適しています。

テストツリーのキャッシング

テスト ツリーのキャッシュは、メモリで現在使用中のプロジェクトのすべてのツリー情報を保持します。また、定期的にデータベースをチェックし、ツリーに変更がないかどうかを確認します。管理者は、TMFrontendBootConf.xml 設定ファイルの Cache/TestPlanTree/CheckForChangesInterval を設定することによって、キャッシュの動作を変更できます。これは、ツリー情報が古いままになっている期間の

最大値（秒）を表します。この設定に関係なく、同じフロントエンドサーバー上のテスト、フォルダ、またはコンテナに変更が生じた場合は、直ちにキャッシュに変更が反映されます。Cache/TestPlanTree/CheckForChangesInterval の設定は、別のフロントエンドサーバー上で変更が生じた場合のみ関係します。プロジェクトが 1 時間より長い時間ユーザーに使われていない場合は、そのプロジェクトツリーのキャッシュ全体がクリアされます。そのプロジェクトは、次回ユーザーがそのプロジェクトにアクセスしたときに再ロードされます。


テストフィルタのキャッシング

フィルタのキャッシングを利用すると、特定のフィルタ基準に一致するテストの ID が、指定した期間（キャッシュの最小時間設定に基づく）または各フィルタの実行時間だけキャッシュされます。管理者は、TMFrontendBootConf.xml 設定ファイルの Cache/FilterCache/ の 2 つのプロパティを設定することによって、この動作を変更できます。

第 1 のプロパティ MinimalLifeTime は、フィルタ結果がキャッシュから削除されるまでの最小時間（秒）を定義します。第 2 のプロパティ LifeTimeMultiplier は、この最小時間の設定がフィルタのクエリの実行時間に依存するようにします。たとえば、係数を > 0 に設定すると、フィルタ結果がキャッシュに保持される最大時間は MinimalLifeTime、またはクエリの実行時間を LifeTimeMultiplier 倍した値になります。したがって、フィルタのクエリの実行時間が 1 秒の場合、MinimalLifeTime と LifeTimeMultiplier にデフォルト値（共に 30）を使用すると、フィルタ結果は 30 秒間キャッシュされます。フィルタのクエリの実行時間が 30 秒の場合は、フィルタ結果は、やはり 30 秒間キャッシュされます。一方、フィルタのクエリの実行時間が 2 秒の場合は、フィルタ結果は 60 秒間キャッシュされます。

キャッシュを使用するための JMX 測定

Test Manager では、基盤となる Java プロセスを監視するための JMX 読み取り測定、およびその他のプロセス固有の測定を提供しています。テストツリーのキャッシュおよびテストフィルタのキャッシュについての JMX 情報は、borland.com/Frontend/TM の JMX measures (JMX 測定) ツリーにあります。

 **注:** Silk Performance Explorer やその他のツールを使用して、これらの測定を追跡することができます。

テストのキャッシュを使用するための JMX 測定

Test Manager では、基盤となる Java プロセスやその他のプロセス固有の測定を監視するために、JMX 読み取り測定を使用できます。テストツリーのキャッシュおよびフィルタのキャッシュについての JMX 情報は、borland.com/Frontend/TM の JMX measures (JMX 測定) ツリーにあります。

テストツリー キャッシュの測定

テストツリーのキャッシュに対しては、2 つの主要な測定を利用できます。TestPlanTreeCache は、現在キャッシュされているプロジェクトの数の測定のみを提供します (NumberOfCachedProjects)。プロジェクトのキャッシュについてのすべての詳細情報は、2 番目の測定から得ることができます (TestPlanTreeCache_0)。この測定は、実際には次の測定から構成されています。

測定	説明
Hits	データベースへの要求が行われず、キャッシュが使用された回数。
LastUpdateCheckDurationInMillis	前回の更新 (LastUpdateCheckTime を参照) で、データベース内の更新をチェックするためにかかった時間 (ミリ秒)。
LastUpdateCheckTime	前回の更新のチェックが発生した時間。

測定	説明
LastUpdateDurationInMillis	前回の更新 (<i>LastUpdateTime</i> を参照) で、変更が発生してからキャッシュを更新するまでにかかった時間 (ミリ秒)。
LastUpdateTime	テスト ツリー内での変更によって、最後にキャッシュの更新が発生した時間。
TreeInitializationTimeInMillis	プロジェクト ツリー全体をキャッシュにロードするためにかかった時間 (ミリ秒)。この値は、プロジェクト キャッシュがロードされている場合は変更されません。
TreeSize	プロジェクト内のテスト ノード (テスト コンテナ、テスト フォルダ、およびテスト) の数。
UpdateChecks	プロジェクト ツリーのキャッシュが初期化されてから、このプロジェクトの テスト ツリーに対して行われた変更をチェックした回数。
Updates	テスト ツリー内での変更によって、キャッシュされたツリーが更新された回数。


テスト フィルタ キャッシュの測定

TestPlanFilterCache 測定は、次の 3 つの測定から構成されています。

測定	説明
Hits	キャッシュが使用され、別個にデータベースに対するフィルタを実行する必要がなかった回数。
Misses	フィルタ キャッシュが使用されず、フィルタがデータベースに対して実行された回数。
Size	現在のキャッシュされたフィルタ結果の数。

LQM Reporting Updater についての JMX 測定

Test Manager では、基盤となる Java プロセスを監視するための JMX 読み取り測定、およびその他のプロセス固有の測定を提供しています。LQM Reporting Updater に関する JMX 情報は、borland.com/LQMReporting/TM の JMX measures (JMX 測定) ツリーにあるユーザーのアプリケーション サーバーの箇所にあります。

 **注:** これらの測定では、一般的な LQM Reporting Updater のみが測定されます。データベースの更新時に実行されるアップデートは測定されません。Silk Performance Explorer やその他のツールを使用して、これらの測定を追跡することができます。

LQM Reporting Updater を設定する

LQM レポート作成テーブルを更新するスレッド (LQM Reporting Updater) の間隔およびその他の設定を行う方法について説明します。LQM レポート作成テーブルの詳細については、『データベース モデル ヘルプ』を参照してください。

LQM Reporting Updater を設定するには：

1. アプリケーション サーバーを停止します。
2. TMApServerHomeConf.xml ファイルをテキスト エディタで開きます。
このファイルは、アプリケーション サーバー上の SilkCentral ディレクトリの /conf/appserver フォルダにあります。
3. LQMReporting という XML タグを探します。
次の設定を変更できます。

UpdateInterval	LQM レポート作成テーブルが最新のデータで更新される間隔を秒単位で定義します。
MSSqlUpdateBatchSize	同時に処理されるテスト テーブルの数。このバッチ サイズによって、アプリケーション サーバーで更新プロセスのために使用されるメモリとプロセッサリソースの量が決まります。この設定は、Microsoft SQL Server データベース専用です。
OracleUpdateBatchsize	<i>MSSqlUpdateBatchSize</i> と同様ですが、Oracle データベースの設定です。
QueryTimeout	LQM レポート作成の更新プロセスがタイムアウトになり、クエリが中止されるまでの時間を秒単位で指定します。0 または負の値を指定すると、クエリはタイムアウトしません。
OracleCheckForUpdateStrategy	更新プロセスがソース テーブルからデータを読み込む方法を決定します。指定できる値は、NOWAIT または WAIT です。 <ul style="list-style-type: none">• NOWAIT：更新プロセスがソース テーブルからデータを読み込もうとしたときに、他のプロセスがこれらのテーブルに書き込みをしている場合、更新プロセスは終了し、次回呼び出されたときに再試行します。• WAIT：更新プロセスは、テーブル ロックを取得し、他のプロセスがテーブルへのアクセスを終了するのを待って、ソース テーブルからデータを読み込みます。この設定の良い点は、更新プロセスが必ず実行されることです。テーブルのロックが解除されるのを待つ必要がありません。悪い点は、LQM 更新プロセスの後にテーブルにアクセスしようとする他のすべてのプロセスがブロックされ、更新プロセスがテーブル ロックを解除するまで待たなければならないことです。

4. XML ファイルを保存して閉じます。
5. アプリケーション サーバー サービスを再起動します。

レポート更新間隔を設定する

レポート アップデータの間隔を設定するには：


1. チャート サーバーを停止します。
2. SccChartServerBootConf.xml ファイルをテキスト エディタで開きます。

このファイルは、アプリケーション サーバー上の SilkCentral ディレクトリの /conf/chartserver フォルダにあります。

3. Options という XML タグを探します。
4. MaxCacheAge の値を変更して、レポートが最新のデータで更新される間隔を秒数で定義します。
5. XML ファイルを保存して閉じます。
6. チャート サーバー サービスを再起動します。

LQM Reporting Updater を監視するための JMX 測定

Test Manager では、基盤となる Java プロセスを監視するための JMX 読み取り測定、およびその他のプロセス固有の測定を提供しています。LQM Reporting Updater に関する JMX 情報は、borland.com/LQMReporting/TM の JMX measures (JMX 測定) ツリーにあるユーザーのアプリケーション サーバーの箇所にあります。

 **注:** これらの測定では、一般的な LQM Reporting Updater のみが測定されます。データベースの更新時に実行されるアップデータは測定されません。

LQM Reporting Updater 測定

次の測定を使用できます。

測定	説明
LastDataLoadResetTime	最後に LQM レポート作成テーブルのリセットが実行された時間を返します。この属性が NULL の場合、このプロセスでリセットが実行されたことがないことを示します。
LastRunFromDate	現在の更新サイクルの処理が開始された時間を返します。
LastRunToDate	現在の更新サイクルの処理が終了する時間を返します。
LastUpdatesNeededCheckDurationInMillis	前回の新しいデータまたは変更されたデータのチェックにかかった時間 (ミリ秒)。
LastTotalUpdateDurationInMillis	前回の更新の実行にかかった時間の合計。
LastUpdateFixedAttributesDurationInMillis	前回の修正された属性に対する更新にかかった時間。
LastDeleteDurationInMillis	削除済みノードを LQM レポート作成テーブルから削除するためにかかった時間。
LastDeleteTestsCnt	前回の実行で削除されたテストの数。
LastInsertLQMTestsDuration	LQM_Tests テーブルに新しいテストを挿入するためにかかった時間。
LastUpdatesNeededCheckOracleWaitForTableLocksDuration	Oracle では、更新されたテストをチェックするときに、特別な処理が必要です。場合により、他のプロセスがテスト テーブルに対するトランザクションを終了するまで待機する必要があります。これらのトランザクシ

測定	説明
LastInsertLQMTTestUDAsDuration	ンを待機した時間が、この属性で測定されます。 LQM_TestUDAs テーブルに新しいテストを挿入するためにかかった時間。
LastSelectChangedDataQueryDurationInMillis	変更されたデータを問い合わせるためにかかった時間。
LastUpdateTestsDurationInMillis	LQM_Tests テーブルのプロパティに対する前回の更新にかかった時間。

JMX 設定の調整

Test Manager では、JMX 設定の調整のために、デフォルト ポートが用意されています。

JMX 設定を調整することができる場所

デフォルト ポート上での通信は、デフォルトでは暗号化されておらず、つまり、SSL は動作していません。

設定	説明
Dcom.sun.management.jmxremote.ssl=false	SSL は、デフォルトでは false に設定されています。
Dcom.sun.management.jmxremote.authenticate=false	認証機能は、デフォルトでは false に設定されています。

JMX 設定は、次の場所で調整できます。

ロケーション	設定
アプリケーションサーバー	レジストリ キー：HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Apache Software Foundation ¥Procrun 2.0¥SCCAppServer¥Parameters¥Java Settings: 'Options' アプリケーションサーバーのデフォルトポート：Dcom.sun.management.jmxremote.port=19142
フロントエンドサーバー	レジストリ キー：HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Apache Software Foundation ¥Procrun 2.0¥SCCFrontendServer¥Parameters¥Java Settings: 'Options' フロントエンドサーバーのデフォルトポート：Dcom.sun.management.jmxremote.port=19140
実行サーバー	レジストリ キー：HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Apache Software Foundation ¥Procrun 2.0¥SCCExecServer¥Parameters¥Java Settings: 'Options' 実行サーバーのデフォルトポート：Dcom.sun.management.jmxremote.port=19144
チャートサーバー	レジストリ キー：HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Apache Software Foundation ¥Procrun 2.0¥SCCChartServer¥Parameters¥Java Settings: 'Options' チャートサーバーのデフォルトポート：Dcom.sun.management.jmxremote.port= 19146

実行サーバー ホスト名の解決

実行サーバーは、IP アドレスが変わると、もうアプリケーションサーバーから認識されなくなる可能性があります。アプリケーションサーバーを再起動すると、実行サーバーが再び認識されるはずですが。



Java では、キャッシュを用いてホスト名解決の結果を保存することで、DNS なりすまし攻撃を防ぎます。SilkCentral では、成功したホスト名解決の結果が永久にキャッシュされますが、これは、アプリケーション

ンサーバー上のファイル `java.security` を編集することで変更することができます。これにより、アプリケーションサーバーは、実行サーバーの IP アドレスが変わっても、それらを認識することができます。

この Java 設定の詳細については、<http://java.sun.com/j2se/1.5.0/docs/guide/net/properties.html> を参照してください。

ホスト名解決のキャッシュを無効にする

ホスト名解決がキャッシュされないように指定するには：

1. アプリケーションサーバーを停止します。
2. `java.security` ファイルをテキストエディタで開きます。
このファイルは、アプリケーションサーバー上の SilkCentral ディレクトリの `/lib/jre/lib/security` フォルダにあります。
3. 行 `#networkaddress.cache.ttl=-1` を探して `networkaddress.cache.ttl=0` に変更します。
 **注:** また、記号「#」を削除して、この行のコメント化を解除する必要もあります。
-  **注意:** これを行う際にセキュリティ面での懸念があるかもしれないので、変更を行う際には、事前にネットワーク管理者に確認をとってください。
4. ファイルを保存して閉じます。
5. アプリケーションサーバーサービスを再起動します。

Issue Manager 内の Test Manager のロケーションを設定する

Test Manager 内の Issue Manager のロケーションを設定する方法について説明します。これにより、Issue Manager の問題から Test Manager の関連するテストへのトレーサビリティが有効になります。トレーサビリティ機能の使用の詳細については、Issue Manager のドキュメントを参照してください。

Issue Manager 内の Test Manager のロケーションを設定するには：

1. フロントエンドサーバーを停止します。
2. `SRFrontendBootConf.xml` ファイルをテキストエディタで開きます。
このファイルは、フロントエンドサーバー上の SilkCentral ディレクトリの `/conf/frontendserver` フォルダにあります。
3. `Alm¥ElementServiceEndpoint` および `Alm¥LinkServiceEndpoint` という XML タグを探します。
4. 両方のタグのデフォルト値 `localhost:19120` を、ご使用の Test Manager インストールのホストおよびポート情報に置き換えます。
ご使用の Test Manager が Issue Manager と同じフロントエンドサーバーを使用しており、かつ Tomcat Web サーバーをデフォルトポートで使用している場合、デフォルト値のままにすることができます。
5. XML ファイルを保存して閉じます。
6. フロントエンドサーバーを再起動します。

実行サーバー上の使用されていないポートを無効にする

アプリケーションサーバーと実行サーバーの間で、SSL 通信または通常の（セキュアではない）通信のどちらを使用しているかによって、場合により使用されていないポートを無効にします。デフォルトの Tomcat ポートを無効にすることもできます。SilkCentral は、このポートを使用しません。

次の手順は、永続的な結果データの格納を有効にする実行サーバーごとに行う必要があります。

実行サーバー上の使用されていないポートを無効にするには：

1. 実行サーバーを停止します。
2. SccExecServerBootConf.xml ファイルをテキスト エディタで開きます。
このファイルは、実行サーバー上の SilkCentral ディレクトリの /conf/execserver フォルダにあります。
3. ファイルの RmiProxy セクションで InsecurePort および SSLPort という XML タグを探します。
4. アプリケーション サーバーと実行サーバーの間で、SSL 通信または通常の通信のどちらを使用しているかによって、次の設定を行います。

SSL 通信 InsecurePort の値を 0 に設定します。

通常の通信 SSLPort の値を 0 に設定します。

5. XML ファイルを保存して閉じます。
6. 実行サーバーを再起動します。

フロントエンド サーバー上の使用されていないポートを無効にする

使用されていない Tomcat ポートを無効にするには：

1. フロントエンド サーバーを停止します。
2. server.xml ファイルをテキスト エディタで開きます。
このファイルは、フロントエンド サーバー上の SilkCentral ディレクトリの /conf/frontendserver/conf フォルダにあります。
3. ファイルの最初の行にあるポート設定を <Server port="19132" shutdown="SHUTDOWN"> から <Server port="0" shutdown="SHUTDOWN"> に変更します。
4. XML ファイルを保存して閉じます。
5. フロントエンド サーバーを再起動します。

MRU レポートの最大数を設定する

最近使ったレポート リスト ボックスに表示される MRU レポートの最大数を設定するには：

1. SccFrontendBootconf.xml ファイルをテキスト エディタで開きます。
このファイルは、SilkCentral インストール フォルダの /conf/frontendserver フォルダにあります。
2. ファイルの <Report> セクションで <MRUListSize> というタグを探します。
このタグのデフォルト値は、10 です。
3. **最近使ったレポート** リスト ボックスに表示されるようにするレポートの最大数を示す値を設定します。
4. XML ファイルを保存して閉じます。

SilkCentral サーバーのメモリ設定

このセクションでは、out-of-memory エラーが発生した場合に、SilkCentral サーバーのメモリ設定を変更する方法について説明します。

SilkCentral フロントエンド サーバーおよびアプリケーション サーバーの Java ヒープ サイズは、デフォルトで 512 MB に設定されています。Test Manager でプロジェクトをコピーする場合などに out-of-

memory エラーが発生する場合は、フロントエンド サーバーまたはアプリケーション サーバーのヒープ サイズを 1024 MB 以上に増やしてみてください。

[java.lang.RuntimeException: java.lang.OutOfMemoryError: Java heap space at com.segue.scc.webgui.module.console.ProjectsUnit\$CopyProjectThread.run(ProjectUnit.java: 1473) Caused by: java.lang.OutOfMemoryError: Java heap space] というエラーが表示された場合は、Java のヒープ サイズが小さすぎることを示しています。このエラーは、フロントエンド サーバーまたはアプリケーション サーバーのログファイルに記録されます。同様の場合に、エラー メッセージ「システムの容量は限界に近づいています。安全のため、ユーザーはあらたにログインできません。」が表示されることがあります。このメッセージは、Test Manager にログインしようとする则表示されます。

SilkCentral サーバーの Java ヒープ サイズを大きくする


out-of-memory エラーが発生する場合に SilkCentral サーバーの Java ヒープ サイズを大きくします。フロントエンド サーバーまたはアプリケーション サーバーで Java ヒープ サイズを大きくするには：

1. すべての SilkCentral サービスを停止します。
2. **スタート > ファイル名を指定して実行** をクリックします。
3. **ファイル名を指定して実行** ダイアログ ボックスで、**名前** テキスト ボックスに regedit と入力します。
4. **OK** をクリックします。**レジストリ エディタ** が開きます。
5. メニュー ツリーから、オペレーティング システムおよびサーバー タイプに応じて次のいずれかのロケーションを選択します。


オペレーティング システムおよびサーバー ロケーション

32 ビット フロントエンド サーバー	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Apache Software Foundation¥Procrun 2.0¥SCCFrontendServer¥Parameters¥Java
32 ビット アプリケーション サーバー	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Apache Software Foundation¥Procrun 2.0¥SCCAppServer ¥Parameters¥Java
64 ビット フロントエンド サーバー	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE ¥Wow6432Node¥Apache Software Foundation ¥Procrun 2.0¥SCCFrontendServer¥Parameters¥Java
64 ビット アプリケーション サーバー	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE ¥Wow6432Node¥Apache Software Foundation ¥Procrun 2.0¥SCCAppServer¥Parameters¥Java

6. **JvmMx** をダブルクリックします。**DWORD 値の編集** ダイアログ ボックスが開きます。
7. **値のデータ** テキスト ボックスに 1024 と入力します。

 **注:** Java ヒープ サイズの値は、フロントエンド サーバー マシンで利用可能な物理 RAM を超えることはできません。また、他の必須プロセスが利用する十分なメモリを残しておく必要があります。たとえば、利用可能な RAM が 2 GB の場合は、他にどのようなプロセスが実行されているかに応じて、Java ヒープ サイズの値を 1.5 GB (**値のデータ** テキスト ボックスに 1536 と入力することに相当) まで増やすことができます。

8. ダイアログ ボックスの **表記** セクションで、**10 進** オプション ボタンをクリックします。

 **重要:** **表記** をデフォルト値の **16 進** のままにすると、メモリ オーバーフローが発生する場合があります。

9. すべての SilkCentral サービスを再起動します。

索引

B

BIRT

- インストールする 72
- 設定する 72
- データソースの設定 73
- データベース アクセスを確立する 73
- レポート テンプレートを導入する 74

C

Cookie の有効期間

- 調整 105

CVS リポジトリ

- PuTTY によってアクセスする 113

CVS リポジトリにアクセスする

- PuTTY プロファイルを作成する 114
- PuTTY を使用する 113

G

GUI レベルのテスト

- 実行サーバーの構成 108

H

HTML 応答の圧縮

- gzip 112
- 無効にする 112
- 有効にする 112

J

Java ヒープ サイズ

- 大きくする 122

JMX 設定

- 設定する 119

JMX 測定

- LQM Reporting Updater を監視 118
- LQM Reporting Updater 116

L

LDAP

- インテグレーション 33
- 認証 33

LDAP サーバー

- 削除する 35
- 接続のテスト 35
- 追加する 34
- ページ 35
- 編集する 34

LDAP サーバーの新規作成

- ダイアログ ボックス 36

LDAP サーバーの編集

- ダイアログ ボックス 36

LDAP 認証

- 混合モード 33
- 標準モード 33
- ロジック 33

LQM Reporting Updater

- JMX 測定 116

- 設定する 117

LQM レポート アップデータ

- 間隔を設定する 117

M

Manual Testing Client

- 概要 8

Microsoft SQL Server 2005

- TCP/IP プロトコルを有効にする 16, 27

MRU レポート

- 最大数を設定する 121

P

PuTTY プロファイルを作成する

- CVS リポジトリにアクセスする 114

S

Service Manager

- Windows プロセスとしての実行サーバーを起動する 108

- 個別サービスを起動する 107

- 個別サービスを停止する 107

- システム起動時のサービスを実行する 107

- 使用する 106

- すべてのサービスを起動する 107

- すべてのサービスを停止する 107

- ログ ファイルを表示する 109

SilkCentral

- アクセス 10

- ライセンス管理 10

SilkCentral Issue Manager

- 概要 10

SilkCentral 管理モジュール

- ようこそ 7

SilkMeter ライセンス サーバー

- 概要 8

SilkPerformer

- 負荷テスト エージェント クラスタ 37

SSL

- IIS とのセキュアな接続を設定する 10, 19

- IIS への証明書 の適用 12, 21

- Web サーバーとのセキュアな接続 19

- 証明書を作成する 11, 20

- 証明書を申請する 10, 20

SuperUser パスワード

- 変更する 30

T

Test Manager のロケーション

- Issue Manager で設定する 120

Tomcat
Web サーバーとのセキュアな接続を設定する 21

V

VersionOne
統合する 86
VMware Lab Manager サーバー
ページ 70
VMware Lab Manager
アクセスを設定する 69
概要 69
仮想構成 69
仮想実行サーバーを設定する 70

W

Web サーバーとのセキュアな接続
Tomcat を使用して設定する 21
Web サーバーとの接続
SSL 19
Web ブラウザ
ホスト名の表示 113
ホスト名を非表示にする 113
ホスト名を表示する 113

あ

アーキテクチャ
概要 8
アカウント
システム管理者 30
アクセス許可
管理 47
実行 45
手動実行計画 45
テスト 45
品質目標 46
プロジェクト 46
プロジェクト設定 46
問題 45
要件 44
ライブラリ 44, 46
レポート 46
ログ ファイル 47
アクセスする
監査ログ 79
リポジトリ 14, 25
アクティブにする
値リスト 97
個別の値 97
コンポーネント 89
実行サーバー 66
スケジュール 100
製品 92, 95
ビルド 87
プラットフォーム 90
プロジェクト 54
プロジェクト ベースライン 54
値

アクティブにする 97
削除する 98
非アクティブにする 97
編集する 97
値のリスト
設定ページ 98
値リスト
アクティブにする 97
値をソートする 98
概要 96
削除する 98
追加する 96
非アクティブにする 97
編集する 97
メンテナンスする 96
アップロードする
レポートテンプレート 76
アナリスト
ユーザー ロール 41
アプリケーション サーバー
IIS とのセキュアな接続を設定する 10, 19
概要 8
設定する 10
ロケーション 12, 23
ロケーションを指定する 12, 23
アプリケーション サーバー ログ
ページ 83
アプリケーションの設定
概要 41

い

インストールする
BIRT 72

う

疑わしい実行時間
設定する 109

え

エージェント コンピュータ
概要 8

お

応答の圧縮
HTML 112
大きくする
サーバーの Java ヒープ サイズ 122

か

概要
製品 8
ページ 19
[概要] ページ
使用する 19
カスタマイズする

- 日時の書式 112
- カスタム レポート
 - BIRT 72
 - ソフトウェア要件 72
- 仮想構成
 - Lab Manager 69
- 監査ログ
 - アクセスする 79
 - 概要 78
 - 機能 78
 - 表示する 79
 - ページ 79
- 管理する
 - コンポーネント 88
 - 製品 92
 - 製品とプラットフォーム 86
 - バージョン 95
 - ビルド 87
 - ファイル プール 102
 - プラットフォーム 90
 - プロジェクト 53
 - レポート テンプレート 71
 - ロケーション 60

き

- キーワード
 - 実行サーバー 63
 - 実行サーバーに割り当てる 65
- キャッシング
 - テストの JMX 測定 115

く

- グループ アカウント
 - 削除する 52
 - 作成する 51
 - 追加する 51
 - 編集する 52
 - メンテナンスする 51
- グループ設定
 - ページ 52

け

- 限定実行
 - スケジュールを作成する 101

こ

- 更新する
 - レポート テンプレートのソース 76
- 高度な設定
 - 設定する 105
- コピーする
 - プロジェクト 55
 - プロジェクト ベースライン 55
 - ユーザー ロール 43
- 個別サービスを起動する
 - Service Manager 107
- 個別サービスを停止する
 - Service Manager 107

- コンポーネント
 - アクティブにする 89
 - 管理する 88
 - 削除する 89
 - ソート リスト 89
 - 追加する 88
 - 非アクティブにする 89
 - 編集する 89

さ

- サーバー
 - Java ヒープ サイズを大きくする 122
 - メモリ設定 121
 - ログ ファイル 79
- サーバー ログ ファイル
 - 管理する 81
 - 削除する 81
 - 詳細レベル 81
 - 詳細レベルを変更する 81
 - ダウンロード 79
 - 分析する 80
- サービス
 - 概要 106
- 最大数を設定する
 - MRU レポート 121
- 削除する
 - LDAP サーバー 35
 - 値リスト 98
 - グループ アカウント 52
 - 個別の値 98
 - コンポーネント 89
 - サーバー ログ ファイル 81
 - 実行サーバー 66
 - スケジュール 100
 - 製品 93
 - バージョン 96
 - ビルド 88
 - プラットフォーム 91
 - プロジェクト 55
 - プロジェクト ベースライン 55
 - レポート テンプレート 77
 - ロケーション 61
- 作成する
 - 実行サーバーのキーワード 64
 - プロジェクト ベースライン 59
 - リポジトリ 13, 24

し

- 時刻の書式
 - カスタマイズする 112
- システム管理者
 - アカウント 30
 - パスワードを変更する 30
 - ユーザー ロール 41
- システムの設定
 - 概要 19
- システム プロキシ
 - 概要 39
 - 設定する 39

- ページ 40
- 実行サーバー
 - Windows プロセスとして起動する 108
 - アクティブにする 66
 - 概要 8
 - キーワード 63
 - キーワードを作成する 64
 - キーワードを割り当てる 65
 - 削除する 66
 - 使用されていないポートを無効にする 120
 - 使用する 106
 - 設定 63
 - ハードウェア プロビジョニング 63
 - 非アクティブにする 66
 - 標準ではない SSL ポートを設定する 67
 - 物理的な設定 64
 - ホスト名の解決 119
- 実行サーバーの新規作成
 - ダイアログ ボックス 67
- 実行サーバーの編集
 - ダイアログ ボックス 67
- 実行サーバー ログ
 - ページ 84
- 実行時間
 - 疑わしい 109
- 使用する
 - Service Manager 106
 - [概要] ページ 19
 - 実行サーバー 106
- 除外期間
 - スケジュール 101
- 書式
 - 日時 110

す

- スーパーユーザー
 - ユーザー ロール 41
- スケジュール
 - アクティブにする 100
 - 限定実行のスケジュールを作成する 101
 - 削除する 100
 - スケジュールの除外期間を作成する 101
 - 設定する 99
 - 設定ページ 101
 - 追加する 99
 - 非アクティブにする 100
 - 編集する 100
- スケジュールを作成する
 - 限定実行 101
 - 除外期間 101
- すべてのサービスを起動する
 - Service Manager 107
- すべてのサービスを停止する
 - Service Manager 107

せ

- 製品
 - アクティブにする 92, 95
 - 概要 8

- 管理する 92
- 削除する 93
- 設定ページ 93
- ソート リスト 93
- 追加する 92
- 非アクティブにする 92, 95
- 編集する 92
- セキュアな接続を設定する
 - Tomcat 21
- 切断する
 - リポジトリ 16, 27
- 設定する
 - BIRT 72
 - JMX 設定 119
 - Lab Manager での仮想実行サーバー 70
 - LQM Reporting Updater 117
 - LQM レポート アップデータの間隔 117
 - Test Manager のロケーション 120
 - アプリケーション サーバー 10
 - 疑わしい実行時間 109
 - 高度な設定 105
 - システム 19
 - 実行サーバーの標準ではない SSL ポート 67
 - スケジュール 99
 - レポートのアクセス許可 75
 - ログイン情報を保存するオプション 105

そ

- ソートする
 - 値リスト内の値 98
 - コンポーネント 89
 - 製品 93
 - バージョン 96
 - ビルド 87
 - プラットフォーム 91

た

- タイムゾーン
 - 概要 104
- ダウンロード
 - サーバー ログ ファイル 79
 - レポート テンプレート 75
- タグ付け
 - ビルド 88
- タスク管理ツール
 - 統合する 85

ち

- チャート サーバー
 - 概要 8
 - 追加する 31
 - ページ 32
 - 編集する 32
 - ロケーション 31

調整

- Cookie の有効期間 105

つ

- 追加する
 - LDAP サーバー 34
 - 値リスト 96
 - グループ アカウント 51
 - コンポーネント 88
 - スケジュール 99
 - 製品 92
 - チャート サーバー 31
 - バージョン 95
 - ビルド 87
 - プラットフォーム 90
 - プロジェクト 53
 - ユーザー ロール 42
 - ロケーション 60

て

- データ キャッシング
 - テスト 114
- データベース
 - BIRT レポート テンプレート 73
- データベース サーバー
 - 概要 8
- データベースの設定
 - ページ 16, 27
- テスト
 - LDAP サーバーへの接続 35
 - キャッシュを使用するための JMX 測定 115
 - データ キャッシング 114
- テスト管理者
 - ユーザー ロール 41
 - ようこそ 10
- テスト担当者
 - ユーザー ロール 41
- 電子メール通知
 - ページ 39

と

- 統合する
 - VersionOne 86
 - タスク管理ツール 85

に

- 日時
 - ユーザー定義の設定 110

は

- バージョン
 - 管理する 95
 - 削除する 96
 - ソート リスト 96
 - 追加する 95
 - 編集する 95

ひ

- 非アクティブにする
 - 値リスト 97
 - 個別の値 97
 - コンポーネント 89
 - 実行サーバー 66
 - スケジュール 100
 - 製品 92, 95
 - ビルド 87
 - プラットフォーム 90
 - プロジェクト 54
 - プロジェクト ベースライン 54
- 日付の書式
 - カスタマイズする 112
- 非表示にする
 - Web ブラウザでのホスト名 113
- 表示する
 - Web ブラウザでのホスト名 113
 - 監査ログ 79
- ビルド
 - アクティブにする 87
 - 管理する 87
 - 削除する 88
 - ソート リスト 87
 - タグ付け 88
 - 追加する 87
 - 非アクティブにする 87
 - 編集する 87

ふ

- ファイルのアップロード
 - ブラウザ 102
- ファイル プール
 - 管理する 102
 - ブラウザからのファイルのアップロード 102
 - ページ 103
- 負荷テスト エージェント クラスタ
 - SilkPerformer 37
 - アップロードする 37
 - 削除する 37
 - ページ 38
- 負荷テスト エージェント クラスタ ファイル
 - 削除する 37
 - 追加する 37
 - 変更する 37
 - 編集する 38
- ブラウザ駆動型テスト
 - 実行サーバーの構成 108
- プラットフォーム
 - アクティブにする 90
 - 管理する 90
 - 削除する 91
 - ソート リスト 91
 - 追加する 90
 - 非アクティブにする 90
 - 編集する 90
- プラットフォームの設定
 - ページ 91
- プロジェクト

- アクティブにする 54
- 管理する 53
- コピーする 55
- 削除する 55
- 追加する 53
- テンプレート 60
- 非アクティブにする 54
- 編集する 54
- プロジェクト管理者
 - ユーザー ロール 41
- プロジェクト設定
 - ページ 57
- プロジェクトのコピー
 - ダイアログ ボックス 56
- プロジェクト ベースライン
 - アクティブにする 54
 - 概要 58
 - コピーする 55
 - 削除する 55
 - 作成する 59
 - 非アクティブにする 54
 - 編集する 54
- フロントエンド サーバー
 - 概要 8
 - 使用されていないポートを無効にする 121
- フロントエンド サーバー ログ
 - ページ 82
- 分析する
 - サーバー ログ ファイル 80

へ

- ベースライン
 - プロジェクト 58
 - プロジェクト用に作成する 59
- 変更する
 - SuperUser パスワード 30
 - システム管理者アカウントのパスワード 30
- 編集する
 - LDAP サーバー 34
 - 値リスト 97
 - 個別の値 97
 - コンポーネント 89
 - スケジュール 100
 - 製品 92
 - チャート サーバー 32
 - バージョン 95
 - ビルド 87
 - プラットフォーム 90
 - プロジェクト 54
 - プロジェクト ベースライン 54
 - ユーザー ロール 42
 - レポートのアクセス許可 75
 - ロケーション 61

ほ

- 報告者
 - ユーザー ロール 41
- ポート

- 実行サーバー上の使用されていないポートを無効にする 120
- フロントエンド サーバー上の使用されていないポートを無効にする 121

- ホスト名
 - Web ブラウザで非表示にする 113
 - Web ブラウザで表示する 113
- ホスト名の解決
 - キャッシュを無効にする 120
- ホスト名の表示
 - Web ブラウザ 113

む

- 無効にする
 - HTML 応答の圧縮 112
 - 実行サーバー上の使用されていないポート 120
 - フロントエンド サーバー上の使用されていないポート 121
 - ホスト名解決のキャッシュ 120

め

- メール ホスト
 - ロケーション 38
- メール ホストのロケーション
 - 指定する 38
- メモリ設定
 - サーバー 121
- メンテナンスする
 - 値リスト 96

ゆ

- 有効にする
 - HTML 応答の圧縮 112
- ユーザー アカウント
 - グループを割り当てる 48
 - 削除する 49
 - 追加する 48
 - 編集する 49
 - メンテナンスする 48
 - ロールを割り当てる 48
- ユーザー アカウントとグループ アカウント
 - 概要 48
- ユーザーの設定
 - ページ 49
- ユーザー ロール
 - アクセス許可 44
 - コピーする 43
 - 削除する 43
 - 説明 41
 - 追加する 42
 - 編集する 42
- ユーザー ロールとアクセス許可
 - 概要 41

り

- リポジトリ

- ALM URI 15, 26
- ID 15, 26
- アクセスする 14, 25
- 概要 13, 24
- 作成する 13, 24
- 切断する 16, 27

れ

- レポート テンプレート
 - アクセス許可を設定する 75
 - アクセス許可を編集する 75
 - アップロードする 76
 - 管理する 71
 - 削除する 77
 - ソースを更新する 76
 - ダウンロード 75
 - データベース アクセスを確立する 73
 - ページ 77

ろ

- ロールの設定
 - ページ 43

- ログイン
 - Cookie の有効期間 105
 - 拡張オプション 105
 - 初回 29
 - ページ 30
 - ログイン情報を保存する 105
 - ログイン情報を保存するオプションを設定する 105
- ログイン オプション
 - Cookie の有効期間の調整 105
 - 拡張 105
 - ログイン情報を保存するオプションを設定する 105
- ログ ファイル
 - 管理する 81
 - サーバー 79
 - 詳細レベル 81
- ログ ファイルを表示する
 - Service Manager 109
- ロケーション
 - 管理する 60
 - 削除する 61
 - 追加する 60
 - 編集する 61
- ロケーションの新規作成
 - ダイアログ ボックス 62